

四日市大学COC事業 特定プロジェクト（C）
四日市大学成長スケールに基づく報告書

四日市大学COCプロジェクト（C）調査分析部会編

2019年03月

はじめに

本報告書は、四日市大学成長スケール（以下、成長スケール）についてのものである。

四日市大学は、2014年度に文部科学省 地（知）の拠点事業（Center of Community；以下、COC事業）に採択された。成長スケールは、このCOC事業に基づいて開発されたものである。四日市大学では、学生の成長を捉えるために、成長スケールに基づく調査を実施してきた。本報告書では、2014年度から2018年度までの、四日市大学による成長スケールへの取り組みと成果について述べている。

成長スケールは、「四日市大学の学生が、4年間の大学生活を通して、どのような点でどのくらい成長するのか」を示す規準・基準となる。成長スケールは、「三重県内の高等学校からの教育ニーズ」「三重県内の企業・団体等からの人材育成ニーズ」「教員の考える学生の成長」についての調査から作られている。つまり成長スケールには、「高校を卒業して大学で学び、社会人となる前に身につけて欲しいこと」「三重県四日市市にある大学で地域を通して学び考えて欲しいこと」が示されているのである。四日市大学では、この取り組みを通して、地域と大学が学生の成長について考え、一定の共通認識を持てるようにすることを目指している。

本報告書で述べられている知見は、三重県四日市市にある四日市大学での取り組みによるものである。この取り組みが地域・大学にとって役立つものであること、さらには、地域での学びや大学教育全般にとっても有益な知見であることを願っている。

目次

はじめに	(1)
第1章 大学生の成長	(5)
第2章 成長スケールの開発	(7)
第3章 成長スケールの構成	(9)
第4章 成長スケールの実施方法	(15)
第5章 成長スケールの結果①：全学年データ	(19)
第6章 成長スケールの結果②：学年別データ	(81)
第7章 学生と教員の面談およびその後の手続き	(117)
第8章 総合考察	(119)
付録	(123)
あとがき	(133)

第1章 大学生の成長

近年の大学教育では、大学生の成長を捉えることが重要な課題となっている。大学教育学会第37回大会（2015年6月6日（土）～7日（日）；会場：長崎大学文教キャンパス）では、大会の統一テーマ「ところで学生は本当に育っているだろうか？」が掲げられ、大学生の育ち、成長に関する様々なプログラムが開催された（大学教育学会第37回大会企画・実行委員会，2015）。

大学教育が、大学生の成長に改めて強い関心を寄せるようになった背景には、大学を取り巻く様々な環境の変化が考えられる。大きな転機の1つとされているのは、平成20年3月25日の文部科学省の中央教育審議会大学分科会制度・教育部会（2008）の「学士課程教育の構築に向けて（答申）」である。この答申では、全国の大学に学士課程（学部教育）の改革を求めており、大学の取り組みとして、「①幅広い学び等を保証し、『21世紀型市民』に相応しい『学習成果』の達成を ②学生が本気で学び、社会で通用する力を身に付けるよう、きめ細かな指導と厳格な成績評価を ③入学者受入れ方針を明確にし、高等学校段階の学習成果の適切な把握・評価を」の3つを挙げている（中央教育審議会大学分科会制度・教育部会，2008，p.7）。特に①では「『学習成果』重視の観点から、卒業までに学生がどのような能力を修得することを目指すかを、できるだけ具体的に示していくことが大切である（中央教育審議会大学分科会制度・教育部会，2008，p.7）」と述べている。こうした観点から、「学習（学修）成果の明確化」を目的としたルーブリック評価の導入といった試みが全国の大学で展開されている（藤木・川嶋・関田・芹澤・小林，2015；高森・川越・西村・橋本，2016）。

近年、大学の役割は多様化しており、社会からの要請に応えることも強く求められている。前掲の「学士課程教育の構築に向けて（答申）（中央教育審議会大学分科会制度・教育部会，2008）」も述べているように、それぞれの大学がどのような教育を行い、どのように学生が成長していくのか（育っていくのか）を示す必要性も指摘されている。それに大学が応えるためには、大学生の成長とは何かを捉え直す必要があり、教育に携わる大学教員が、大学生の成長をどのように考えているのかを検討することは、意義があると考えられる。

引用文献

- 中央教育審議会大学分科会制度・教育部会（2008）． 学士課程教育の構築に向けて（答申） 文部科学省
- 大学教育学会第37回大会企画・実行委員会（2015）． 大学教育学会第37回発表要旨集録 大学教育学会
- 藤木 清・川嶋 太津夫・関田 一彦・芹澤 高斉・小林 至道（2015）． ルーブリックの組織的導入と活用 大学教育学会第37回発表要旨集録，50-51.
- 高森 智嗣・川越 明日香・西村 君平・橋本 健夫（2016）． ルーブリックの多面的な活用—課題と展望— 大学教育学会第38回発表要旨集録，50-51.

本章の関連文献

- 齋藤 信（2017）． 大学生の成長に関する検討—大学教員の自由記述に基づいて— 四日市大学総合政策学部論集，16，25-38.

第2章 成長スケールの開発

成長スケール開発の取り組みは、以下の通りである。

1. 基礎データの収集

以下の調査を実施して、四日市大学成長スケールの基礎となるデータを収集した。

- (1) みえリーディング産業展 2014 における四日市大学人材ニーズ調査 (2014 年 11 月)
- (2) 教員を対象とした学生の成長に関する意識調査 (2015 年 1 月)
- (3) 三重県内高等学校を対象とした四日市大学に対するニーズ調査 (2015 年 2 月)
- (4) 三重県内の企業・団体等を対象とした四日市大学に対する企業等からのニーズ調査 (2015 年 3 月)

2. 人間像・成長指標の作成 (2015 年 10 月)

収集された基礎データから「三重県内の高等学校からの教育ニーズ」「三重県内の企業・団体等からの人材育成ニーズ」「教員の考える学生の成長」について分析した。学生の成長を可視化して測定するため、3 フィールドに分類される 11 項目の人間像・成長指標を抽出した。

3. 人間像・成長指標についての調査 (2015 年 11 月)

みえリーディング産業展 2015 における四日市大学人材ニーズ調査にて、11 項目の人間像・成長指標について、企業・団体等の評価を確認する調査を実施した。

4. 「成長スケール 2015 年度試行版」の実施 (2016 年 1 月)

- (1) 11 項目の人間像・成長指標を、ルーブリック評価の手法に基づき、成長の歩みによって「スタートライン」「Step 2」「Step 3」「Step 4」の 4 段階に分けた。
- (2) 成長指標ルーブリックに基づく調査票を作成して、「学生による成長の自己評価」「学生と教員の面談による成長の評価」を実施することにした。
- (3) 学内で協力が得られた教員・学生が実施・回答した。回答傾向、改善に向けた意見・感想を分析して、その後の改善に生かすことにした。

5. 全学での取り組みに向けた準備・検討 (2016 年 3 月)

学生の成長を可視化・測定するための先駆的な取り組みを行っている、関西国際大学の藤木 清氏を講演者として、学内で講演会を開催した。

このように、成長スケールは、三重県四日市市を中心とした地域の大学教育への要望を取り入れた上で、大学生の成長の測定で重視されているルーブリック評価の考え方と方法を用いたものとなっている。

本章の関連文献

齋藤 信 (2015) . 地域の産業界が大学生に求める能力や態度を把握する試み—三重県内の企業を対象とした四日市大学人材ニーズ調査— 四日市大学総合政策学部論集, 15, 39-50.

齋藤 信 (2016) . 地域の高等学校が大学に求めるもの—三重県内高等学校を対象とした四日市大学に対するニーズ調査— 四日市大学総合政策学部論集, 15, 129-145.

齋藤 信 (2016) . 地域の企業・団体が大学に求めるもの—三重県内の企業・団体を対象とした四日市大学に対するニーズ調査— 四日市大学総合政策学部論集, 16, 33-50.

齋藤 信 (2017) . 大学生の成長に関する検討—大学教員の自由記述に基づいて— 四日市大学総合政

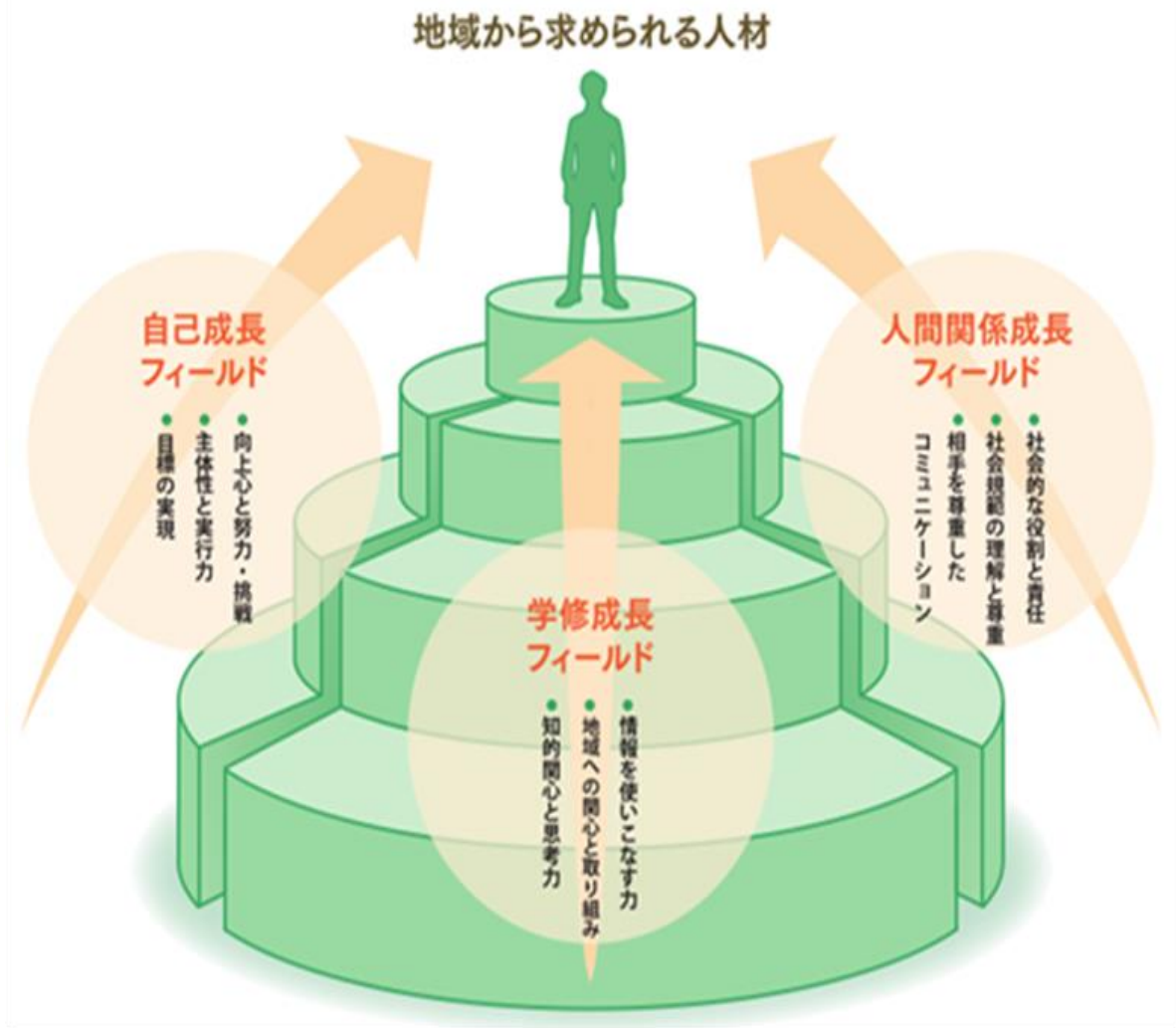
策学部論集, 16, 25-38.

齋藤 信 (2017) . 大学生の成長を捉えるための取り組み—四日市大学成長スケール 2015 年度試行版
の検討— 四日市大学論集, 30, 75-86.

第3章 成長スケールの構成

第2章の取り組みを経て開発されたのが、成長スケール2016年度作成版である。第3章では成長スケール2016年度作成版の構成と実施手続きについて述べる。以降の記述は、この成長スケール2016年度作成版についてのものとする。

成長指標とは、学生が成長して欲しい人間像を示したものである。第2章で述べた取り組みを経て、3フィールド9個の成長指標を設定した。



これら9個の成長指標をルーブリックの形にしたものが、成長指標ルーブリックである。ルーブリックとは、「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具」とされており (Stevens & Levi, 2013 佐藤監訳 井上・俣野訳 2014), アメリカの大学教育において、学習 (学修) 成果を測定するための有効な評価手法とされている (Walvoord, 2010 山崎・安野・関田 2013; Stevens & Levi, 2013 佐藤他訳 2014)。日本の大学においても導入が進められており、各大学独自のルーブリックを用いた、評価手法が構築されている (例えば、藤木・川嶋・関田・芹澤・小林, 2015; 高

森・川越・西村・橋本, 2016)。

四日市大学では、9個の成長指標を、大学生生活における成長の段階や方向性を考慮して4段階のルーブリックの形式にした。成長指標と成長指標ルーブリックは、成長スケールの根幹部分である。

引用文献

藤木 清・川嶋 太津夫・関田 一彦・芹澤 高斉・小林 至道 (2015) . ルーブリックの組織的導入と活用 大学教育学会第37回発表要旨集録, 50-51.

Stevens, D. D., & Levi, A. J. (2013) . *Introduction to rubrics: An assessment tool to save grading time, convey effective feedback, and promote student learning*. 2nd ed. Sterling: Stylus Publishing.

(スティーブンス, D. D., & レビ, A. J. 佐藤浩章 (監訳) 井上 敏憲・俣野 秀典 (訳) (2014) . 大学教員のためのルーブリック評価入門 玉川大学出版部)

高森 智嗣・川越 明日香・西村 君平・橋本 健夫 (2016) . ルーブリックの多面的な活用—課題と展望— 大学教育学会第38回発表要旨集録, 50-51.

Walvoord, B. E. (2010) . *Assessment clear and simple: A practical guide for institutions, departments, and general education*. 2nd ed. San Francisco: Jossey-Bass.

(ウォルワード, B. E. 山崎 めぐみ・安野 舞子・関田 一彦 (訳) (2013) . 大学教育アセスメント入門—学習成果を評価するための実践ガイド— ナカニシヤ出版)

四日市大学成長スケール 2016 年度版
成長指標ループリック

◆それぞれの項目を読んで、現在の自分に、最もあてはまると思うステップ 1 つに○をつけて下さい。さらに、ステップを選んだ理由として、自分の「考えていること、取り組んでいること」についても記入して下さい。

【成長指標 1】目標の実現：目標を持ち、実現しようとする人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標を持つことの大切さを理解している。	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標を <u>実際に持っている。</u>	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標のために、 <u>具体的に計画的な取り組みを行っている。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

【成長指標 2】主体性と実行力：自ら考え、実際に行動する人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、自分から行動することの大切さを理解している。	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、自分から <u>実際に行動している。</u>	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、 <u>他のメンバーと協力しながら、先頭に立って行動している。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

【成長指標 3】向上心と努力・挑戦：向上心を持ち、努力・挑戦しようとする人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくことの <u>大切さを理解している。</u>	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくために、 <u>実際に努力している。</u>	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくために、 <u>現状に満足せず新しいことに挑戦している。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

【成長指標 4】 知的関心と思考力：知的関心を持ち、考える力のある人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	人間と社会、自然環境、科学技術などについて、 <u>興味・関心を持つことができる。</u>	興味・関心を持ったことについて、 <u>自分で調べて、より深く知ろうとすることができる。</u>	問題意識を持ったことについて、 <u>論理的に思考することができる。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

* 「Step 2：人間と社会、自然環境、科学技術など…」は、1つの領域への興味・関心でも構いません。

【成長指標 5】 地域への関心と取り組み：地域に関心を持ち、地域での活動に取り組む人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	自分が生活している地域に、 <u>関心を持つことの大切さを理解している。</u>	地域の現状と課題について知るために、 <u>地域についての学びの機会に参加している。</u>	学内・学外の人々と協力しながら、 <u>地域の問題解決、地域貢献のプロジェクトに積極的に取り組んでいる。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

* 「地域」は三重県の日市に限らず、出身地や将来住むところをイメージして回答しても構いません。

【成長指標 6】 情報を使いこなす力：必要な情報・データを収集・選択して分析することができる人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	問題解決や課題に取り組む時に、 <u>様々な情報源から情報を収集することの大切さを理解している。</u>	収集した情報について、 <u>信頼性・客観性を見極めることの大切さを理解している。</u>	収集した情報について、 <u>信頼性・客観性を見極めながら、分析して結論を出すことができる。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

【成長指標 7】 相手を尊重したコミュニケーション：

相手を理解・尊重する姿勢を持ちながら、自分の意見を伝えて話し合うことができる人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	社会生活において、 <u>自分の意見を持ち、相手に伝えることを心がけている。</u>	社会生活において、 <u>相手の意見を聴きながら、自分の考えを伝えることを心がけている。</u>	社会生活において、 <u>互いの立場を考慮しながら、自分と相手双方にとってよりよい方法を見つけることを心がけている。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

*「社会生活において…」は仲間と話す場面だけではなく、発表、面接、ミーティングなどの場面もイメージして下さい。

【成長指標 8】 社会規範の理解と尊重：社会にある規範を守り、その意味を知って行動できる人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	法律・規則・マナー・礼儀などの、社会規範を知り、 <u>それらを守って行動することの大切さを理解している。</u>	社会規範には、 <u>理由や意味があり、それらを理解した上で行動することの大切さを理解している。</u>	社会規範の理由や意味を理解した上で、 <u>個人の幸福や社会の利益のために適切に運用することの大切さを理解している。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

【成長指標 9】 社会的な役割と責任：自分の役割を知り、責任感を持つ人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	社会生活の適切な関係において、 <u>与えられた課題や役割をこなすことを心がけている。</u>	与えられた課題や役割が、 <u>自分にとってどのような意味があるのかを考えながら取り組むことを心がけている。</u>	与えられた課題や役割の組織や社会にとっての <u>意味を考えて、責任感を持って取り組むことを心がけている。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

第4章 成長スケールの実施方法

1. 実施状況

表1は成長スケールの実施状況である。

成長スケールに参加したのは、四日市大学の全学年・全学部の学生である。それぞれの学生は各年度1回、成長スケールに参加する。入学から卒業までに、学生は5回（入学時点＝0年生，1年生，2年生，3年生，4年生＝卒業時点）参加することになる。

成長スケールには「学生の調査票回答」，「学生と教員の面談」があり，学生は両方に参加する。年度内の「学生による調査票回答」の実施機会は，0年生は4月（必修科目＝人間たれ），1年生と2年生は学年末の3月（新年度ガイダンス），3年生と4年生は12月（専門ゼミ）である。「学生による調査票回答」の後に，「学生と教員の面談」がある。0年生・1年生・2年生は前期のゼミ，3年生・4年生は後期のゼミで行われる。これらの手続きについては後述する。

表1が示す通り，全学年データ（横断的データ；斜めの矢印）と学年別データ（縦断的データ：横向きブロック矢印）が生成される。結果では，これらについて述べることとする。

表1 実施状況

入学年	項目	0年生	1年生	2年生	3年生	4年生
2018年度 入学生	学生の調査票回答	2018年4月				
	学生と教員の面談	1年生前期				
2017年度 入学生	学生の調査票回答	2017年4月	2018年3月			
	学生と教員の面談	1年生前期	2年生前期			
2016年度 入学生	学生の調査票回答	2016年9月	2017年3月	2018年3月		
	学生と教員の面談	1年生後期	2年生前期	3年生前期		
2015年度 入学生	学生の調査票回答	—	—	2017年3月	2017年12月	
	学生と教員の面談	—	—	3年生前期	3年生後期	
2014年度 入学生	学生の調査票回答	—	—	—	2016年12月	2017年12月
	学生と教員の面談	—	—	—	3年生後期	4年生後期

注) → : 全学年データ ➡ : 学年別データ

2. 調査内容

(1) 調査票（付録1）

以下の質問項目を「四日市大学成長スケール調査票」として，学生に回答を求めた。

①基本情報

- ・ 学籍番号
- ・ 氏名

・担当教員

②大学生活で取り組んでいる活動

- ・クラブ
- ・課外活動 地域活動
- ・アルバイト
- ・その他（語学習得、資格取得を目指した活動など）

これらの活動それぞれについて「1. あり 2. なし」の2個の選択枝から回答を求めた。さらにそれぞれの活動について、「記入欄：活動の名称（〇〇部，□□会），役職・係・ポジションなど，取り組みの内容・成果」に自由記述を求めた。

③将来の進路

以下の3個の選択枝から回答を求めた。

1. 具体的な方向性が決まっている
2. いくつかの方向性の中で迷っている
3. まだ方向性が決まっていない

さらに、「記入欄：業界・業種，勤務地，職種の希望など」に自由記述を求めた。

④成長指標と成長指標ループリック

9個の成長指標と成長指標ループリックについて、「それぞれの項目を読んで，現在の自分に，最もあてはまると思うステップ1つに○をつけて下さい。さらに，ステップを選んだ理由として，自分の『考えていること，取り組んでいること』についても記入して下さい。」と教示して Step の選択と自由記述を求めた。

(2) 面談用シート（付録2）

- ①大学生活で『成長できた』と思っていること
- ②大学生活で『もう少し成長したい』と思っていること
- ③大学生活で『これからがんばりたい』と思っていること（できれば具体的に）
- ④自由記述欄（感想・意見，大学生活での要望・質問，気になっていることなどがある場合）

これら4項目について自由記述を求めた。さらに末尾に，【教員記入欄】を設けた。

3. 調査手続き

(1) 学生の調査票回答

まず学生は，調査票と面談用シートに個別に回答した。回答に要する時間は，概ね20分前後であった。回答後の調査票と面談用シートは，教員が回収・保管した。調査票の回答は，学生の自己評価として位置づけられる。

(2) 学生と教員の面談

学生と教員の面談は，(1)に引き続いて行われる。面談は，学生の担当ゼミの教員（担当教員）が行う。四日市大学の学生は，全学年を通してゼミに所属しており，ゼミの教員が学生にとっての担当教員になる。担当教員には実施要領を配付して，調査票の選択枝の規準・基準や面談の実施方法について説明した。

学生と教員はアポイントをして個別面談を行う。面談では学生が回答した調査票と面談用シートを一緒に見ながら，それぞれの項目について回答や活動内容を話し合う。教員は，質問項目や選択枝の

意味、学生の考えや活動状況等を確認・考慮して、Stepの変更を提案する場合がある。こうした場合は、学生・教員の同意を得て、回答の変更が行われる場合がある。学生と教員の面談は、両者の評価の相互確認・確定として位置づけられる。

(3) 結果のとりまとめ

教員は学生との面談後、面談用シート末尾の教員用記入欄に学生の状況や教員から見た所感等を記入する。調査票の回答は、学生と教員が面談で相互確認・確定したものを最終的な回答とした。教員には、Excelの作業用ファイルをメールで配付して、調査票の結果を入力して、調査担当者に返信してもらうようにした。以下の第5章、第6章の結果は、これらを取りまとめて分析したものである。

第5章 成長スケールの結果①：全学年データ

第4章で述べた通り，成長スケールの実施から，全学年データ（横断的データ；斜めの矢印）と学年別データ（縦断的データ；横向きブロック矢印）が蓄積される（表1）。本章では全学年データの結果について述べる。なお前述の通り，これらの結果は，学生と教員が面談で相互確認・確定した最終的な回答に基づくものである。

1. 参加者と実施時期

表2は学年別・学部別，表3は学年別・性別，表4は学年別・日本人学生・留学生別における参加者と実施時期である。表2より参加者の学年別の平均年齢は，概ね学年に対応していることがわかる。表3より，男性が多く，女性が少ないことがわかる。そして，表4より，日本人学生が多く，留学生が少ないことがわかる。

表2 参加者と実施時期(学年別・学部別)

学年 (入学年度)	平均年齢	経済	環境情報	総合政策	合計	調査票回答	面談期間
0年生 (2018)	18.98	0	63	158	221	2018年4月	2018年5月まで
		0.0%	28.5%	71.5%	100.0%		
1年生 (2017)	20.44	0	66	113	179	2018年3月	2018年5月まで
		0.0%	36.9%	63.1%	100.0%		
2年生 (2016)	21.45	34	44	80	158	2018年3月	2018年5月まで
		21.5%	27.8%	50.6%	100.0%		
3年生 (2015)	22.17	26	44	67	137	2017年12月	2018年1月まで
		19.0%	32.1%	48.9%	100.0%		
4年生 (2014)	23.43	29	31	63	123	2017年12月	2018年1月まで
		23.6%	25.2%	51.2%	100.0%		
合計	20.98	89	248	481	818		
		10.9%	30.3%	58.8%	100.0%		

注) 調査票・面談の両方に参加しており，全ての項目に回答した参加者を結果報告の対象とした。

注) 2017年度以降の経済学部の入学生は，組織改編によって総合政策学部に含まれる形となっている。

表3 参加者と実施時期(学年別・性別)

学年 (入学年度)	男性	女性	合計	調査票回答	面談期間
0年生 (2018)	186	35	221	2018年4月	2018年5月まで
	84.2%	15.8%	100.0%		
1年生 (2017)	147	32	179	2018年3月	2018年5月まで
	82.1%	17.9%	100.0%		
2年生 (2016)	134	24	158	2018年3月	2018年5月まで
	84.8%	15.2%	100.0%		
3年生 (2015)	119	18	137	2017年12月	2018年1月まで
	86.9%	13.1%	100.0%		
4年生 (2014)	104	19	123	2017年12月	2018年1月まで
	84.6%	15.4%	100.0%		
合計	690	128	818		
	84.4%	15.6%	100.0%		

注) 調査票・面談の両方に参加しており、全ての項目に回答した参加者を結果報告の対象とした。

表4 参加者と実施時期(学年別・日本人学生 留学生別)

学年 (入学年度)	日本人学生	留学生	合計	調査票回答	面談期間
0年生 (2018)	167	54	221	2018年4月	2018年5月まで
	75.6%	24.4%	100.0%		
1年生 (2017)	130	49	179	2018年3月	2018年5月まで
	72.6%	27.4%	100.0%		
2年生 (2016)	121	37	158	2018年3月	2018年5月まで
	76.6%	23.4%	100.0%		
3年生 (2015)	103	34	137	2017年12月	2018年1月まで
	75.2%	24.8%	100.0%		
4年生 (2014)	93	30	123	2017年12月	2018年1月まで
	75.6%	24.4%	100.0%		
合計	614	204	818		
	75.1%	24.9%	100.0%		

注) 調査票・面談の両方に参加しており、全ての項目に回答した参加者を結果報告の対象とした。

2. 大学生生活で取り組んでいる活動

大学生生活で取り組んでいる活動について、以下に述べる。これらについては、学年別・学部別の表とそれらに関するグラフ（実数と%）で示す。

(1) クラブ

【クラブ】には、スポーツ系と文化系の活動が含まれる。【クラブ】は参加者の52.2%が取り組んでおり、約半数の学生が取り組んでいることがわかる（表5, 表6）。

表5 クラブ(学年別・全学部)

学年	あり	なし	合計
0年生	114	107	221
	51.6%	48.4%	100.0%
1年生	87	92	179
	48.6%	51.4%	100.0%
2年生	81	77	158
	51.3%	48.7%	100.0%
3年生	81	56	137
	59.1%	40.9%	100.0%
4年生	64	59	123
	52.0%	48.0%	100.0%
合計	427	391	818
	52.2%	47.8%	100.0%

表6 クラブ(全学年・学部別)

学部	あり	なし	合計
経済	19	70	89
	21.3%	78.7%	100.0%
環境情報	68	180	248
	27.4%	72.6%	100.0%
総合政策	340	141	481
	70.7%	29.3%	100.0%
合計	427	391	818
	52.2%	47.8%	100.0%

図5-1 クラブ(学年別・全学部)

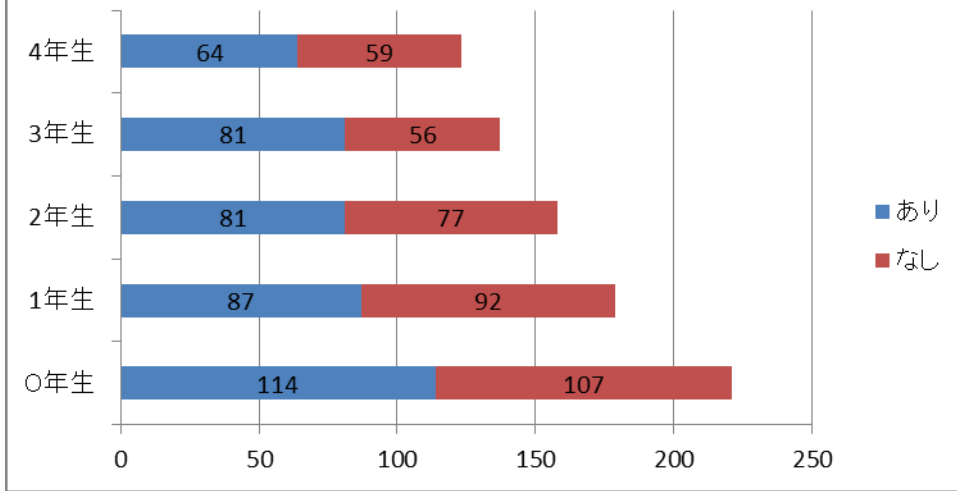


図5-2 クラブ(学年別・全学部)(%)

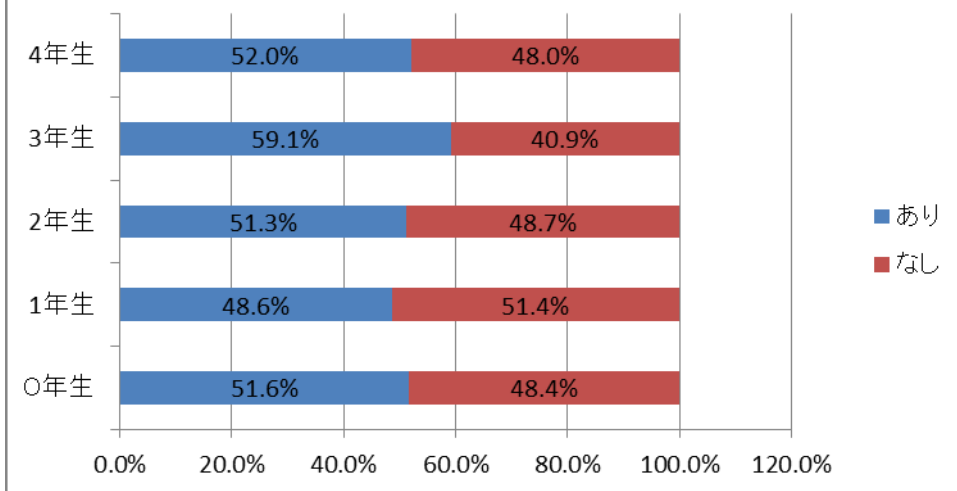


図6-1 クラブの回答(全学年・学部別)

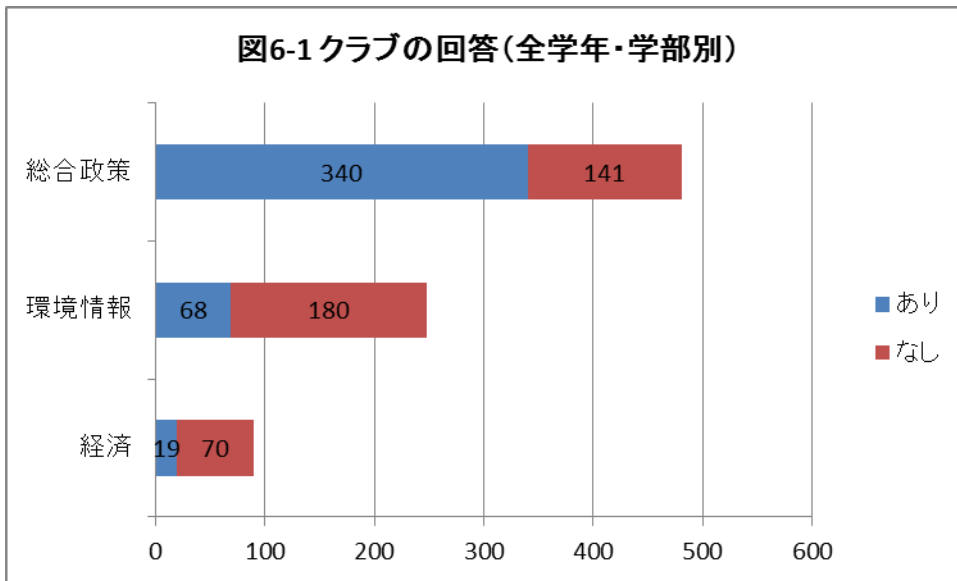
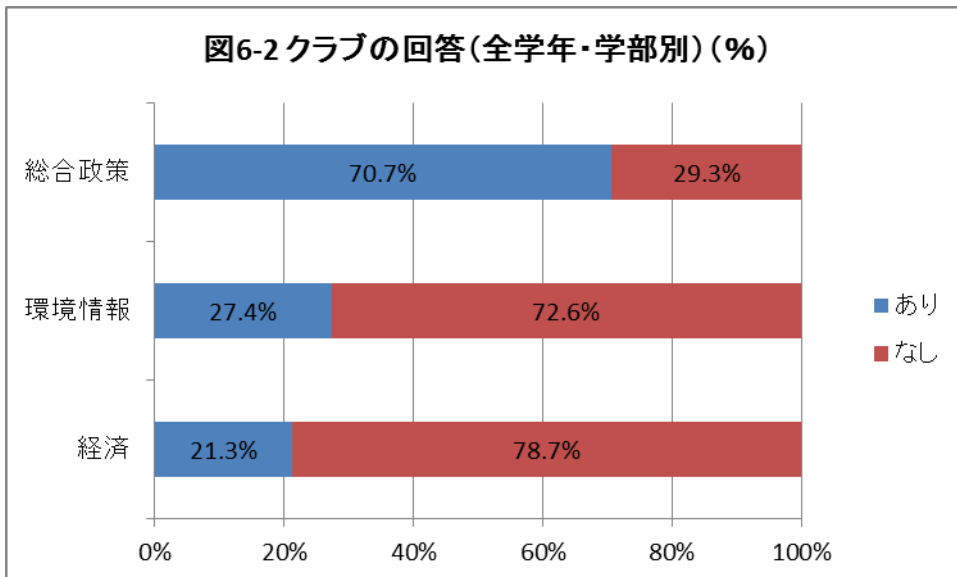


図6-2 クラブの回答(全学年・学部別)(%)



(2) 課外活動 地域活動

【課外活動 地域活動】には、学内の委員会（例えば、大学祭実行委員）や地域でのボランティアの活動が含まれる。【課外活動 地域活動】は参加者の15.3%が取り組んでおり、取り組んでいる学生が少ない活動であることがわかる（表7，表8）。

表7 課外活動 地域活動(学年別・全学部)

学年	あり	なし	合計
0年生	12	209	221
	5.4%	94.6%	100.0%
1年生	36	143	179
	20.1%	79.9%	100.0%
2年生	32	126	158
	20.3%	79.7%	100.0%
3年生	30	107	137
	21.9%	78.1%	100.0%
4年生	15	108	123
	12.2%	87.8%	100.0%
合計	125	693	818
	15.3%	84.7%	100.0%

表8 課外活動 地域活動(全学年・学部別)

学部	あり	なし	合計
経済	22	67	89
	24.7%	75.3%	100.0%
環境情報	45	203	248
	18.1%	81.9%	100.0%
総合政策	58	423	481
	12.1%	87.9%	100.0%
合計	125	693	818
	15.3%	84.7%	100.0%

図7-1 課外活動 地域活動(学年別・全学部)

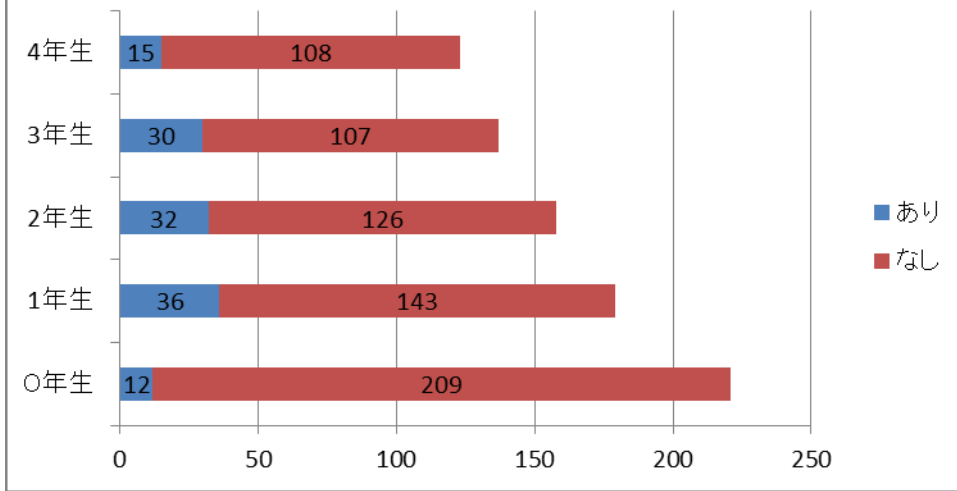


図7-2 課外活動 地域活動(学年別・全学部)(%)

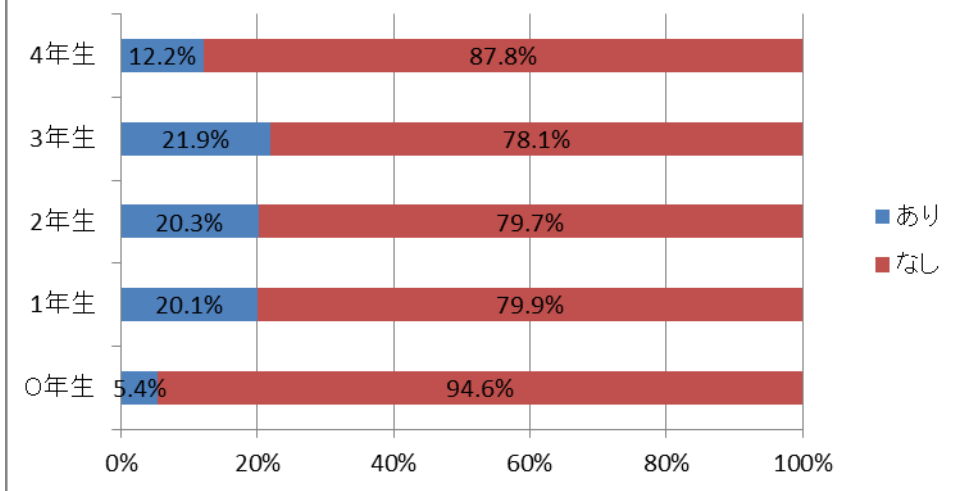


図8-1 課外活動 地域活動(全学年・学部別)

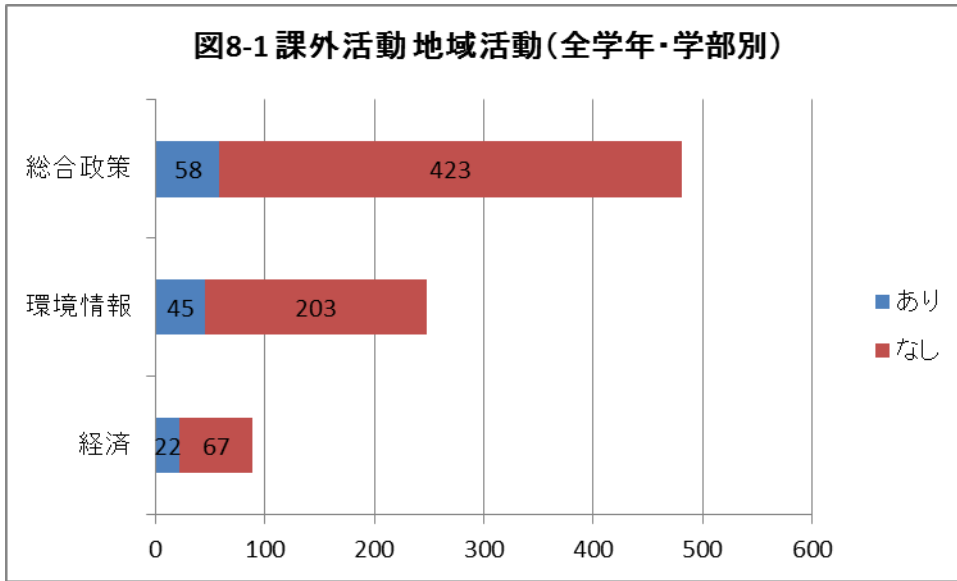
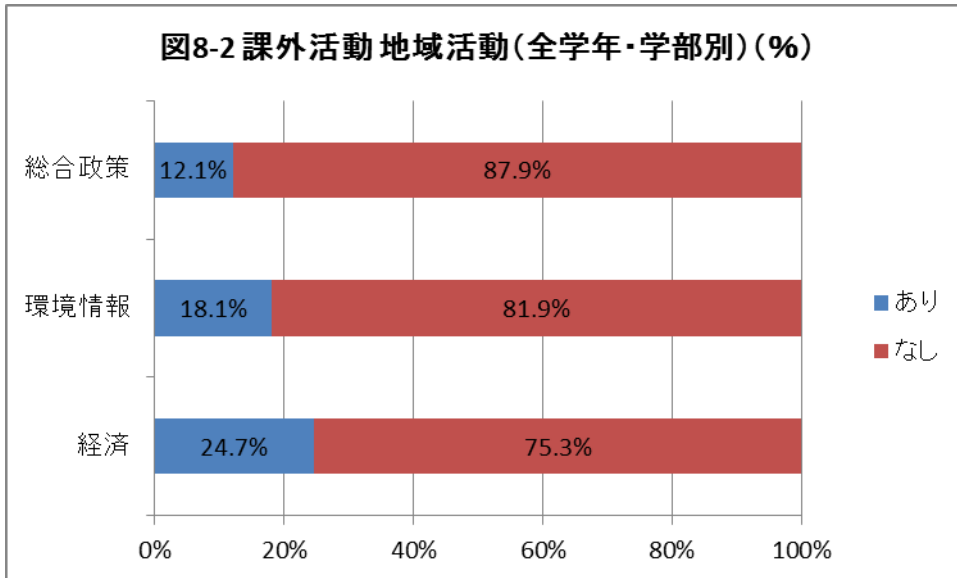


図8-2 課外活動 地域活動(全学年・学部別)(%)



(3) アルバイト

【アルバイト】は、学生が学外で正規の職以外で雇用されているものである。【アルバイト】は参加者の77%が取り組んでおり、取り組んでいる学生が多い活動であることがわかる(表9, 表10)。

表9 アルバイト(学年別・全学部)

学年	あり	なし	合計
0年生	120	101	221
	54.3%	45.7%	100.0%
1年生	140	39	179
	78.2%	21.8%	100.0%
2年生	138	20	158
	87.3%	12.7%	100.0%
3年生	123	14	137
	89.8%	10.2%	100.0%
4年生	109	14	123
	88.6%	11.4%	100.0%
合計	630	188	818
	77.0%	23.0%	100.0%

表10 アルバイト(全学年・学部別)

学部	あり	なし	合計
経済	79	10	89
	88.8%	11.2%	100.0%
環境情報	178	70	248
	71.8%	28.2%	100.0%
総合政策	373	108	481
	77.5%	22.5%	100.0%
合計	630	188	818
	77.0%	23.0%	100.0%

図9-1 アルバイト(学年別・全学部)

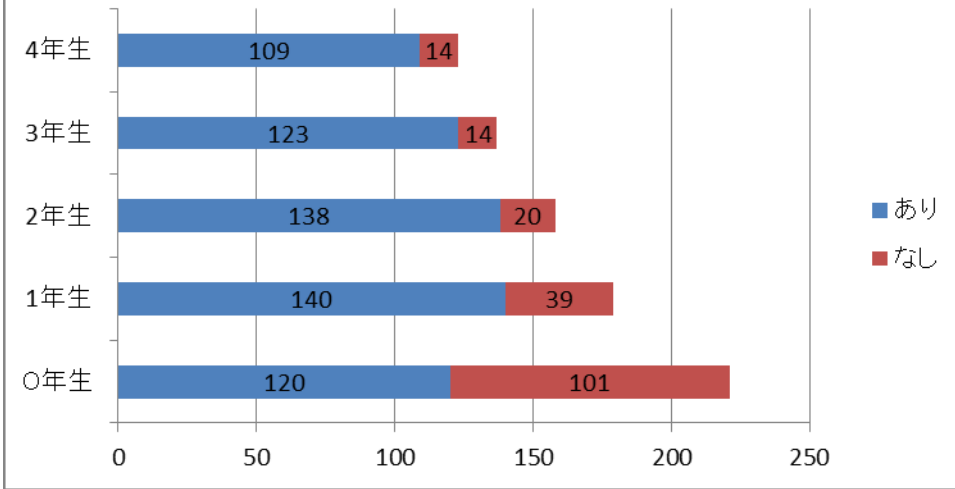


図9-2 アルバイト(学年別・全学部)(%)

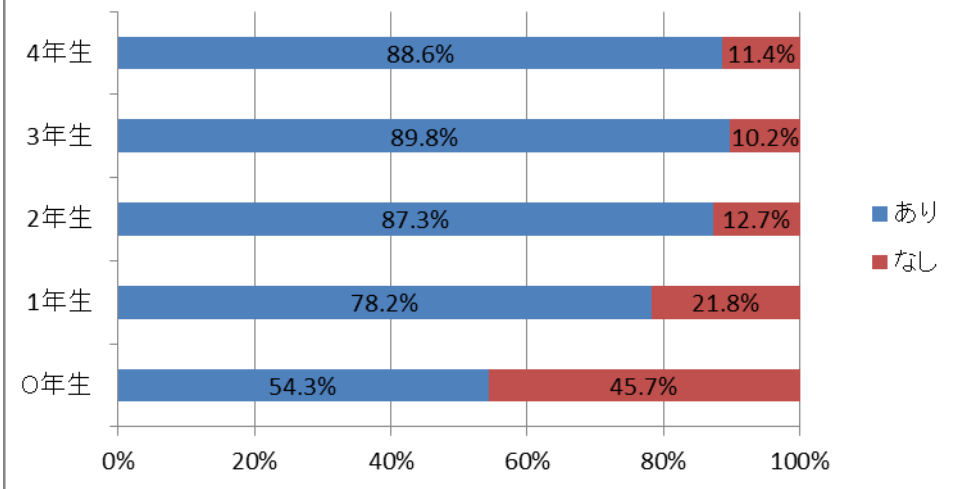


図10-1 アルバイト(全学年・学部別)

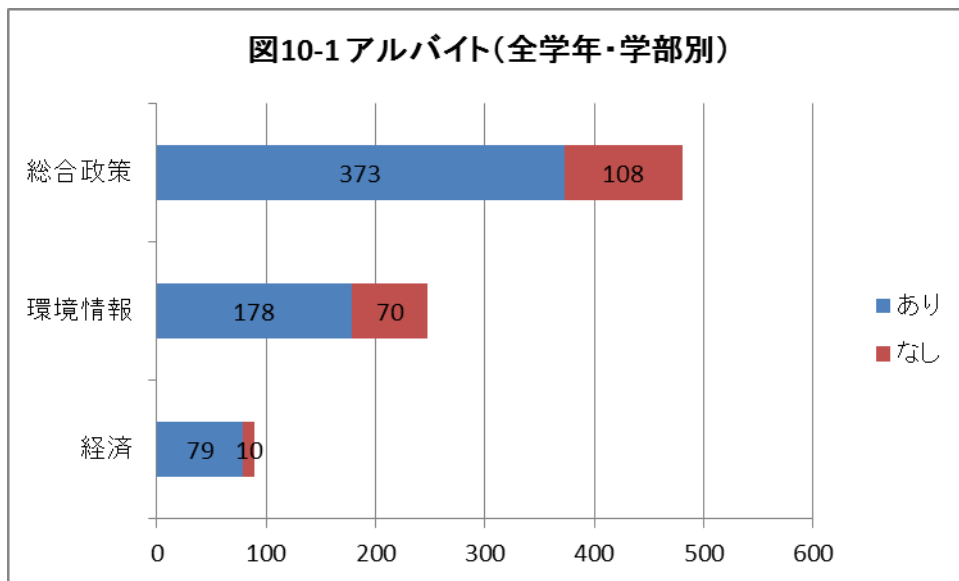
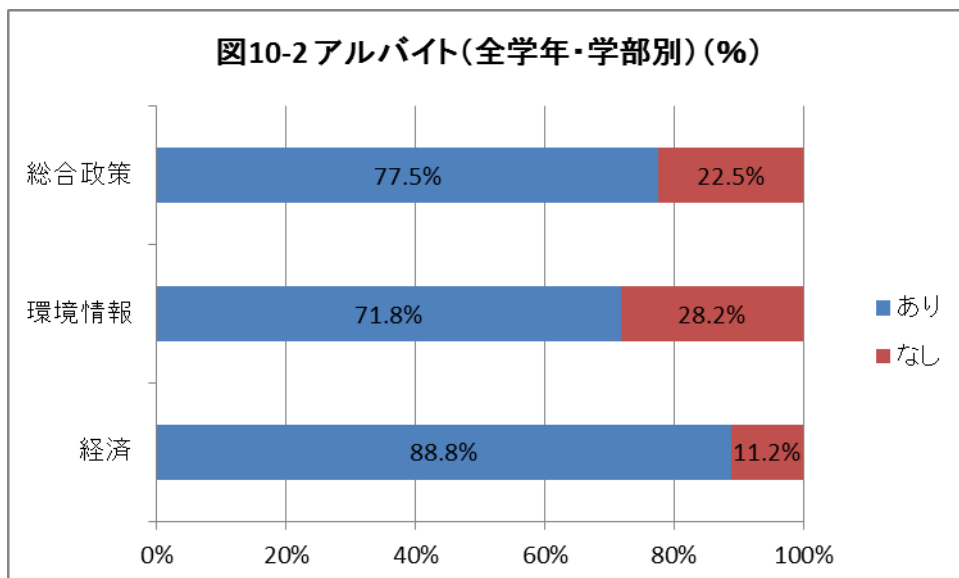


図10-2 アルバイト(全学年・学部別)(%)



(4) その他

【その他】は、語学習得や資格取得に向けた活動である。【その他】は参加者の27%の学生が取り組んでおり、取り組んでいる学生が少ない活動であることわかる(表11, 表12)。

表11 その他(学年別・全学部)

学年	あり	なし	合計
0年生	40	181	221
	18.1%	81.9%	100.0%
1年生	44	135	179
	24.6%	75.4%	100.0%
2年生	50	108	158
	31.6%	68.4%	100.0%
3年生	52	85	137
	38.0%	62.0%	100.0%
4年生	35	88	123
	28.5%	71.5%	100.0%
合計	221	597	818
	27.0%	73.0%	100.0%

表12 その他(全学年・学部別)

学部	あり	なし	合計
経済	36	53	89
	40.4%	59.6%	100.0%
環境情報	69	179	248
	27.8%	72.2%	100.0%
総合政策	116	365	481
	24.1%	75.9%	100.0%
合計	221	597	818
	27.0%	73.0%	100.0%

図11-1 その他(学年別・全学部)

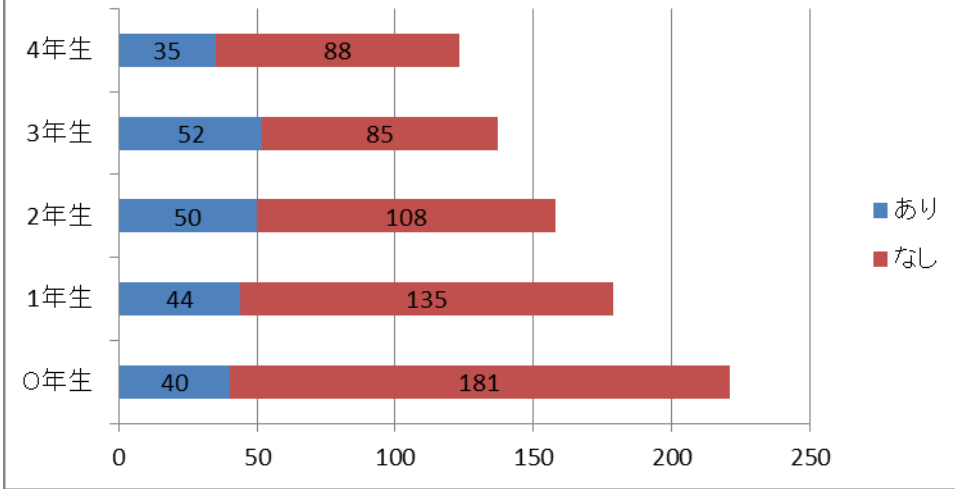


図11-2 その他(学年別・全学部)(%)

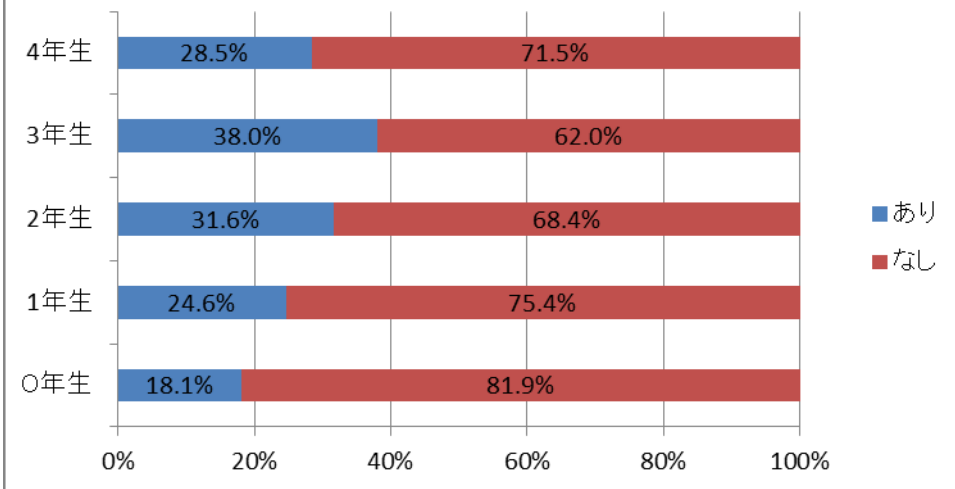


図12-1 その他(全学年・学部別)

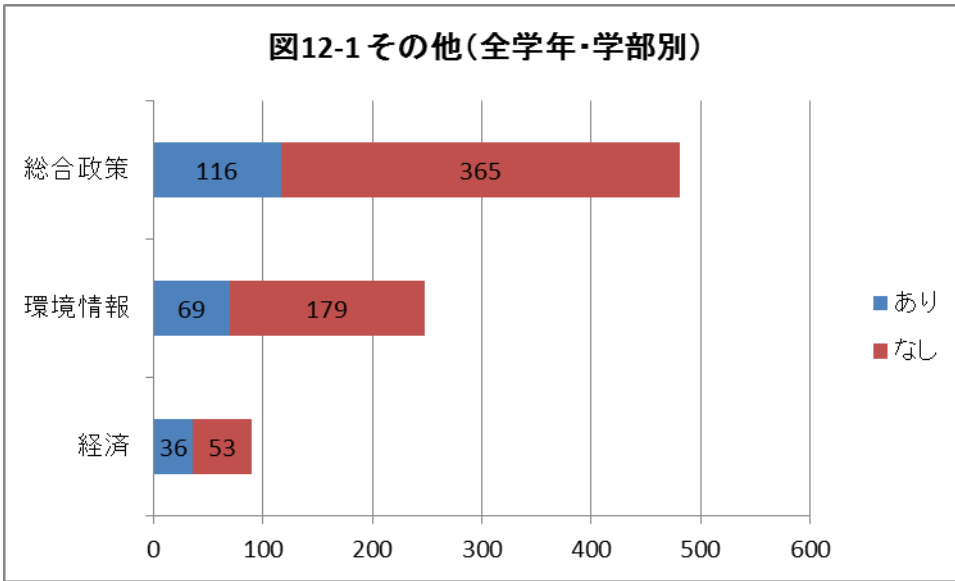
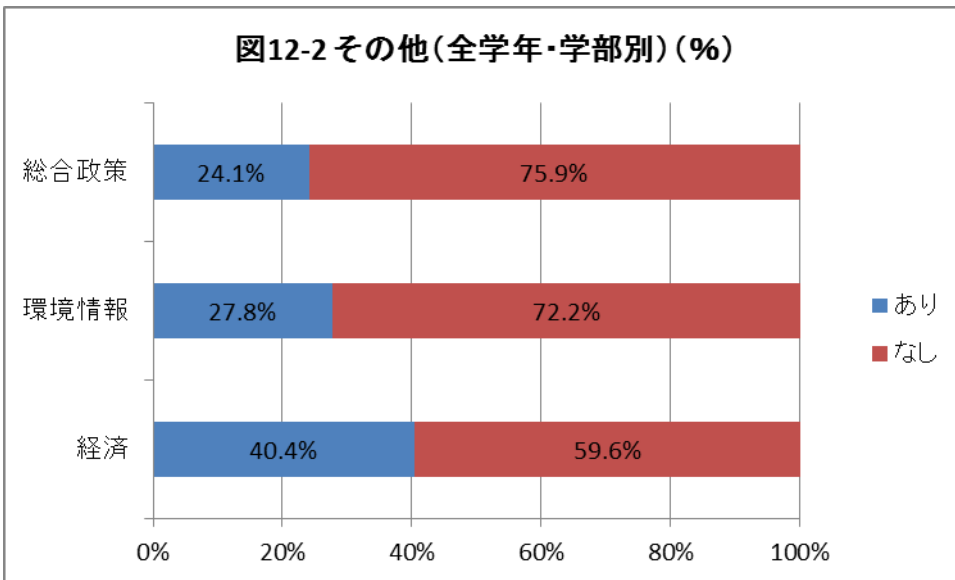


図12-2 その他(全学年・学部別)(%)



3. 将来の進路

将来の進路について、以下に述べる。これについては、学年別・学部別の表とそれらに関するグラフ(実数と%)で示す。学年別の結果を見てみると、学年が上がるにつれて、「具体的な方向性が決まっている」の割合が増加して、「まだ方向性が決まっていない」の割合が減少していくことがわかる(表13, 図13)。

表13 将来の進路(学年別・全学部)

学年	具体的な方向性が決まっている	いくつかの方向性の中で迷っている	まだ方向性が決まっていない	合計
0年生	69	59	93	221
	31.2%	26.7%	42.1%	100.0%
1年生	48	61	70	179
	26.8%	34.1%	39.1%	100.0%
2年生	33	65	60	158
	20.9%	41.1%	38.0%	100.0%
3年生	46	68	23	137
	33.6%	49.6%	16.8%	100.0%
4年生	98	18	7	123
	79.7%	14.6%	5.7%	100.0%
合計	294	271	253	818
	35.9%	33.1%	30.9%	100.0%

表14 将来の進路(全学年・学部別)

学部	具体的な方向性が決まっている	いくつかの方向性の中で迷っている	まだ方向性が決まっていない	合計
経済	42	28	19	89
	47.2%	31.5%	21.3%	100.0%
環境情報	93	89	66	248
	37.5%	35.9%	26.6%	100.0%
総合政策	159	154	168	481
	33.1%	32.0%	34.9%	100.0%
合計	294	271	253	818
	35.9%	33.1%	30.9%	100.0%

図13-1 将来の進路(学年別・全学部)

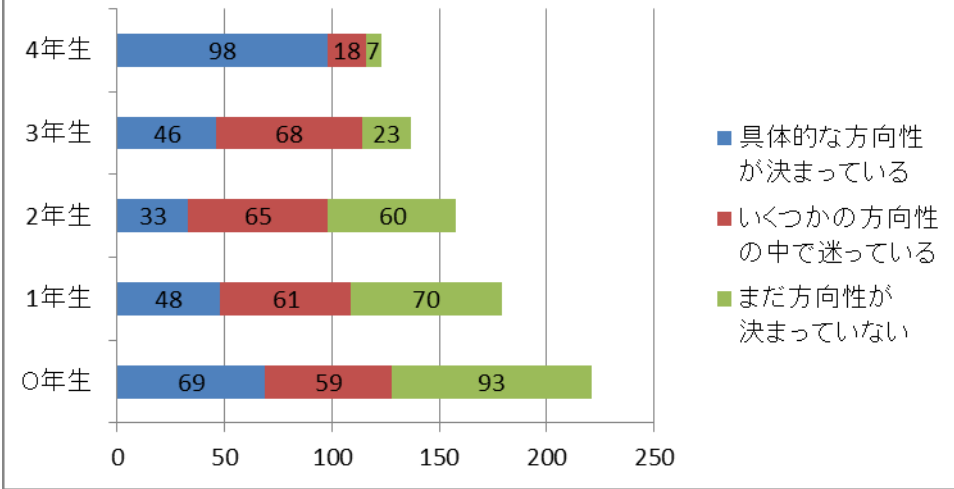


図13-2 将来の進路(学年別・全学部)(%)

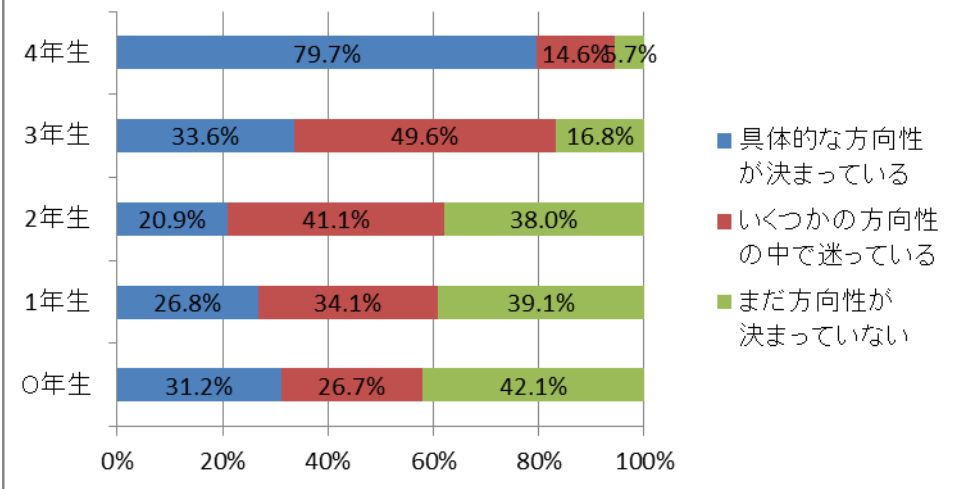


図14-1 将来の進路(全学年・学部別)

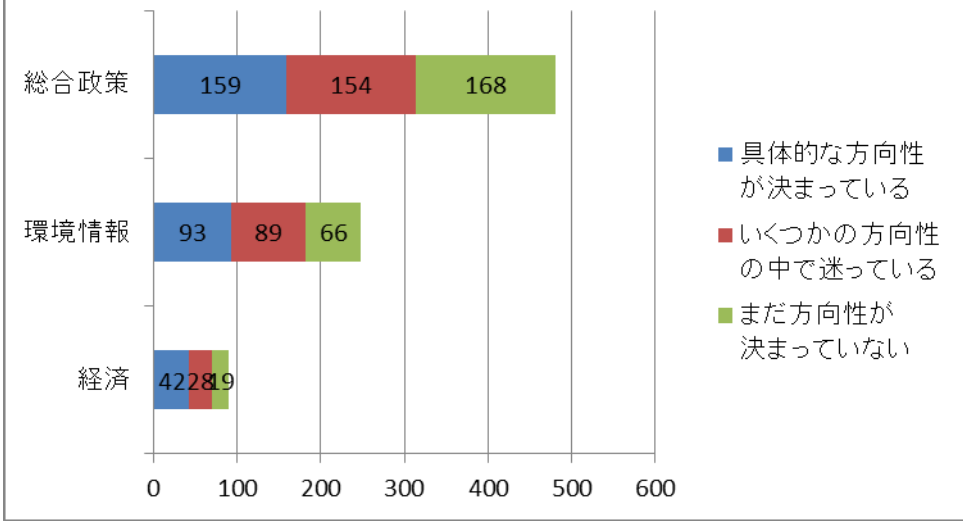
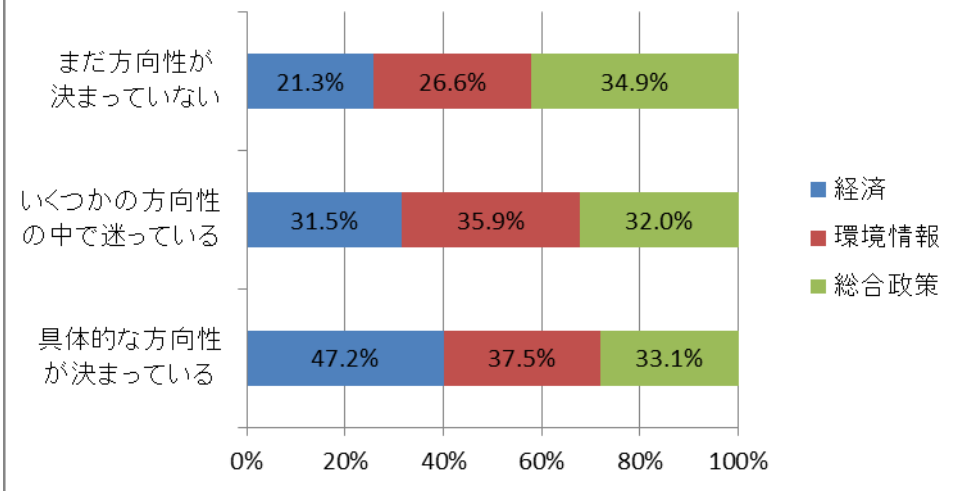


図14-2 将来の進路(全学年・学部別)(%)



4. 成長指標

成長指標の回答について、以下に述べる。これらについては、成長指標全体・成長指標個別に分けて、学年別・学部別の表とそれらに関するグラフ（実数と%）で示す。

(1) 成長指標全体

全学年・全学部の結果における成長指標9個の平均値を見ると、Step 1とStep 2、Step 3とStep 4それぞれを合わせた割合は、ほぼ同じである（表15、図15）。Step 3とStep 4を合わせた割合が最も高かったのは、【相手を尊重したコミュニケーション】、次いで【向上心と努力・挑戦】、【社会規範の理解と尊重】であった。一方、Step 3とStep 4を合わせた割合が最も低かったのは、【地域への関心と貢献】であった。

ここから多くの学生が成長を実感しているのが【相手を尊重したコミュニケーション】、【向上心と努

力・挑戦】，【社会規範の理解と尊重】，反対に多くの学生が成長を実感することが難しいのが，【地域への関心と貢献】であることがわかる。

表15 成長指標全体(全学年・全学部)

成長指標	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
目標	100	294	323	101	818
	12.2%	35.9%	39.5%	12.3%	100.0%
主体性	87	287	320	124	818
	10.6%	35.1%	39.1%	15.2%	100.0%
向上心	65	268	340	145	818
	7.9%	32.8%	41.6%	17.7%	100.0%
知的関心	125	266	370	57	818
	15.3%	32.5%	45.2%	7.0%	100.0%
地域	202	404	155	57	818
	24.7%	49.4%	18.9%	7.0%	100.0%
情報	126	262	331	99	818
	15.4%	32.0%	40.5%	12.1%	100.0%
コミュ	74	167	371	206	818
	9.0%	20.4%	45.4%	25.2%	100.0%
社会規範	26	323	358	111	818
	3.2%	39.5%	43.8%	13.6%	100.0%
役割責任	82	323	251	162	818
	10.0%	39.5%	30.7%	19.8%	100.0%
平均値	98.6	288.2	313.2	118.0	818.0
	12.0%	35.2%	38.3%	14.4%	100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

図15-1 成長指標全体(全学年・全学部)

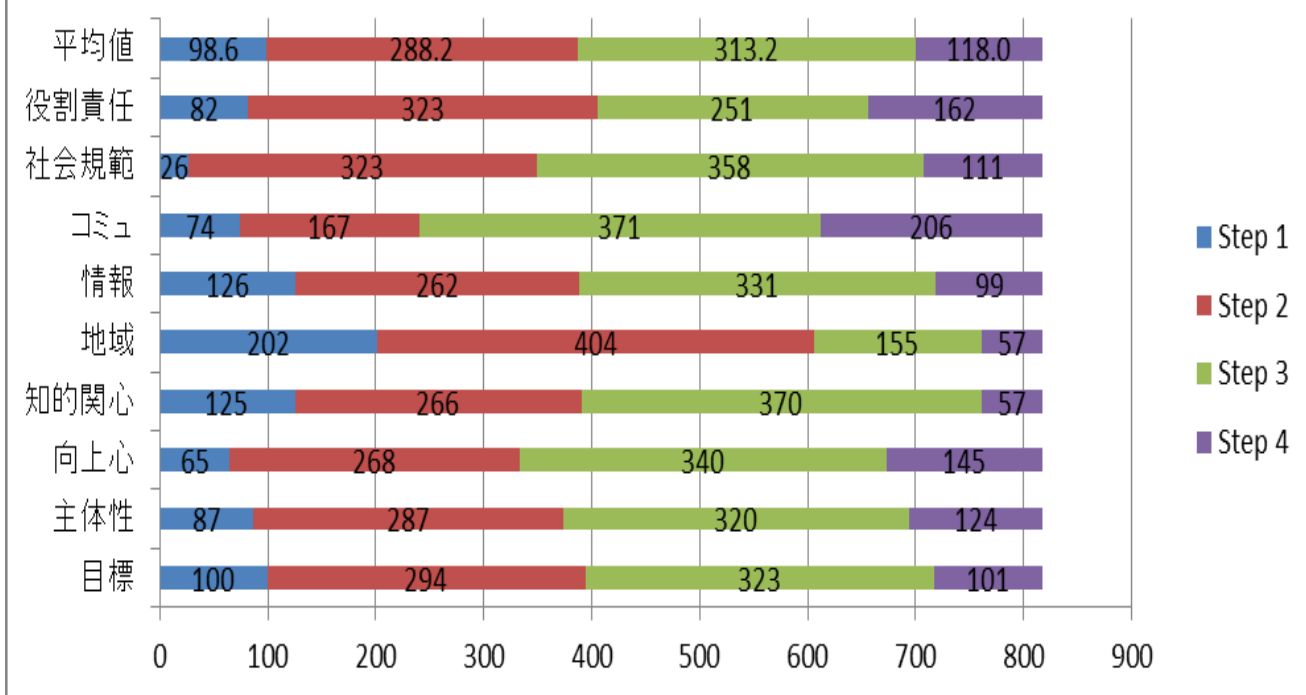


図15-2 成長指標全体(全学年・全学部)(%)

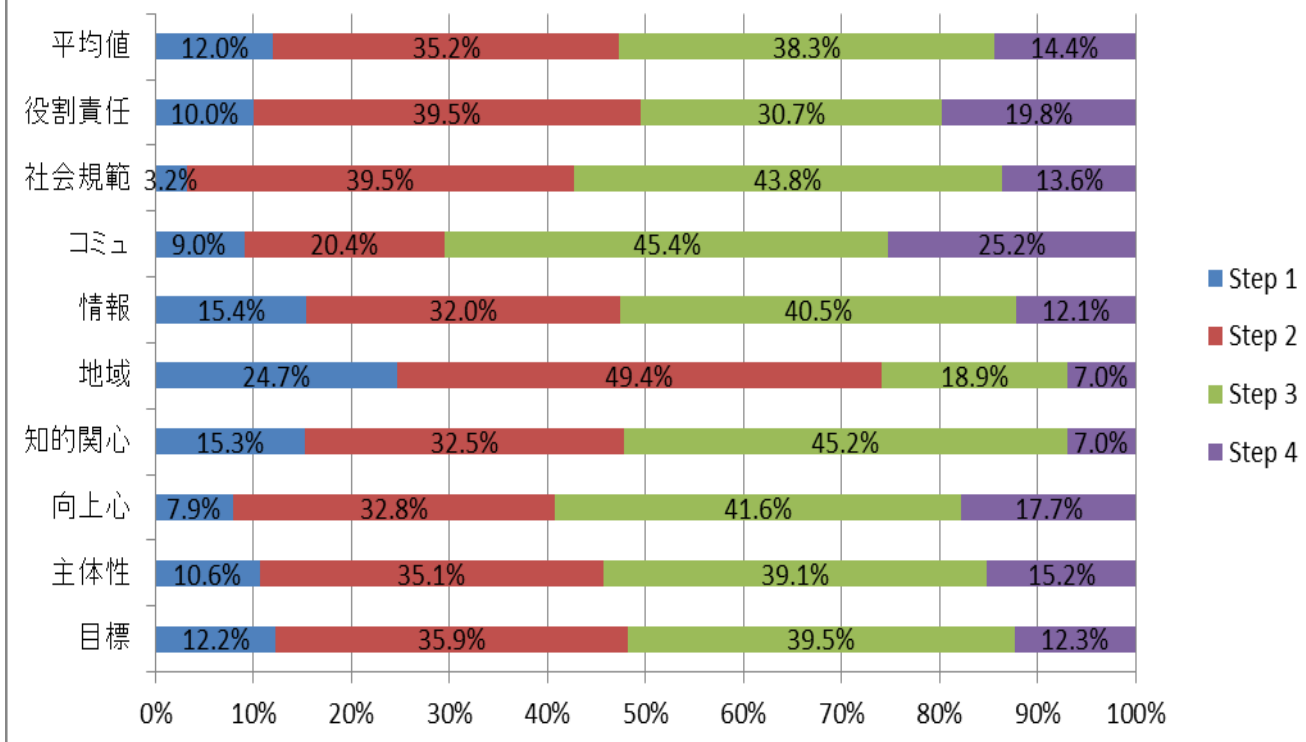


表16 成長指標全体(全学年・経済学部)

成長指標	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
目標	7	27	40	15	89
	7.9%	30.3%	44.9%	16.9%	100.0%
主体性	4	30	38	17	89
	4.5%	33.7%	42.7%	19.1%	100.0%
向上心	3	35	36	15	89
	3.4%	39.3%	40.4%	16.9%	100.0%
知的関心	5	24	48	12	89
	5.6%	27.0%	53.9%	13.5%	100.0%
地域	13	42	26	8	89
	14.6%	47.2%	29.2%	9.0%	100.0%
情報	3	21	45	20	89
	3.4%	23.6%	50.6%	22.5%	100.0%
コミュ	1	14	40	34	89
	1.1%	15.7%	44.9%	38.2%	100.0%
社会規範	1	35	38	15	89
	1.1%	39.3%	42.7%	16.9%	100.0%
役割責任	2	26	36	25	89
	2.2%	29.2%	40.4%	28.1%	100.0%
平均値	4.3	28.2	38.6	17.9	89.0
	4.9%	31.7%	43.3%	20.1%	100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

图16-1 成長指標全体(全学年・経済学部)

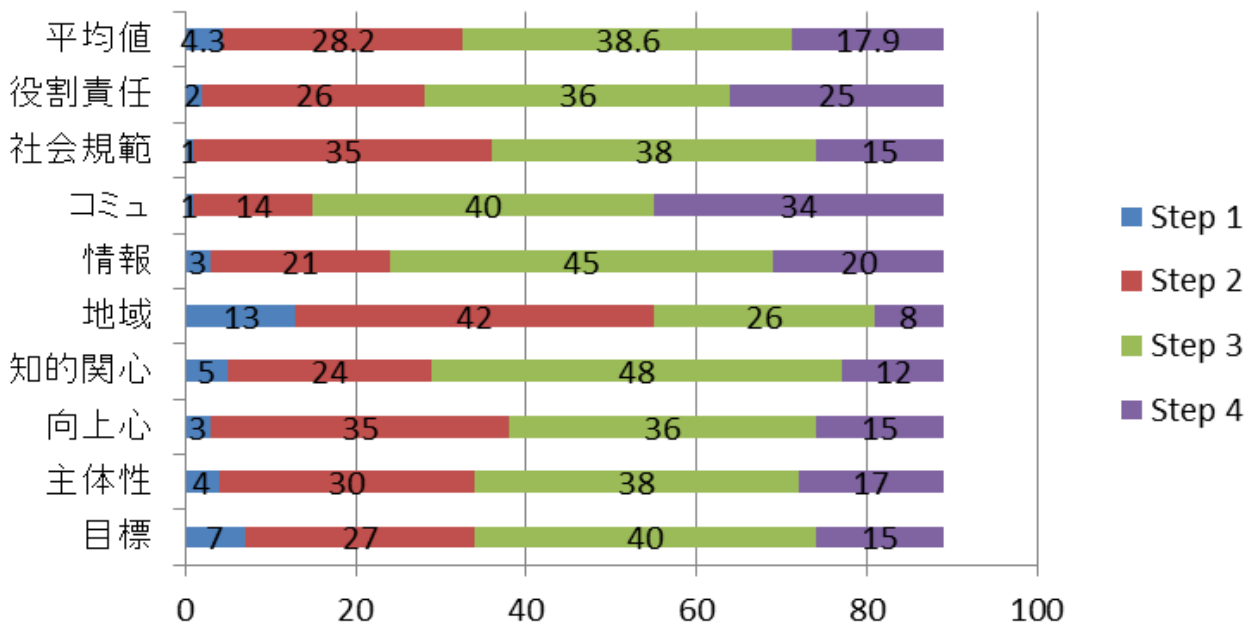


图16-2 成長指標全体(全学年・経済学部)(%)

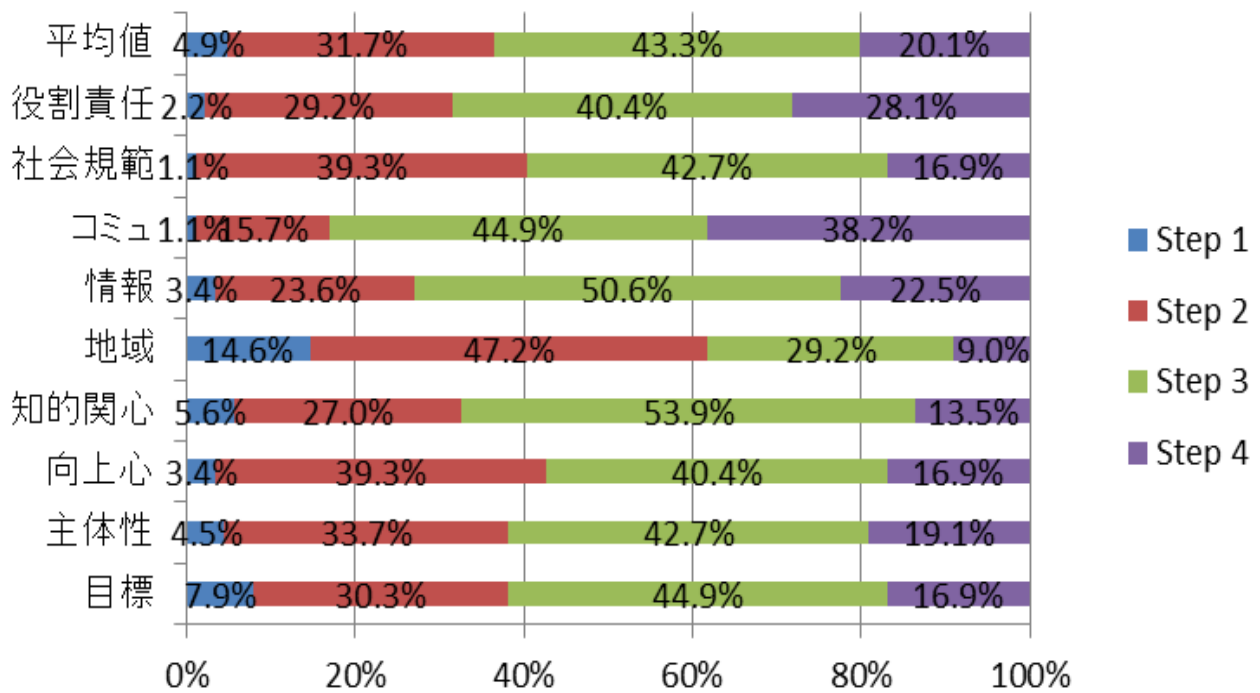


表17 成長指標全体(全学年・環境情報学部)

成長指標	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
目標	28	84	96	40	248
	11.3%	33.9%	38.7%	16.1%	100.0%
主体性	33	77	93	45	248
	13.3%	31.0%	37.5%	18.1%	100.0%
向上心	29	63	102	54	248
	11.7%	25.4%	41.1%	21.8%	100.0%
知的関心	18	78	125	27	248
	7.3%	31.5%	50.4%	10.9%	100.0%
地域	68	98	55	27	248
	27.4%	39.5%	22.2%	10.9%	100.0%
情報	33	57	113	45	248
	13.3%	23.0%	45.6%	18.1%	100.0%
コミュ	27	50	109	62	248
	10.9%	20.2%	44.0%	25.0%	100.0%
社会規範	9	83	115	41	248
	3.6%	33.5%	46.4%	16.5%	100.0%
役割責任	33	98	78	39	248
	13.3%	39.5%	31.5%	15.7%	100.0%
平均値	30.9	76.4	98.4	42.2	248.0
	12.5%	30.8%	39.7%	17.0%	100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

図17-1 成長指標全体(全学年・環境情報学部)

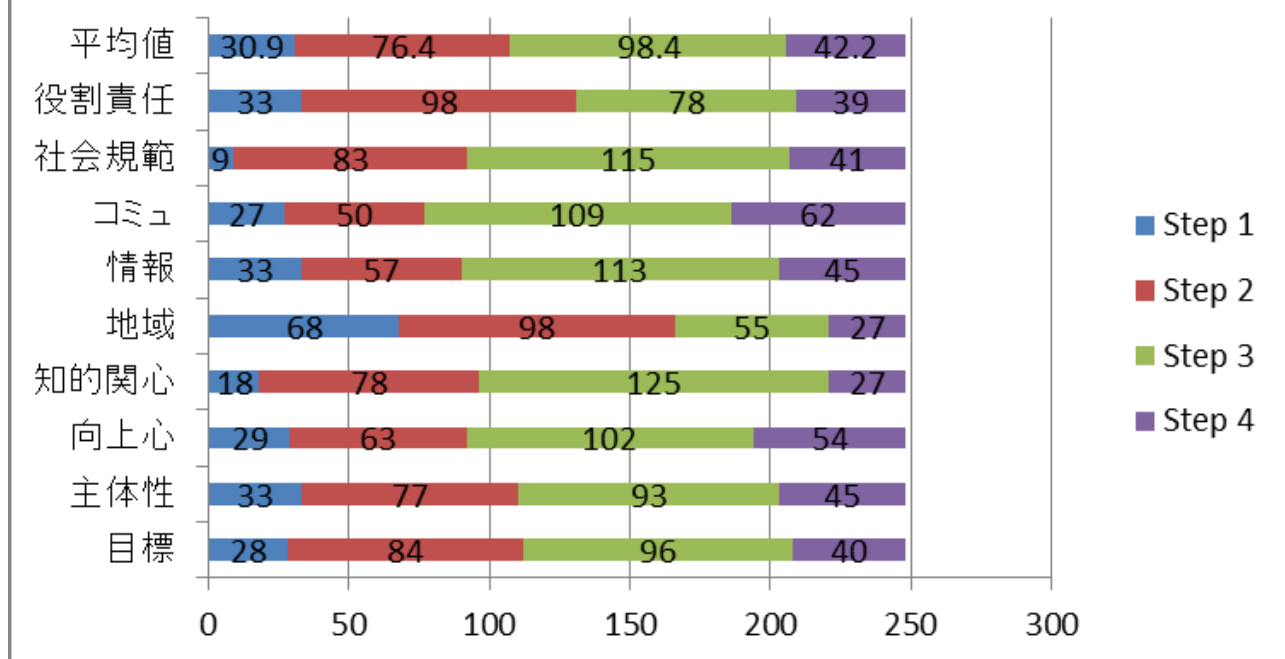


図17-2 成長指標全体(全学年・環境情報学部)(%)

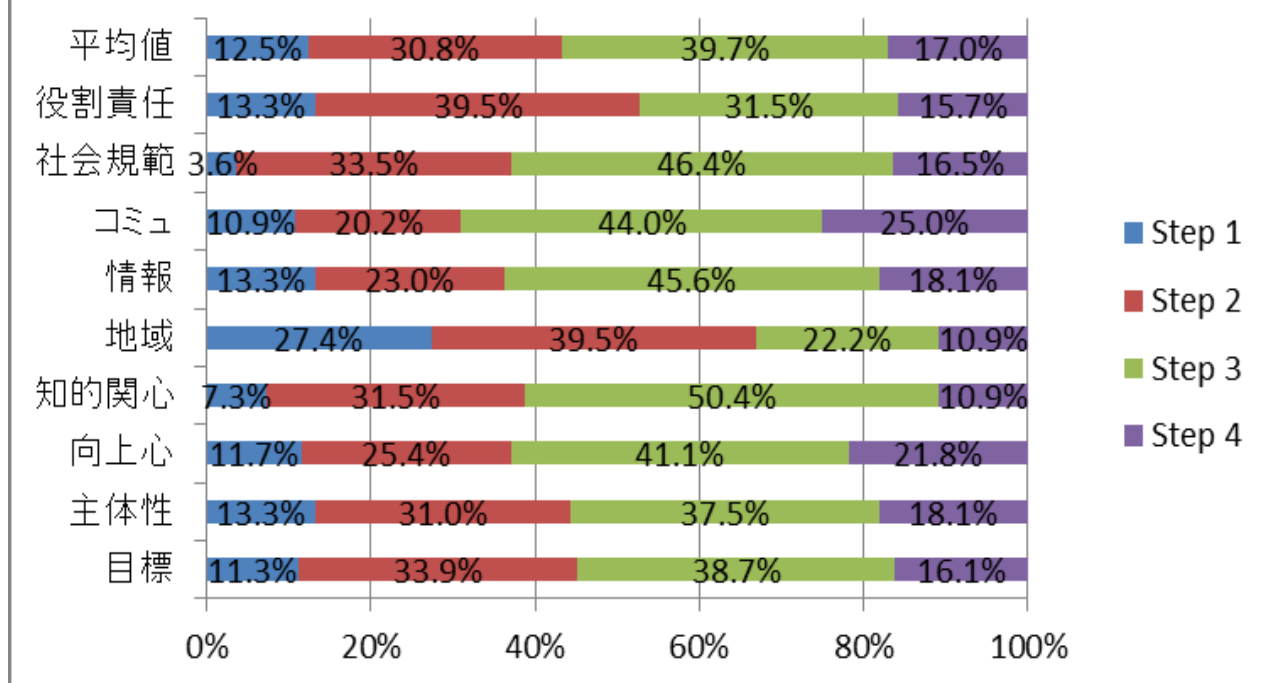


表18 成長指標全体(全学年・総合政策学部)

成長指標	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
目標	65	183	187	46	481
	13.5%	38.0%	38.9%	9.6%	100.0%
主体性	50	180	189	62	481
	10.4%	37.4%	39.3%	12.9%	100.0%
向上心	33	170	202	76	481
	6.9%	35.3%	42.0%	15.8%	100.0%
知的関心	102	164	197	18	481
	21.2%	34.1%	41.0%	3.7%	100.0%
地域	121	264	74	22	481
	25.2%	54.9%	15.4%	4.6%	100.0%
情報	90	184	173	34	481
	18.7%	38.3%	36.0%	7.1%	100.0%
コミュ	46	103	222	110	481
	9.6%	21.4%	46.2%	22.9%	100.0%
社会規範	16	205	205	55	481
	3.3%	42.6%	42.6%	11.4%	100.0%
役割責任	47	199	137	98	481
	9.8%	41.4%	28.5%	20.4%	100.0%
平均値	63.3	183.6	176.2	57.9	481.0
	13.2%	38.2%	36.6%	12.0%	100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

図18-1 成長指標全体(全学年・総合政策学部)

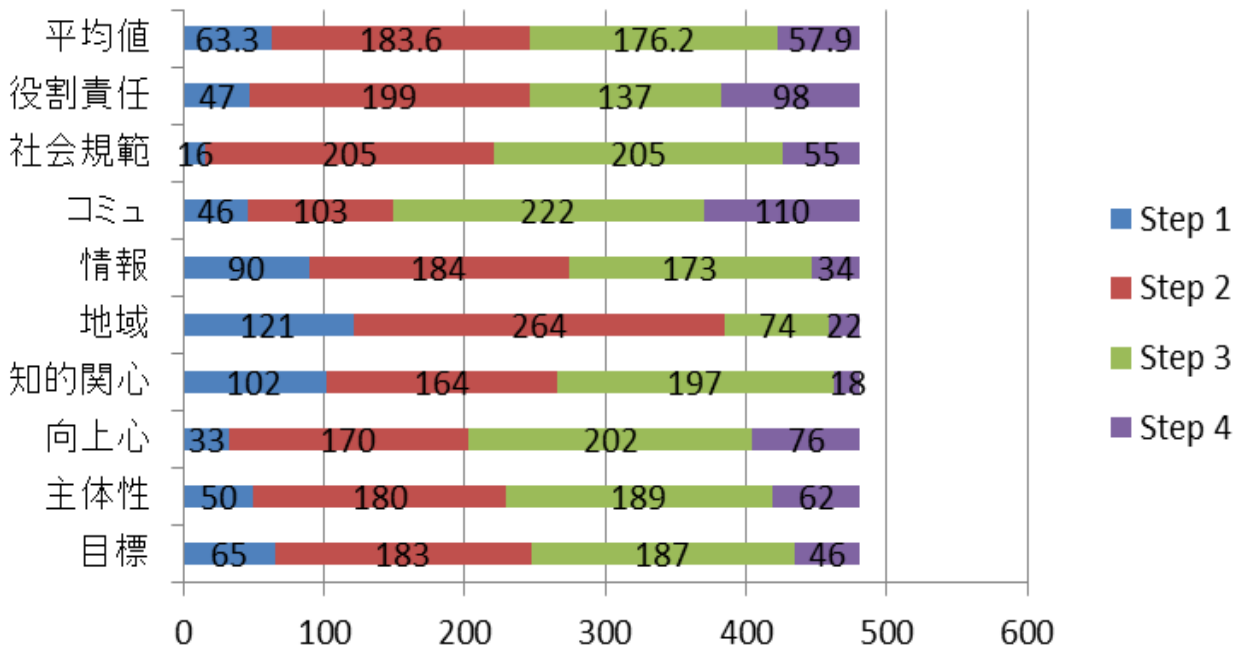
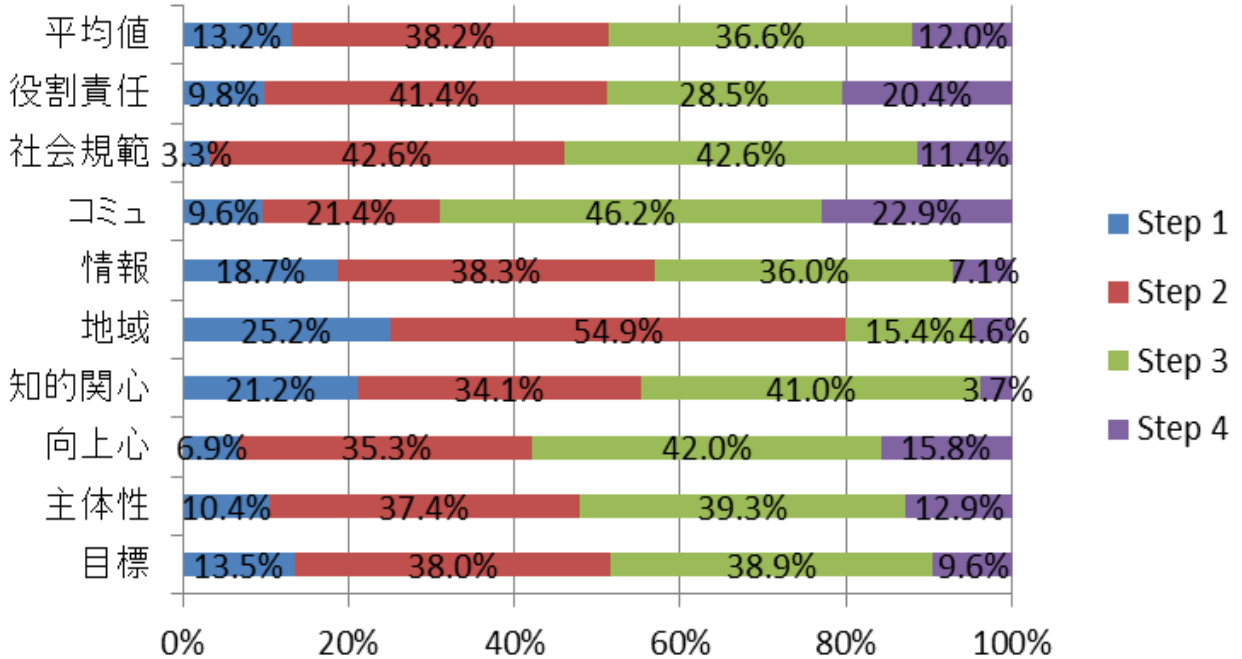


図18-2 成長指標全体(全学年・総合政策学部)(%)



(2) 成長指標個別

①目標の実現

学年別の結果を見ると、0年生から4年生にかけて、Step 1とStep 2の割合が低くなり、Step 3とStep 4の割合が高くなることわかる（表19、図19）。

表19 目標の実現(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	41	83	81	16	221
	18.6%	37.6%	36.7%	7.2%	100.0%
1年生	21	70	75	13	179
	11.7%	39.1%	41.9%	7.3%	100.0%
2年生	12	67	57	22	158
	7.6%	42.4%	36.1%	13.9%	100.0%
3年生	10	46	53	28	137
	7.3%	33.6%	38.7%	20.4%	100.0%
4年生	16	28	57	22	123
	13.0%	22.8%	46.3%	17.9%	100.0%
合計	100	294	323	101	818
	12.2%	35.9%	39.5%	12.3%	100.0%

表20 目標の実現(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	7	27	40	15	89
	7.9%	30.3%	44.9%	16.9%	100.0%
環境情報	28	84	96	40	248
	11.3%	33.9%	38.7%	16.1%	100.0%
総合政策	65	183	187	46	481
	13.5%	38.0%	38.9%	9.6%	100.0%
合計	100	294	323	101	818
	12.2%	35.9%	39.5%	12.3%	100.0%

図19-1 目標の実現(学年別・全学部)

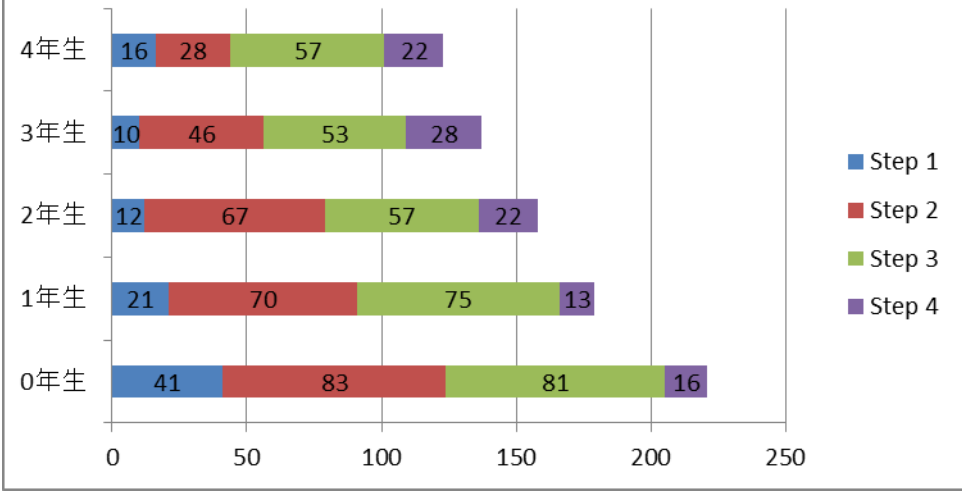


図19-2 目標の実現(学年別・全学部)(%)

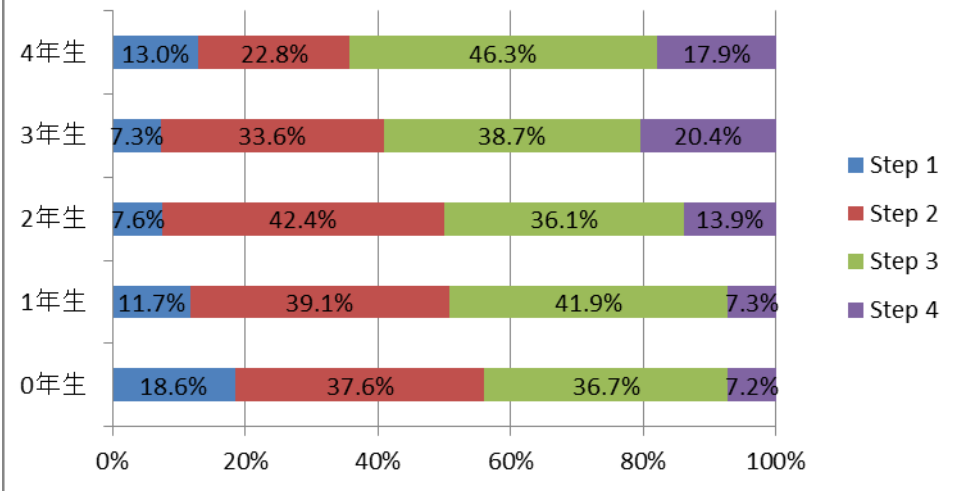


図20-1 目標の実現(全学年・学部別)

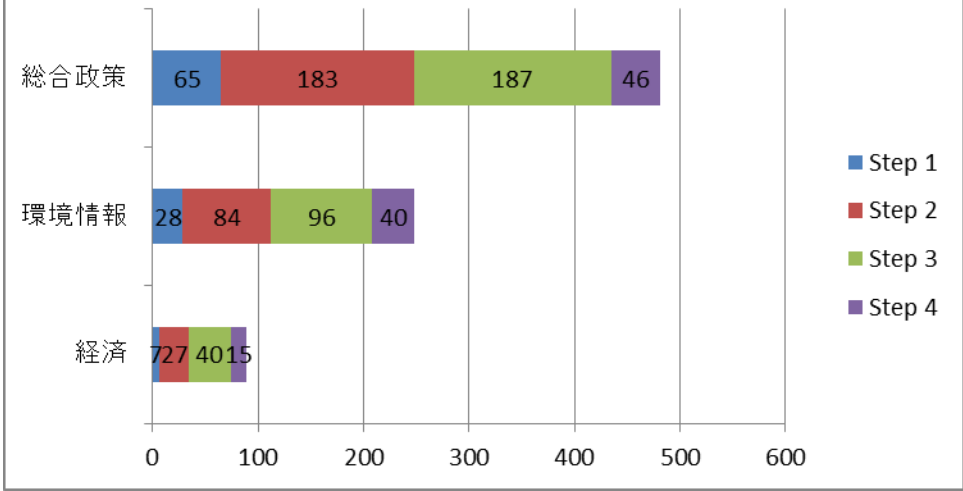
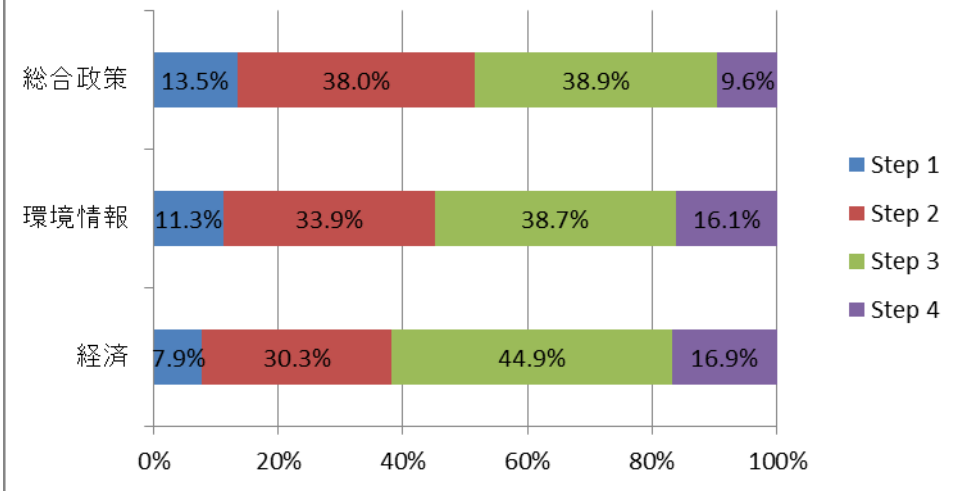


図20-2 目標の実現(全学年・学部別)(%)



②主体性と実行力

学年別の結果を見ると、2年生において、Step 3とStep 4の割合が最も高いことがわかる（表 21, 図 21）。

表21 主体性と実行力(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	47	97	64	13	221
	21.3%	43.9%	29.0%	5.9%	100.0%
1年生	14	66	68	31	179
	7.8%	36.9%	38.0%	17.3%	100.0%
2年生	6	45	83	24	158
	3.8%	28.5%	52.5%	15.2%	100.0%
3年生	11	43	62	21	137
	8.0%	31.4%	45.3%	15.3%	100.0%
4年生	9	36	43	35	123
	7.3%	29.3%	35.0%	28.5%	100.0%
合計	87	287	320	124	818
	10.6%	35.1%	39.1%	15.2%	100.0%

表22 主体性と実行力(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	4	30	38	17	89
	4.5%	33.7%	42.7%	19.1%	100.0%
環境情報	33	77	93	45	248
	13.3%	31.0%	37.5%	18.1%	100.0%
総合政策	50	180	189	62	481
	10.4%	37.4%	39.3%	12.9%	100.0%
合計	87	287	320	124	818
	10.6%	35.1%	39.1%	15.2%	100.0%

図21-1 主体性と実行力(学年別・全学部)

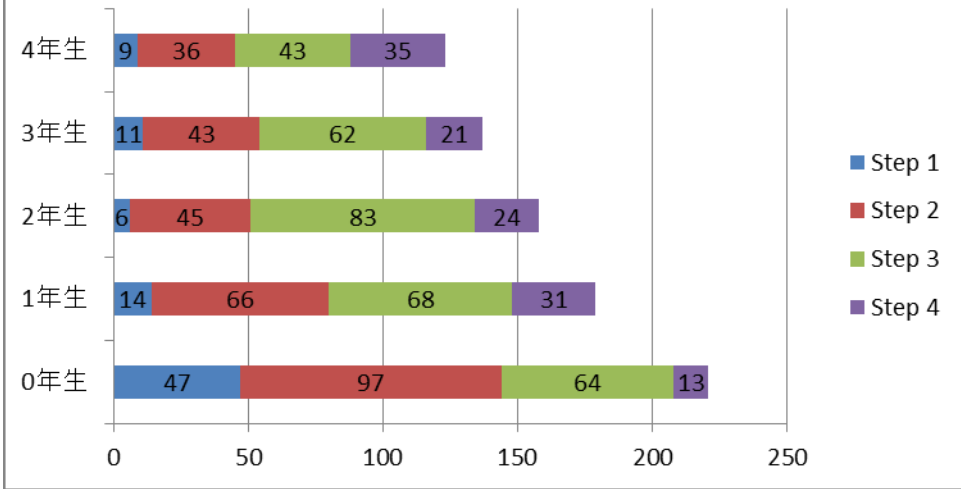


図21-2 主体性と実行力(学年別・全学部)(%)

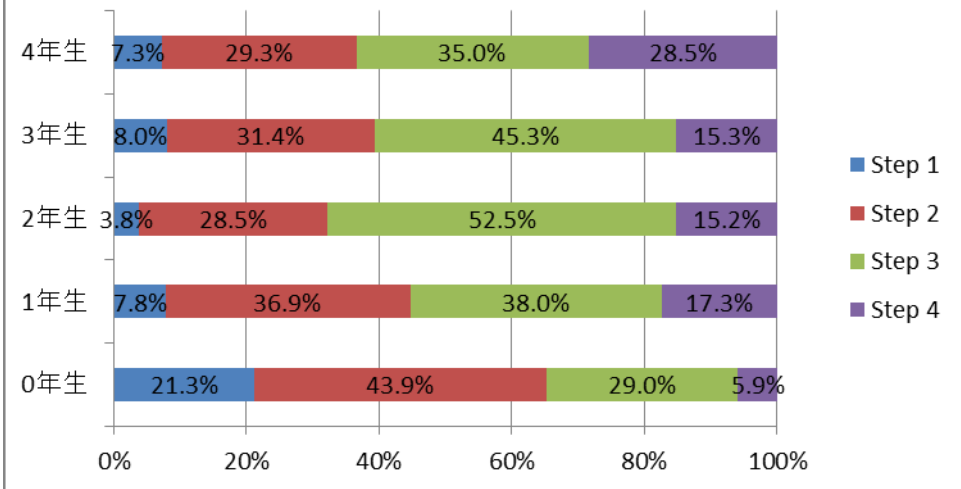


図22-1 主体性と実行力(全学年・学部別)

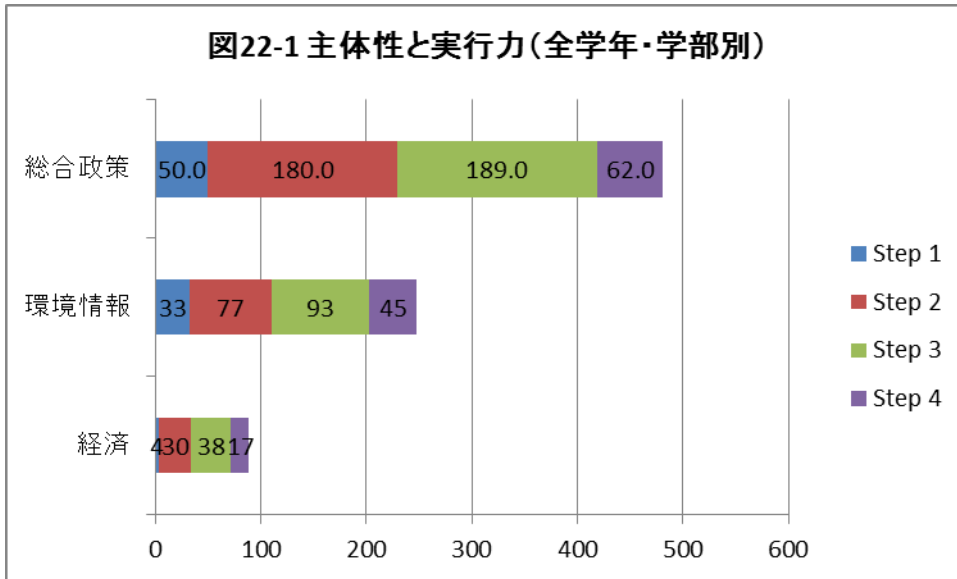
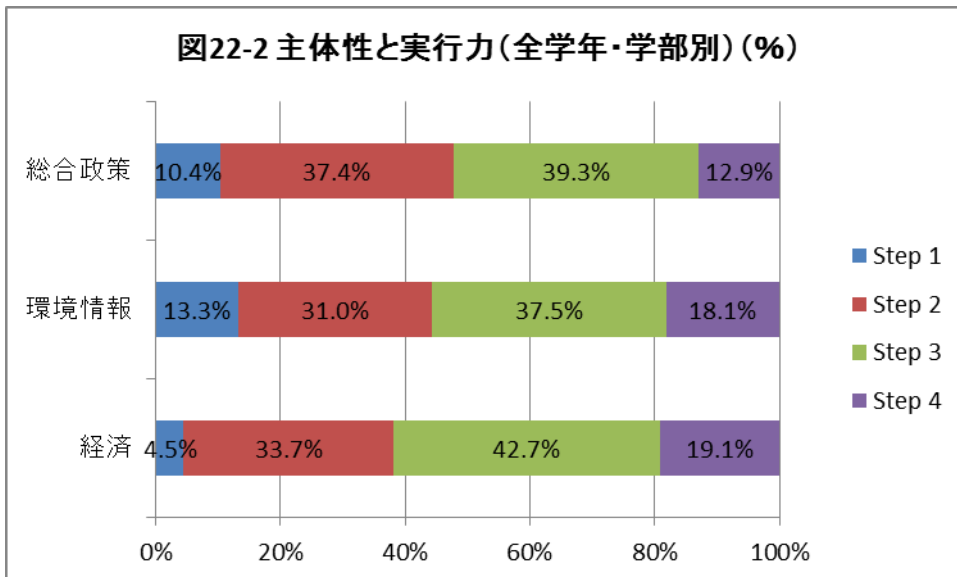


図22-2 主体性と実行力(全学年・学部別)(%)



③向上心と努力・挑戦

学年別の結果を見ると、2年生、4年生において、Step 3とStep 4の割合が高くなることわかる(表 23, 図 23)。

表23 向上心と努力・挑戦(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	28	79	90	24	221
	12.7%	35.7%	40.7%	10.9%	100.0%
1年生	16	57	73	33	179
	8.9%	31.8%	40.8%	18.4%	100.0%
2年生	7	47	78	26	158
	4.4%	29.7%	49.4%	16.5%	100.0%
3年生	9	51	49	28	137
	6.6%	37.2%	35.8%	20.4%	100.0%
4年生	5	34	50	34	123
	4.1%	27.6%	40.7%	27.6%	100.0%
合計	65	268	340	145	818
	7.9%	32.8%	41.6%	17.7%	100.0%

表24 向上心と努力・挑戦(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	3	35	36	15	89
	3.4%	39.3%	40.4%	16.9%	100.0%
環境情報	29	63	102	54	248
	11.7%	25.4%	41.1%	21.8%	100.0%
総合政策	33	170	202	76	481
	6.9%	35.3%	42.0%	15.8%	100.0%
合計	65	268	340	145	818
	7.9%	32.8%	41.6%	17.7%	100.0%

図23-1 向上心と努力・挑戦(学年別・全学部)

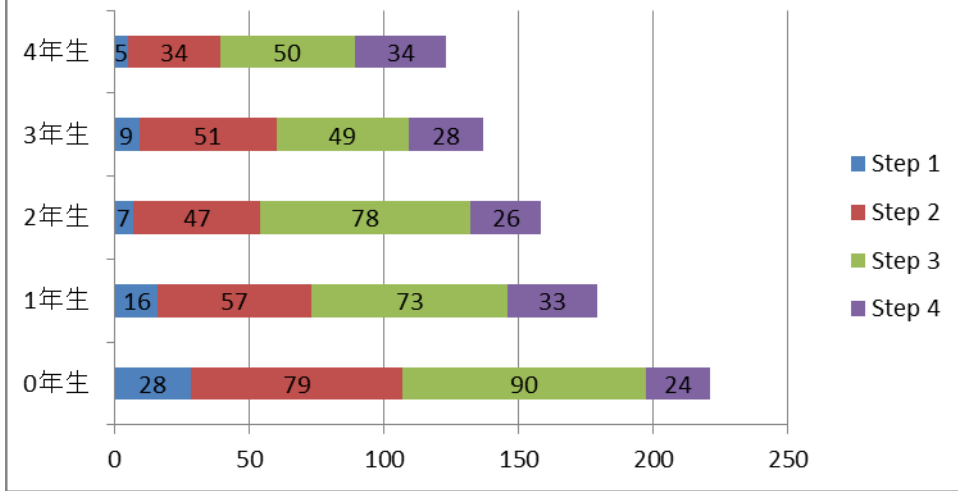
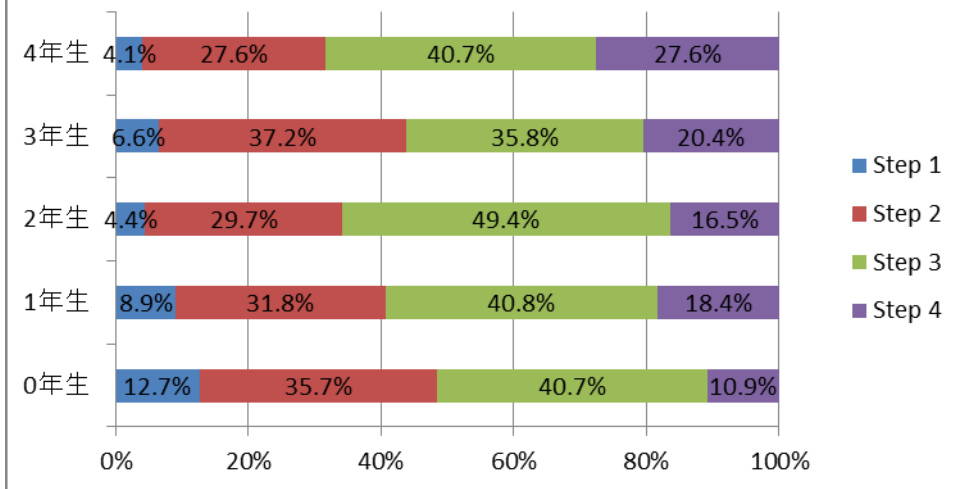
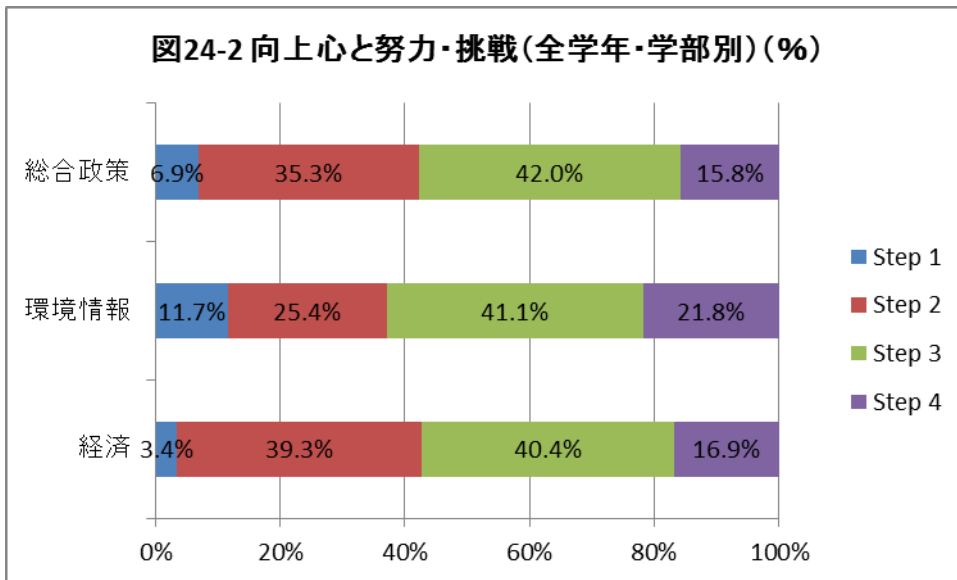
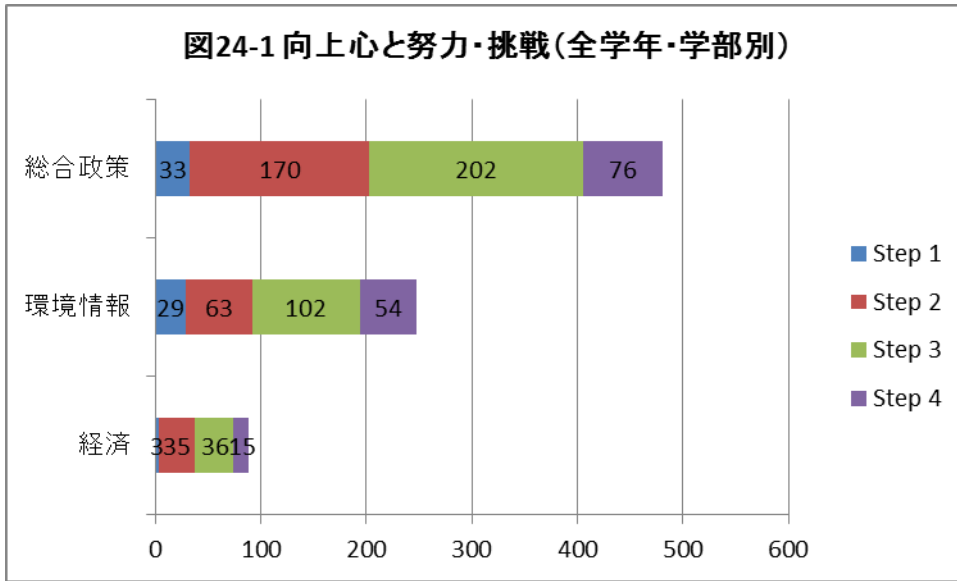


図23-2 向上心と努力・挑戦(学年別・全学部)(%)





④知的関心と思考力

学年別の結果を見ると、2年生と4年生において、Step 3とStep 4の割合が高くなることが読み取れる(表 25, 図 25)。

表25 知的関心と思考力(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	63	88	63	7	221
	28.5%	39.8%	28.5%	3.2%	100.0%
1年生	17	56	99	7	179
	9.5%	31.3%	55.3%	3.9%	100.0%
2年生	15	43	88	12	158
	9.5%	27.2%	55.7%	7.6%	100.0%
3年生	12	50	65	10	137
	8.8%	36.5%	47.4%	7.3%	100.0%
4年生	18	29	55	21	123
	14.6%	23.6%	44.7%	17.1%	100.0%
合計	125	266	370	57	818
	15.3%	32.5%	45.2%	7.0%	100.0%

表26 知的関心と思考力(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	5	24	48	12	89
	5.6%	27.0%	53.9%	13.5%	100.0%
環境情報	18	78	125	27	248
	7.3%	31.5%	50.4%	10.9%	100.0%
総合政策	102	164	197	18	481
	21.2%	34.1%	41.0%	3.7%	100.0%
合計	125	266	370	57	818
	15.3%	32.5%	45.2%	7.0%	100.0%

図25-1 知的関心と思考力(学年別・全学部)

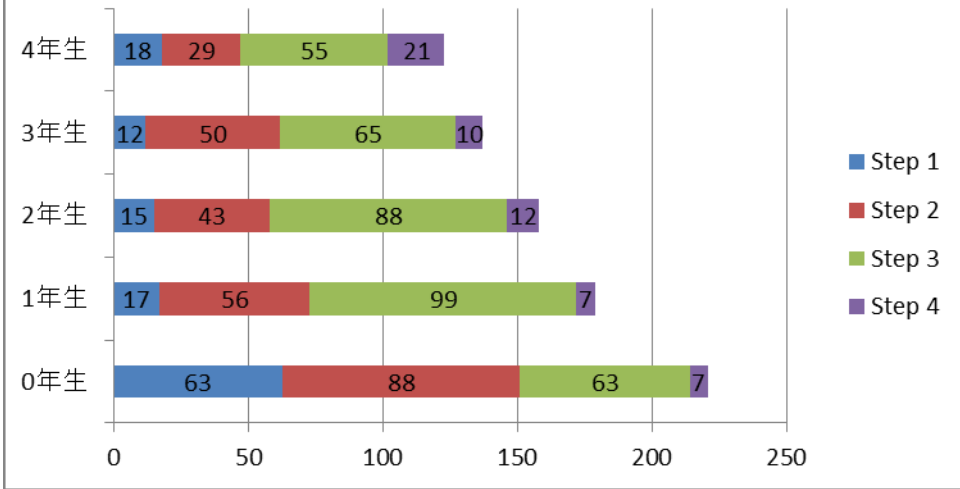


図25-2 知的関心と思考力(学年別・全学部)(%)

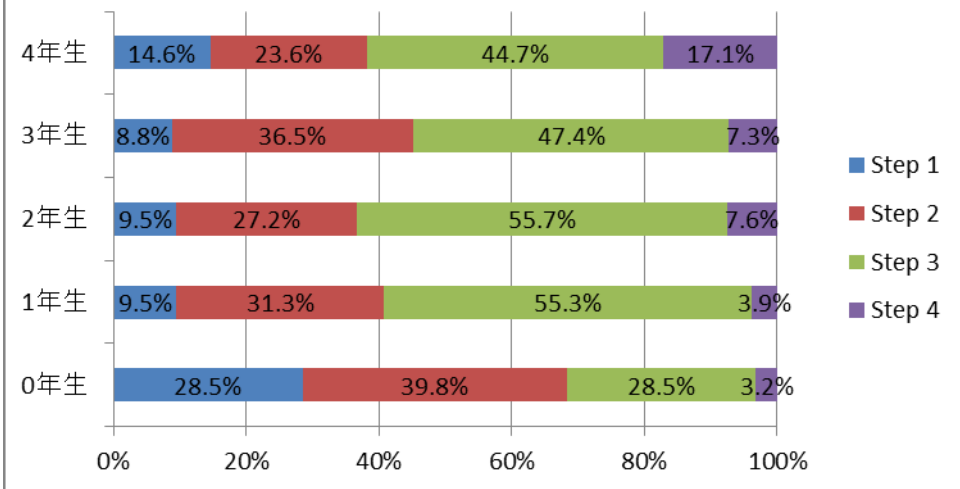


図26-1 知的関心と思考力(全学年・学部別)

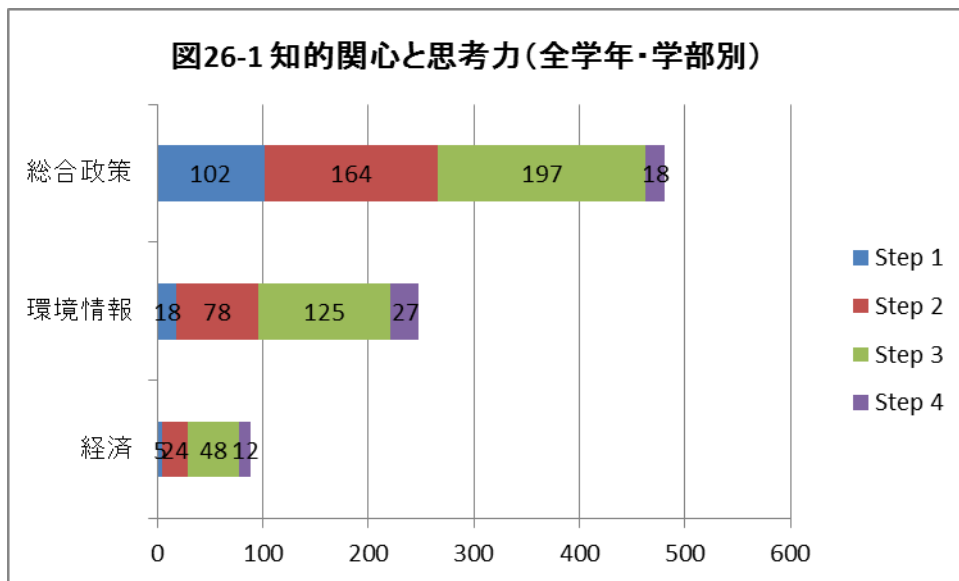
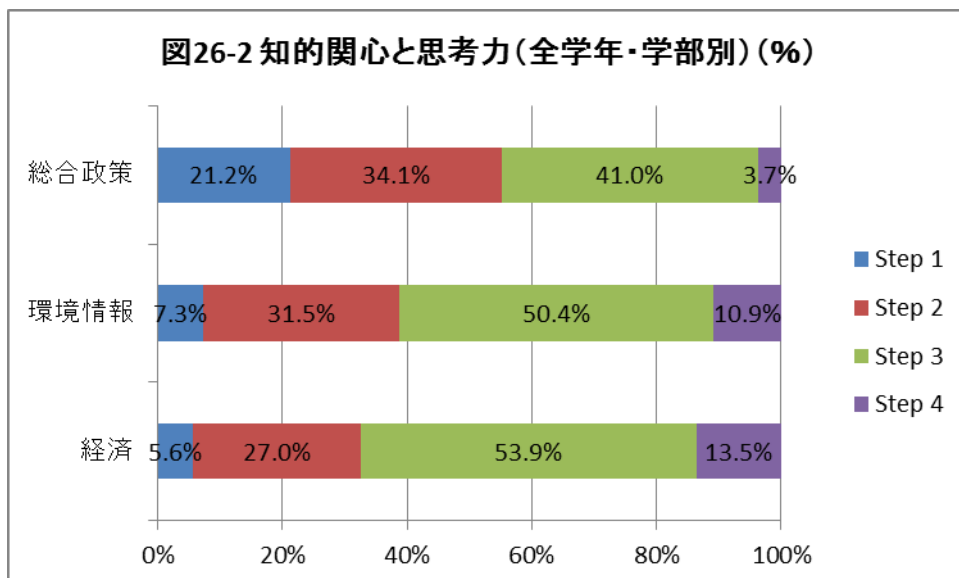


図26-2 知的関心と思考力(全学年・学部別)(%)



⑤地域への関心と貢献

【地域への関心と貢献】は、成長指標全体で Step 1 と Step 2 の割合が最も高く、Step 3 と Step 4 の割合が最も低かった成長指標である（表 15，図 15）。学年別の結果を見ると、Step 3 と Step 4 の割合は 0 年生から 3 年生にかけて高まっていくことが分かる（表 27，図 27）。

表27 地域への関心と貢献(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	84	107	24	6	221
	38.0%	48.4%	10.9%	2.7%	100.0%
1年生	50	91	29	9	179
	27.9%	50.8%	16.2%	5.0%	100.0%
2年生	30	81	37	10	158
	19.0%	51.3%	23.4%	6.3%	100.0%
3年生	16	67	39	15	137
	11.7%	48.9%	28.5%	10.9%	100.0%
4年生	22	58	26	17	123
	17.9%	47.2%	21.1%	13.8%	100.0%
合計	202	404	155	57	818
	24.7%	49.4%	18.9%	7.0%	100.0%

表28 地域への関心と貢献(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	13	42	26	8	89
	14.6%	47.2%	29.2%	9.0%	100.0%
環境情報	68	98	55	27	248
	27.4%	39.5%	22.2%	10.9%	100.0%
総合政策	121	264	74	22	481
	25.2%	54.9%	15.4%	4.6%	100.0%
合計	202	404	155	57	818
	24.7%	49.4%	18.9%	7.0%	100.0%

図27-1 地域への関心と貢献(学年別・全学部)

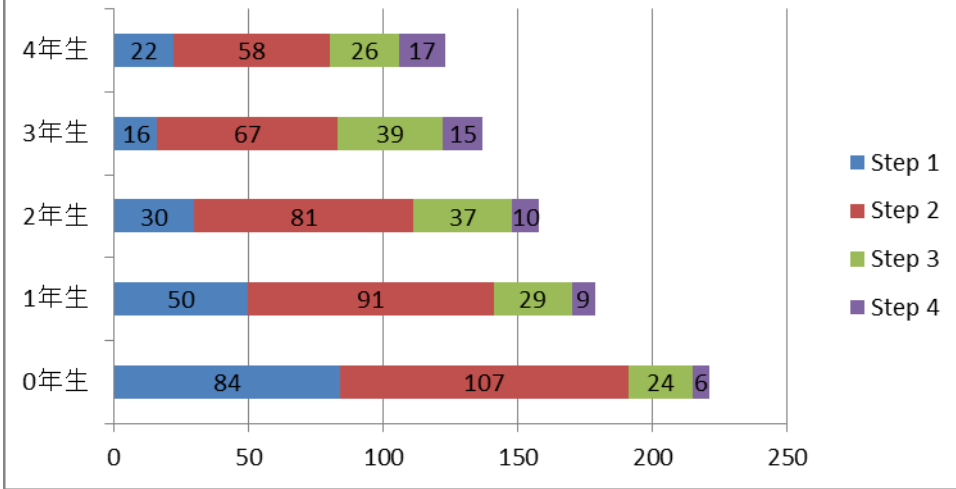


図27-2 地域への関心と貢献(学年別・全学部)(%)

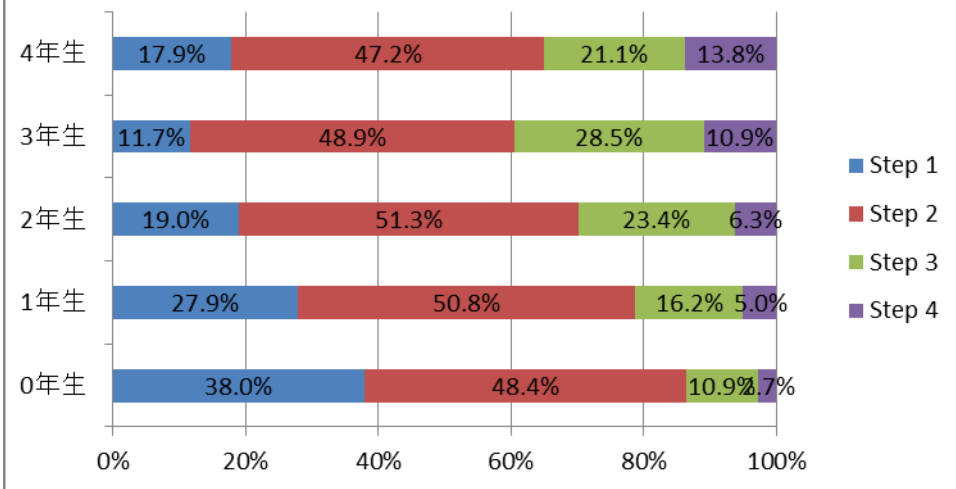


図28-1 地域への関心と貢献(全学年・学部別)

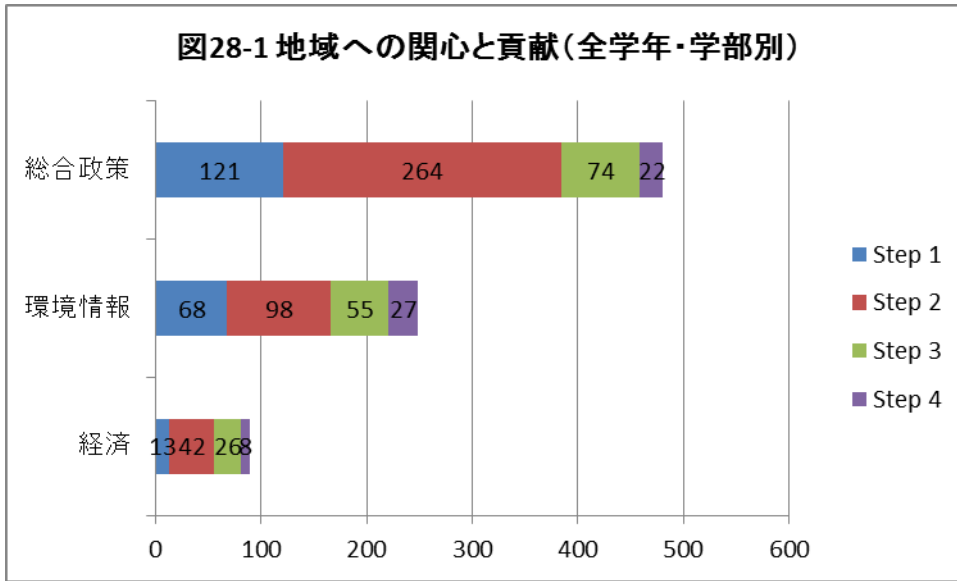
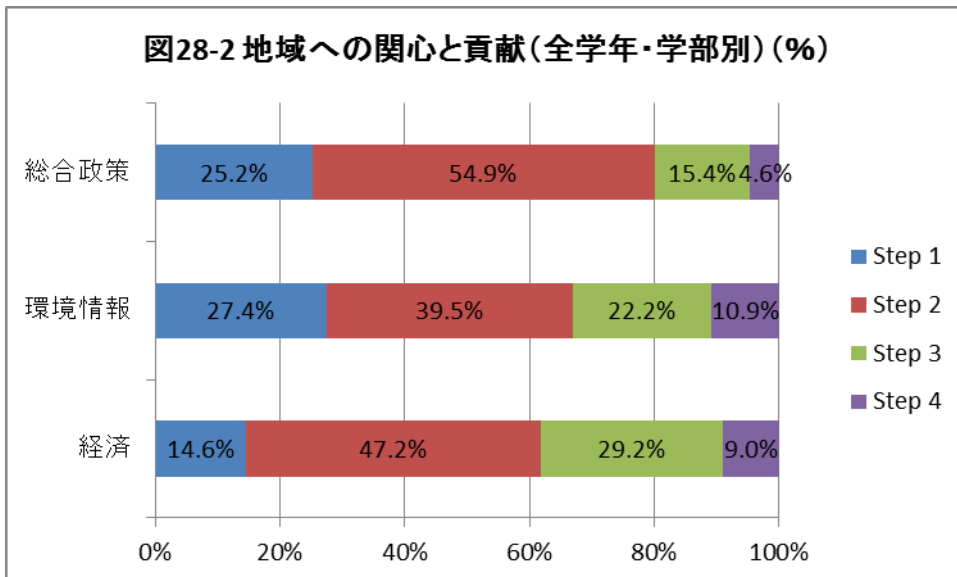


図28-2 地域への関心と貢献(全学年・学部別)(%)



⑥情報を使いこなす力

学年別の結果を見ると、0年生から4年生にかけて、Step 1とStep 2の割合が低くなり、Step 3とStep 4の割合が高くなっていくことがわかる(表 29, 図 29)。

表29 情報を使いこなす力(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	71	79	58	13	221
	32.1%	35.7%	26.2%	5.9%	100.0%
1年生	21	71	67	20	179
	11.7%	39.7%	37.4%	11.2%	100.0%
2年生	10	49	79	20	158
	6.3%	31.0%	50.0%	12.7%	100.0%
3年生	11	36	72	18	137
	8.0%	26.3%	52.6%	13.1%	100.0%
4年生	13	27	55	28	123
	10.6%	22.0%	44.7%	22.8%	100.0%
合計	126	262	331	99	818
	15.4%	32.0%	40.5%	12.1%	100.0%

表30 情報を使いこなす力(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	3	21	45	20	89
	3.4%	23.6%	50.6%	22.5%	100.0%
環境情報	33	57	113	45	248
	13.3%	23.0%	45.6%	18.1%	100.0%
総合政策	90	184	173	34	481
	18.7%	38.3%	36.0%	7.1%	100.0%
合計	126	262	331	99	818
	15.4%	32.0%	40.5%	12.1%	100.0%

図29-1 情報を使いこなす力(学年別・全学部)

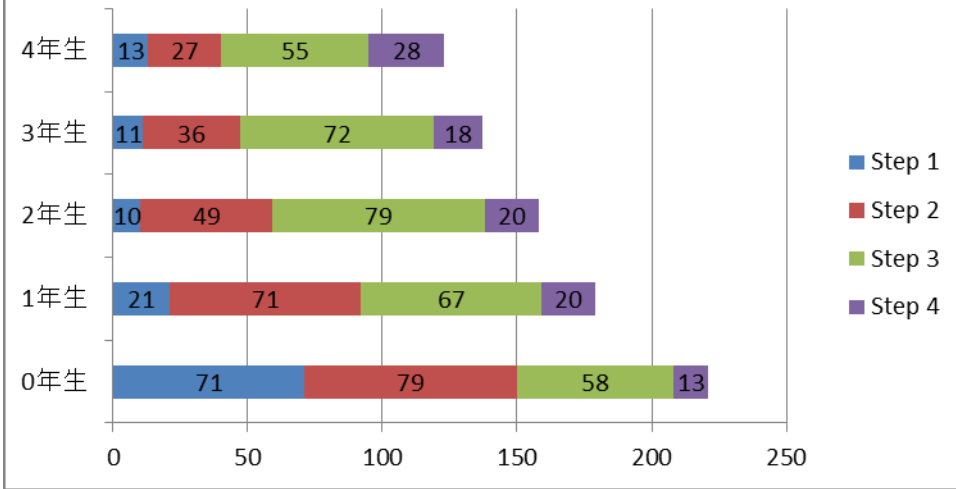


図29-2 情報を使いこなす力(学年別・全学部) (%)

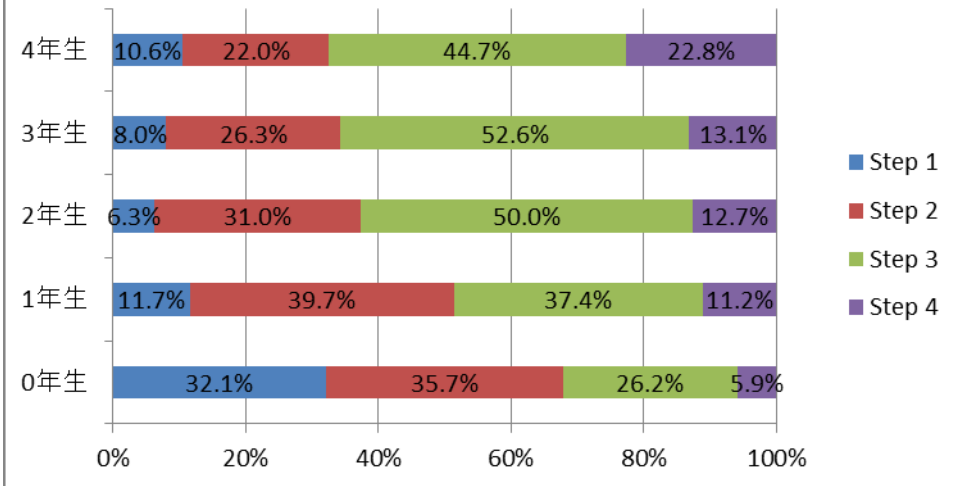


図30-1 情報を使いこなす力(全学年・学部別)

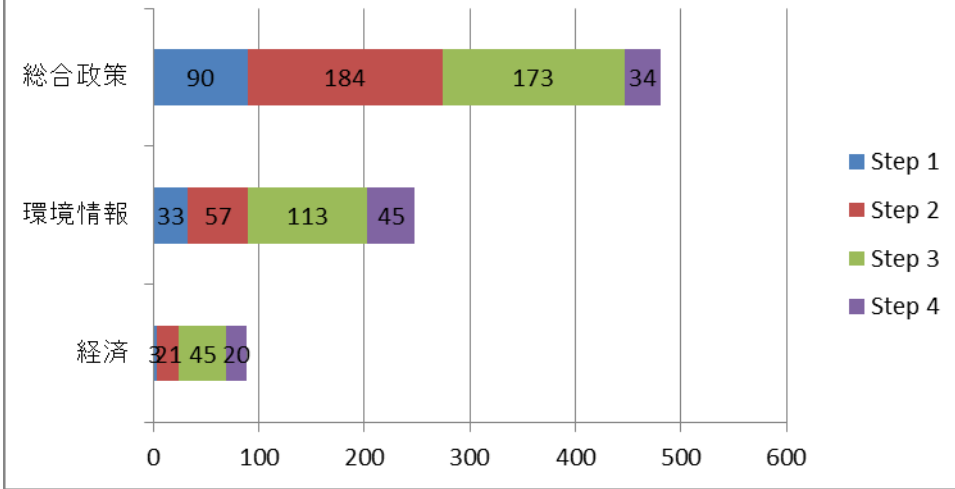
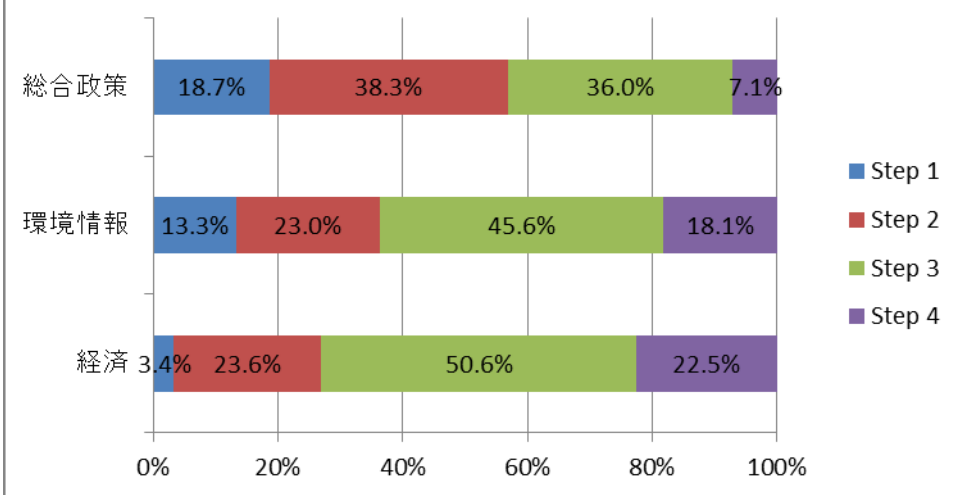


図30-2 情報を使いこなす力(全学年・学部別)(%)



⑦相手を尊重したコミュニケーション

【相手を尊重したコミュニケーション】は、成長指標全体で Step 3 と Step 4 の割合が最も高かった成長指標である(表 15, 図 15)。学年別の結果を見ると、0年生から4年生にかけて、Step 1 と Step 2 の割合が低くなり、Step 3 と Step 4 の割合が高まっていくことがわかる(表 31, 図 31)。

表31 相手を尊重したコミュニケーション(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	34	66	92	29	221
	15.4%	29.9%	41.6%	13.1%	100.0%
1年生	15	37	88	39	179
	8.4%	20.7%	49.2%	21.8%	100.0%
2年生	10	28	74	46	158
	6.3%	17.7%	46.8%	29.1%	100.0%
3年生	5	25	69	38	137
	3.6%	18.2%	50.4%	27.7%	100.0%
4年生	10	11	48	54	123
	8.1%	8.9%	39.0%	43.9%	100.0%
合計	74	167	371	206	818
	9.0%	20.4%	45.4%	25.2%	100.0%

表32 相手を尊重したコミュニケーション(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	1	14	40	34	89
	1.1%	15.7%	44.9%	38.2%	100.0%
環境情報	27	50	109	62	248
	10.9%	20.2%	44.0%	25.0%	100.0%
総合政策	46	103	222	110	481
	9.6%	21.4%	46.2%	22.9%	100.0%
合計	74	167	371	206	818
	9.0%	20.4%	45.4%	25.2%	100.0%

図31-1 相手を尊重したコミュニケーション
(学年別・全学部)

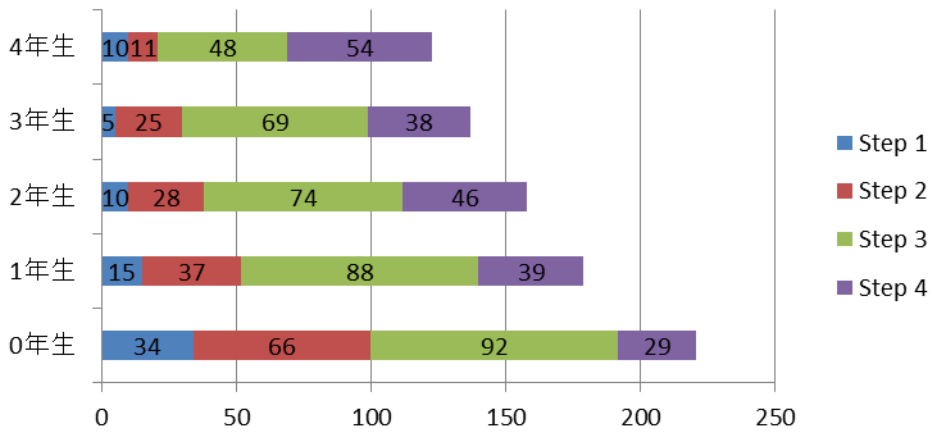


図31-2 相手を尊重したコミュニケーション
(学年別・全学部)(%)

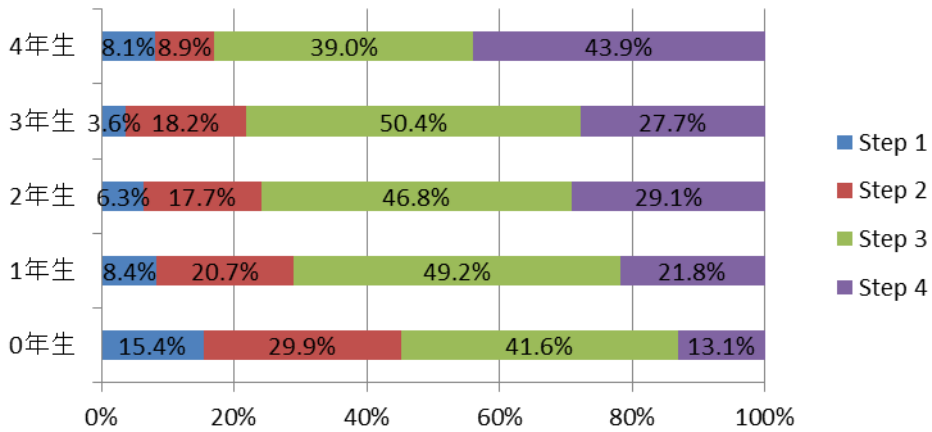


図32-1 相手を尊重したコミュニケーション
(全学年・学部別)

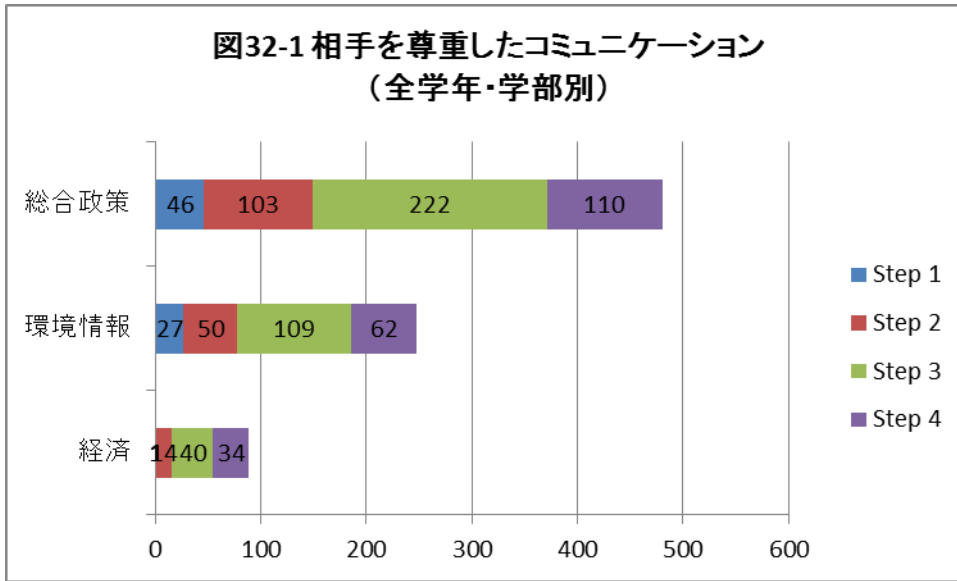
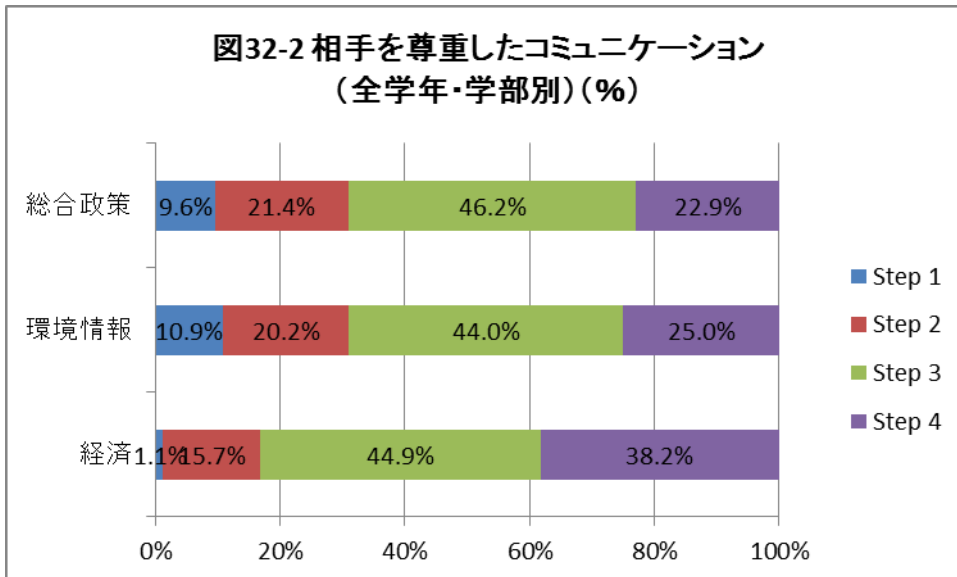


図32-2 相手を尊重したコミュニケーション
(全学年・学部別)(%)



⑧社会規範の理解と尊重

学年別の結果を見ると、0年生から3年生にかけて、Step 1とStep 2の割合が低くなり、Step 3とStep 4の割合が高くなっていくことがわかる(表33, 図33)。

表33 社会規範の理解と尊重(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	11	131	67	12	221
	5.0%	59.3%	30.3%	5.4%	100.0%
1年生	10	62	88	19	179
	5.6%	34.6%	49.2%	10.6%	100.0%
2年生	1	53	76	28	158
	0.6%	33.5%	48.1%	17.7%	100.0%
3年生	1	40	78	18	137
	0.7%	29.2%	56.9%	13.1%	100.0%
4年生	3	37	49	34	123
	2.4%	30.1%	39.8%	27.6%	100.0%
合計	26	323	358	111	818
	3.2%	39.5%	43.8%	13.6%	100.0%

表34 社会規範の理解と尊重(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	1	35	38	15	89
	1.1%	39.3%	42.7%	16.9%	100.0%
環境情報	9	83	115	41	248
	3.6%	33.5%	46.4%	16.5%	100.0%
総合政策	16	205	205	55	481
	3.3%	42.6%	42.6%	11.4%	100.0%
合計	26	323	358	111	818
	3.2%	39.5%	43.8%	13.6%	100.0%

図33-1 社会規範の理解と尊重(学年別・全学部)

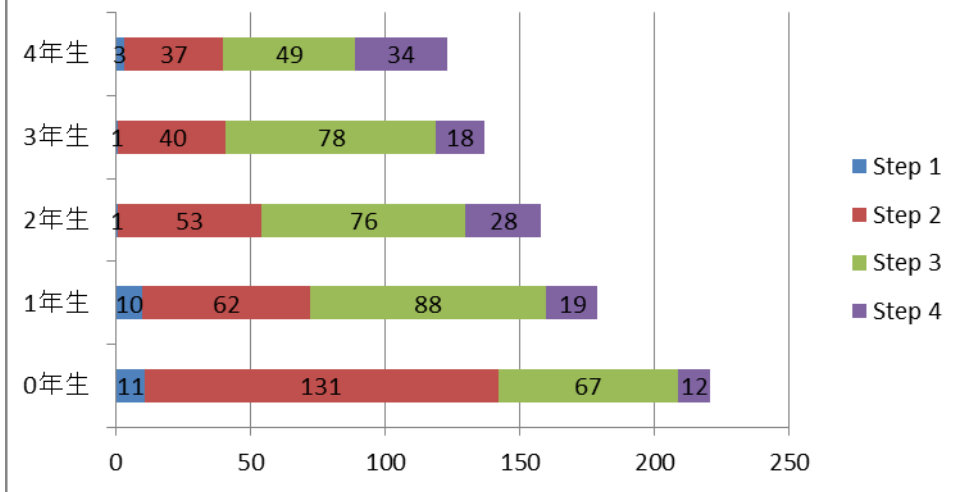


図33-2 社会規範の理解と尊重(学年別・全学部)(%)

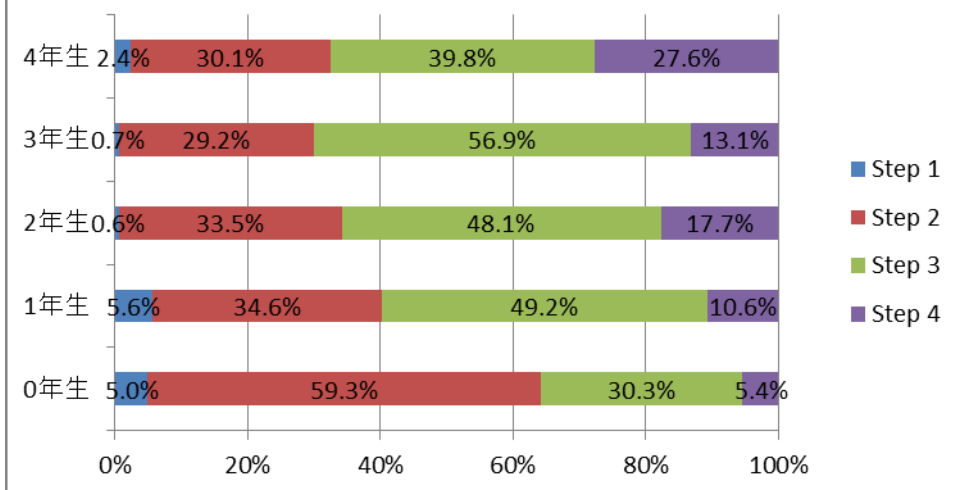


図34-1 社会規範の理解と尊重(全学年・学部別)

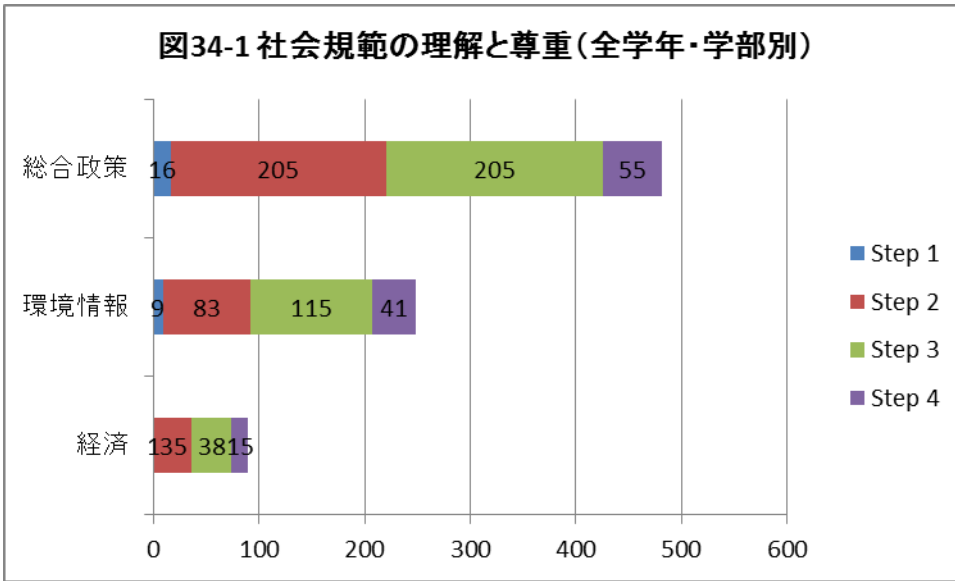
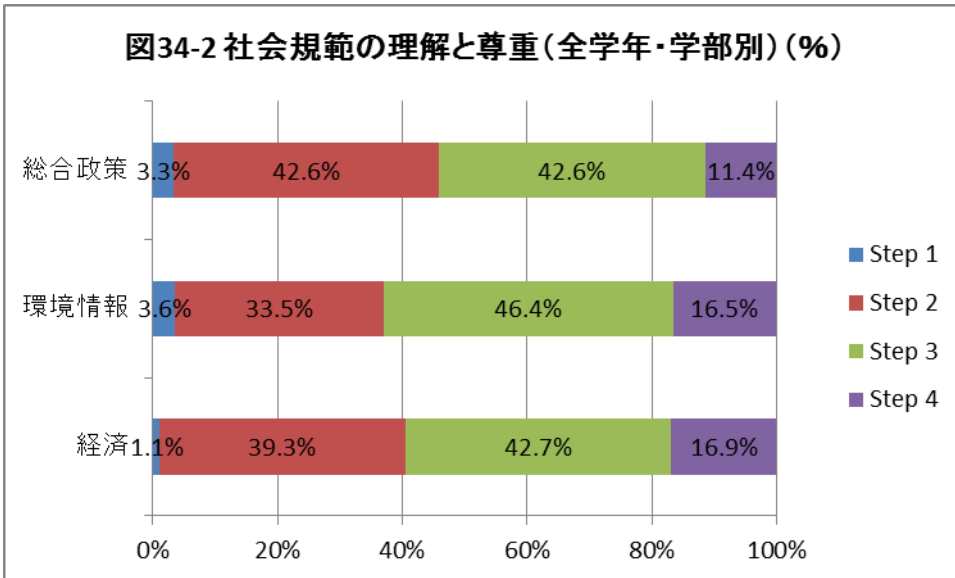


図34-2 社会規範の理解と尊重(全学年・学部別)(%)



⑨社会的な役割と責任

学年別の結果を見ると、0年生から4年生にかけて、Step 1とStep 2の割合が低くなり、Step 3とStep 4の割合が高くなっていくことがわかる(表 35, 図 35)。

表35 社会的な役割と責任(学年別・全学部)

学年	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
0年生	47	111	42	21	221
	21.3%	50.2%	19.0%	9.5%	100.0%
1年生	15	76	60	28	179
	8.4%	42.5%	33.5%	15.6%	100.0%
2年生	9	59	54	36	158
	5.7%	37.3%	34.2%	22.8%	100.0%
3年生	2	49	50	36	137
	1.5%	35.8%	36.5%	26.3%	100.0%
4年生	9	28	45	41	123
	7.3%	22.8%	36.6%	33.3%	100.0%
合計	82	323	251	162	818
	10.0%	39.5%	30.7%	19.8%	100.0%

表36 社会的な役割と責任(全学年・学部別)

学部	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	合計
経済	2	26	36	25	89
	2.2%	29.2%	40.4%	28.1%	100.0%
環境情報	33	98	78	39	248
	13.3%	39.5%	31.5%	15.7%	100.0%
総合政策	47	199	137	98	481
	9.8%	41.4%	28.5%	20.4%	100.0%
合計	82	323	251	162	818
	10.0%	39.5%	30.7%	19.8%	100.0%

図35-1 社会的な役割と責任(学年別・全学部)

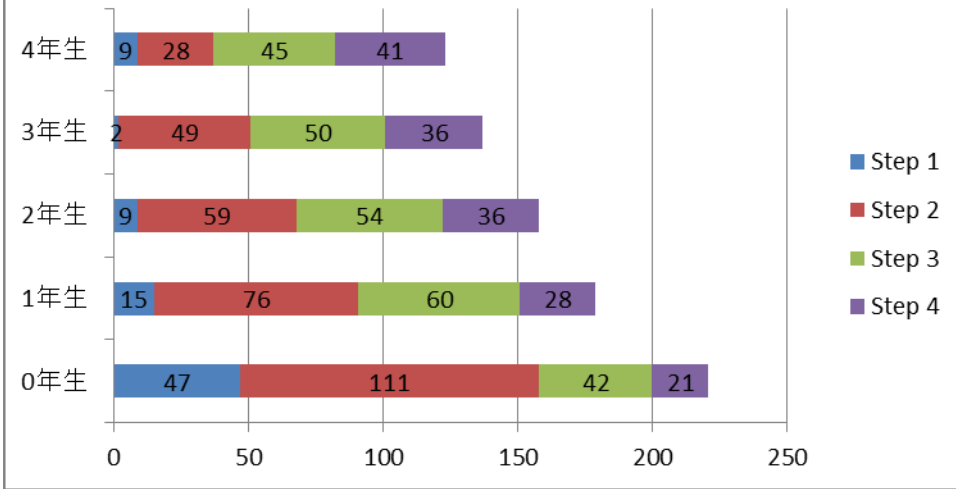


図35-2 社会的な役割と責任(学年別・全学部)(%)

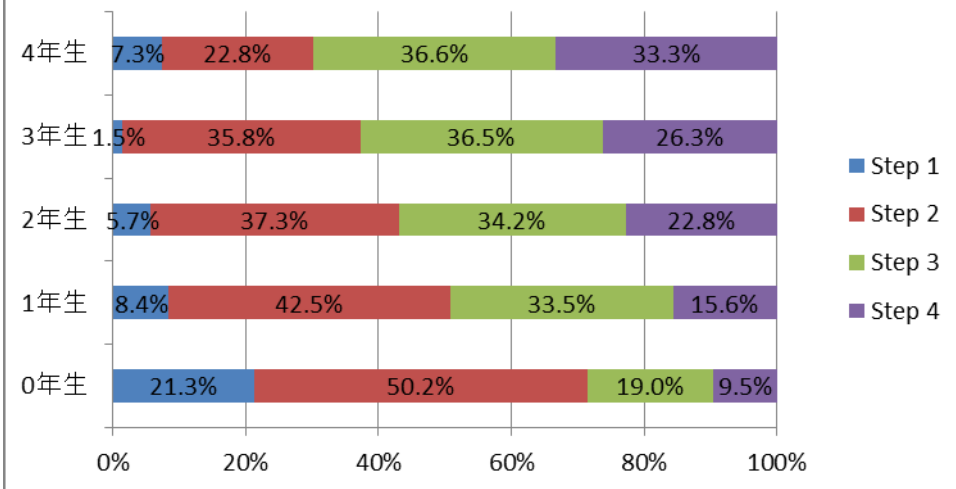


図36-1 社会的な役割と責任(全学年・学部別)

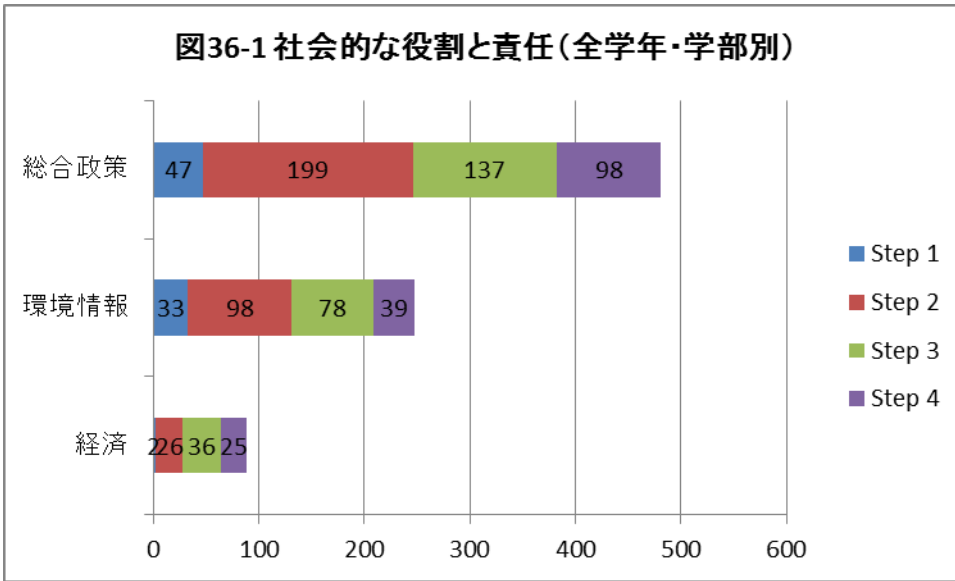
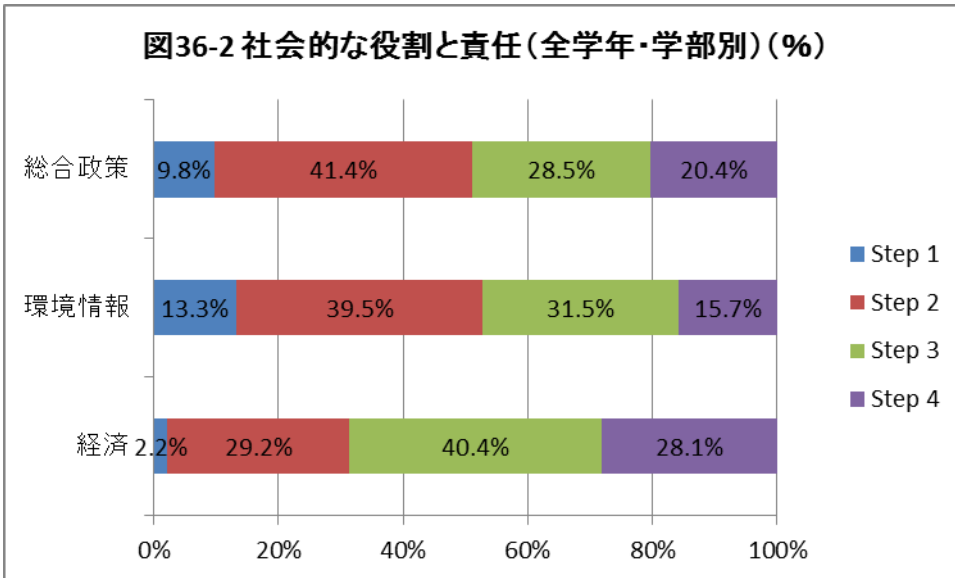


図36-2 社会的な役割と責任(全学年・学部別)(%)



5. 学年と成長指標の関連

学年と成長指標の関連を以下に示す。成長指標全体を通して、相関係数は有意であったが高くはなかった(表37)。特に相関係数が高かったのは、【情報を使いこなす力】と【社会的な役割と責任】、特に低かったのは、【目標の実現】と【向上心と努力・挑戦】であった。

表37 学年と成長指標の関連(全学年・全学部)

成長指標	相関係数(r^s)
目標	0.17**
主体性	0.25**
向上心	0.14**
知的関心	0.23**
地域	0.26**
情報	0.30**
コミュ	0.26**
社会規範	0.27**
役割責任	0.32**

注)** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$, Spearmanの順位相関係数。

学年は、0年生= 0, 1年生= 1, 2年生= 2, 3年生=3,
4年生=4 として、順序変数として数値化した。

6. 大学生活で取り組んでいる活動と成長指標

大学生活で取り組んでいる活動それぞれについて、参加者を回答【あり】【なし】の2群に分けて、それぞれの成長指標の分布を比較した。

(1) クラブと成長指標

【クラブ】の活動をしていることで、高い順位の Step の割合が有意・有意傾向に高くなる成長指標は、【主体性と実行力】、【相手を尊重したコミュニケーション】、【社会的な役割と責任】であった(表 38)。一方、クラブの活動をしていないことで、高い順位の Step の割合が有意・有意傾向に高くなる成長指標は、【知的関心と思考力】、【地域への関心と貢献】、【情報を使いこなす力】であった。

(2) 課外活動 地域活動と成長指標

【課外活動 地域活動】をしていることで、高い順位の Step の割合が有意・有意傾向に高くなる成長指標は 9 個全てであった(表 39)。

(3) アルバイトと成長指標

【アルバイト】の活動をしていることで、高い順位の Step の割合が有意・有意傾向に高くなる成長指標は、【目標の実現】、【主体性と実行力】、【知的関心と思考力】、【地域への関心と貢献】、【相手を尊重したコミュニケーション】、【社会規範の理解と尊重】、【社会的な役割と責任】であった(表 40)。

(4) その他

【その他】の活動をしていることで、高い順位の Step の割合が有意・有意傾向に高くなる成長指標は、【目標の実現】、【向上心と努力・挑戦】、【知的関心と思考力】、【地域への関心と貢献】、【情報を使いこなす力】、【相手を尊重したコミュニケーション】、【社会的な役割と責任】であった(表 41)。

表38 クラブ活動と成長指標(全学年・全学部)

成長指標	活動	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	順位和中央値	W値
目標	あり (N=427)	49	148	178	52	556.00	86630.50
		11.5%	34.7%	41.7%	12.2%		
	なし (N=391)	51	146	145	49	247.50	
		13.0%	37.3%	37.1%	12.5%		
主体性	あり (N=427)	35	141	187	64	534.50	91100.50*
		8.2%	33.0%	43.8%	15.0%		
	なし (N=391)	52	146	133	60	231.00	
		13.3%	37.3%	34.0%	15.3%		
向上心	あり (N=427)	23	145	177	82	503.50	88600.00
		5.4%	34.0%	41.5%	19.2%		
	なし (N=391)	42	123	163	63	503.50	
		10.7%	31.5%	41.7%	16.1%		
知的関心	あり (N=427)	89	135	185	18	258.50	69999.00**
		20.8%	31.6%	43.3%	4.2%		
	なし (N=391)	36	131	185	39	576.50	
		9.2%	33.5%	47.3%	10.0%		
地域	あり (N=427)	114	228	63	22	404.50	72891.00**
		26.7%	53.4%	14.8%	5.2%		
	なし (N=391)	88	176	92	35	404.50	
		22.5%	45.0%	23.5%	9.0%		
情報	あり (N=427)	67	160	168	32	257.50	71756.50**
		15.7%	37.5%	39.3%	7.5%		
	なし (N=391)	59	102	163	67	554.00	
		15.1%	26.1%	41.7%	17.1%		
コミュ	あり (N=427)	31	82	202	112	427.00	89130.50†
		7.3%	19.2%	47.3%	26.2%		
	なし (N=391)	43	85	169	94	427.00	
		11.0%	21.7%	43.2%	24.0%		
社会規範	あり (N=427)	12	163	194	58	528.50	86211.00
		2.8%	38.2%	45.4%	13.6%		
	なし (N=391)	14	160	164	53	528.50	
		3.6%	40.9%	41.9%	13.6%		
役割責任	あり (N=427)	33	168	135	91	531.00	89781.00*
		7.7%	39.3%	31.6%	21.3%		
	なし (N=391)	49	155	116	71	244.00	
		12.5%	39.6%	29.7%	18.2%		

注) **p<.01, *p<.05, †p<.10, Wilcoxonの順位和検定。背景色ありの群が高いStepの割合が高かったことを示す。

表39 課外活動 地域活動と成長指標(全学年・全学部)

成長指標	活動	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	順位和中央値	W値
目標	あり (N=125)	10	39	58	18	556.00	48354.50*
		8.0%	31.2%	46.4%	14.4%		
	なし (N=693)	90	255	265	83	556.00	
		13.0%	36.8%	38.2%	12.0%		
主体性	あり (N=125)	8	37	49	31	534.50	50666.00**
		6.4%	29.6%	39.2%	24.8%		
	なし (N=693)	79	250	271	93	534.50	
		11.4%	36.1%	39.1%	13.4%		
向上心	あり (N=125)	5	33	57	30	503.50	49953.00**
		4.0%	26.4%	45.6%	24.0%		
	なし (N=693)	60	235	283	115	503.50	
		8.7%	33.9%	40.8%	16.6%		
知的関心	あり (N=125)	5	44	68	8	576.50	49336.00**
		4.0%	35.2%	54.4%	6.4%		
	なし (N=693)	120	222	302	49	576.50	
		17.3%	32.0%	43.6%	7.1%		
地域	あり (N=125)	10	41	43	31	684.00	63626.50**
		8.0%	32.8%	34.4%	24.8%		
	なし (N=693)	192	363	112	26	404.50	
		27.7%	52.4%	16.2%	3.8%		
情報	あり (N=125)	10	28	71	16	554.00	51608.00**
		8.0%	22.4%	56.8%	12.8%		
	なし (N=693)	116	234	260	83	257.50	
		16.7%	33.8%	37.5%	12.0%		
コミュ	あり (N=125)	8	12	61	44	427.00	51850.00**
		6.4%	9.6%	48.8%	35.2%		
	なし (N=693)	66	155	310	162	427.00	
		9.5%	22.4%	44.7%	23.4%		
社会規範	あり (N=125)	4	41	55	25	528.50	48029.50*
		3.2%	32.8%	44.0%	20.0%		
	なし (N=693)	22	282	303	86	528.50	
		3.2%	40.7%	43.7%	12.4%		
役割責任	あり (N=125)	4	43	43	35	531.00	51428.50**
		3.2%	34.4%	34.4%	28.0%		
	なし (N=693)	78	280	208	127	244.00	
		11.3%	40.4%	30.0%	18.3%		

注) **p<.01, *p<.05, †p<.10, Wilcoxonの順位和検定。背景色ありの群が高いStepの割合が

高かったことを示す。

表40 アルバイトと成長指標(全学年・全学部)

成長指標	活動	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	順位和中央値	W値
目標	あり (N=630)	74	209	260	87	556.00	68075.50**
		11.7%	33.2%	41.3%	13.8%		
	なし (N=188)	26	85	63	14	247.50	
		13.8%	45.2%	33.5%	7.4%		
主体性	あり (N=630)	58	195	264	113	534.50	75424.50**
		9.2%	31.0%	41.9%	17.9%		
	なし (N=188)	29	92	56	11	231.00	
		15.4%	48.9%	29.8%	5.9%		
向上心	あり (N=630)	46	205	262	117	503.50	62849.50
		7.3%	32.5%	41.6%	18.6%		
	なし (N=188)	19	63	78	28	503.50	
		10.1%	33.5%	41.5%	14.9%		
知的関心	あり (N=630)	84	203	297	46	576.50	66563.50**
		13.3%	32.2%	47.1%	7.3%		
	なし (N=188)	41	63	73	11	258.50	
		21.8%	33.5%	38.8%	5.9%		
地域	あり (N=630)	144	307	129	50	404.50	67768.50**
		22.9%	48.7%	20.5%	7.9%		
	なし (N=188)	58	97	26	7	404.50	
		30.9%	51.6%	13.8%	3.7%		
情報	あり (N=630)	90	203	265	72	554.00	61400.50
		14.3%	32.2%	42.1%	11.4%		
	なし (N=188)	36	59	66	27	257.50	
		19.1%	31.4%	35.1%	14.4%		
コミュ	あり (N=630)	48	116	291	175	427.00	70832.50**
		7.6%	18.4%	46.2%	27.8%		
	なし (N=188)	26	51	80	31	427.00	
		13.8%	27.1%	42.6%	16.5%		
社会規範	あり (N=630)	23	230	287	90	528.50	65135.00*
		3.7%	36.5%	45.6%	14.3%		
	なし (N=188)	3	93	71	21	188.00	
		1.6%	49.5%	37.8%	11.2%		
役割責任	あり (N=630)	57	229	205	139	531.00	70844.00**
		9.0%	36.3%	32.5%	22.1%		
	なし (N=188)	25	94	46	23	244.00	
		13.3%	50.0%	24.5%	12.2%		

注) **p<.01, *p<.05, †p<.10, Wilcoxonの順位和検定。背景色ありの群が高いStepの割合が高かったことを示す。

表41 その他と成長指標(全学年・全学部)

成長指標	活動	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	順位和中央値	W値
目標	あり (N=221)	18	69	96	38	556.00	76015.5**
		8.1%	31.2%	43.4%	17.2%		
	なし (N=597)	82	225	227	63	247.50	
		13.7%	37.7%	38.0%	10.6%		
主体性	あり (N=221)	19	79	88	35	534.50	68067.5
		8.6%	35.7%	39.8%	15.8%		
	なし (N=597)	68	208	232	89	534.50	
		11.4%	34.8%	38.9%	14.9%		
向上心	あり (N=221)	12	65	102	42	503.50	71521.5*
		5.4%	29.4%	46.2%	19.0%		
	なし (N=597)	53	203	238	103	503.50	
		8.9%	34.0%	39.9%	17.3%		
知的関心	あり (N=221)	28	60	121	12	576.50	71979.5*
		12.7%	27.1%	54.8%	5.4%		
	なし (N=597)	97	206	249	45	258.50	
		16.2%	34.5%	41.7%	7.5%		
地域	あり (N=221)	34	114	51	22	404.50	77297**
		15.4%	51.6%	23.1%	10.0%		
	なし (N=597)	168	290	104	35	404.50	
		28.1%	48.6%	17.4%	5.9%		
情報	あり (N=221)	22	67	106	26	554.00	72836.5*
		10.0%	30.3%	48.0%	11.8%		
	なし (N=597)	104	195	225	73	257.50	
		17.4%	32.7%	37.7%	12.2%		
コミュ	あり (N=221)	16	40	97	68	427.00	72462*
		7.2%	18.1%	43.9%	30.8%		
	なし (N=597)	58	127	274	138	427.00	
		9.7%	21.3%	45.9%	23.1%		
社会規範	あり (N=221)	11	70	108	32	528.50	70271.5
		5.0%	31.7%	48.9%	14.5%		
	なし (N=597)	15	253	250	79	528.50	
		2.5%	42.4%	41.9%	13.2%		
役割責任	あり (N=221)	15	81	71	54	531.00	73381.5**
		6.8%	36.7%	32.1%	24.4%		
	なし (N=597)	67	242	180	108	244.00	
		11.2%	40.5%	30.2%	18.1%		

注) **p<.01, *p<.05, †p<.10, Wilcoxonの順位和検定。背景色ありの群が高いStepの割合が

高かったことを示す。

7. 将来の進路と成長指標

将来の進路との関連が最も強かった成長指標は、【目標の実現】であった（表 42、表 43、図 43）。

表42 将来の進路と成長指標（全学年・全学部）

成長指標	相関係数(r^s)
目標	0.40**
主体性	0.18**
向上心	0.14**
知的関心	0.15**
地域	0.15**
情報	0.21**
コミュ	0.15**
社会規範	0.13**
役割責任	0.16**

注) ** $p < .01$, Spearmanの順位相関係数,

将来の進路は、以下の通り順序変数として得点化した。

1. 具体的な方向性が決まっている = 3
2. いくつかの方向性の中で迷っている = 2
3. まだ方向性が決まっていない = 1

表43 将来の進路と目標の実現（全学年・全学部）

成長指標	選択枝	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4
目標の実現	1. 具体的な方向性が決まっている (N=294)	20 6.8%	60 20.4%	158 53.7%	56 19.0%
	2. いくつかの方向性の中で迷っている (N=271)	18 6.6%	98 36.2%	122 45.0%	33 12.2%
	3. まだ方向性が決まっていない (N=253)	62 24.5%	136 53.8%	43 17.0%	12 4.7%
	合計 (N=818)	100 12.2%	294 35.9%	323 39.5%	101 12.3%

図43-1 将来の進路と目標の実現(全学年・全学部)

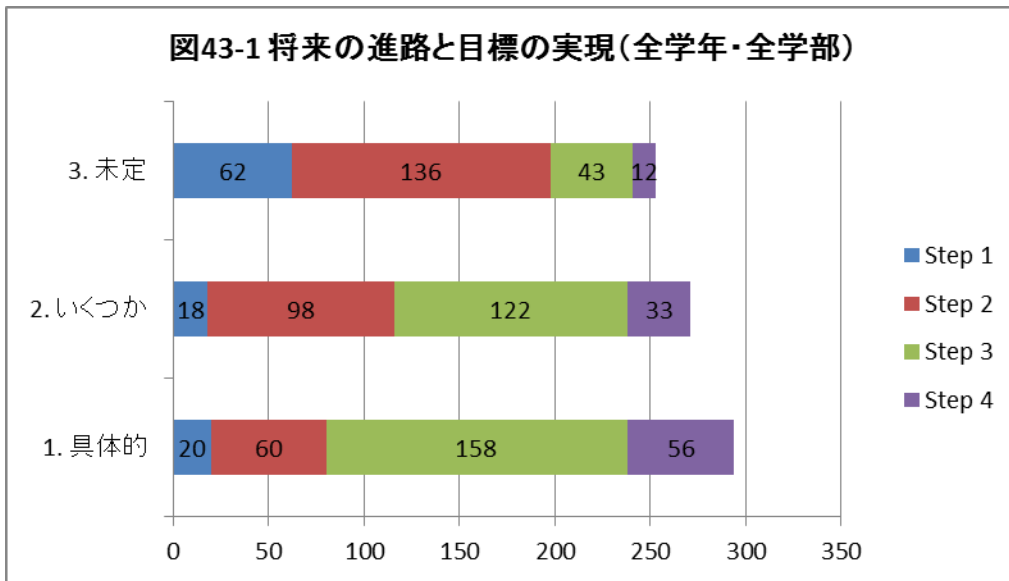
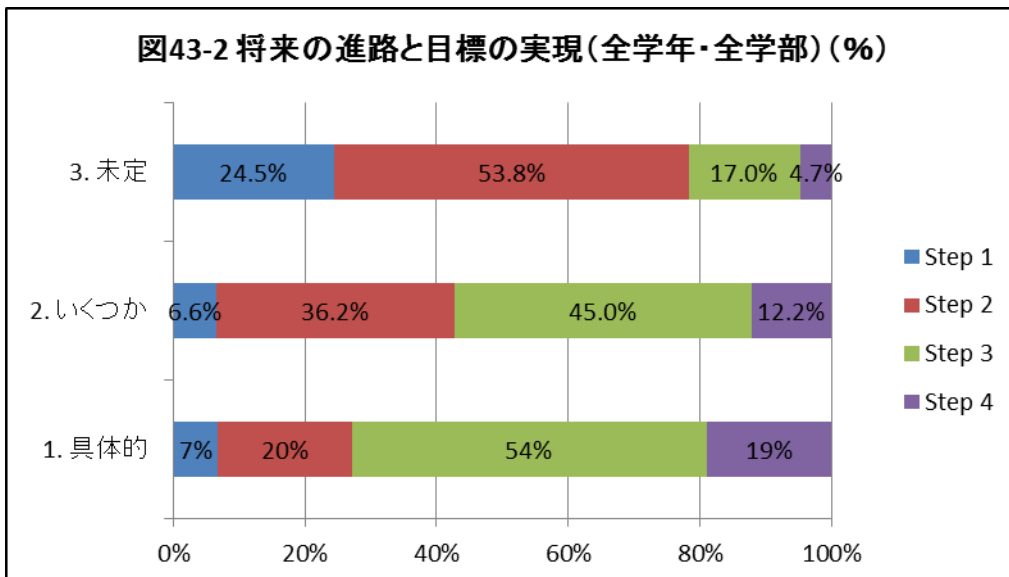


図43-2 将来の進路と目標の実現(全学年・全学部)(%)



8. 成長指標間の関連

9個の成長指標間の関連を以下に示す。Spearmanの順位相関係数が0.40以上のところで見ると、【社会的な役割と責任】は4個の成長指標と、【主体性と実行力】は3個の成長指標との間で関連が見られた(表44)。また、【知的関心と思考力】と【情報を使いこなす力】の間にも、0.40以上の相関が見られた。

表44 成長指標間の関連(全学年・全学部)

成長指標	目標	主体性	向上心	知的関心	地域	情報	コミュ	社会規範	役割責任
目標									
主体性	0.34**								
向上心	0.37**	0.42**							
知的関心	0.26**	0.29**	0.30**						
地域	0.23**	0.32**	0.25**	0.28**					
情報	0.25**	0.34**	0.28**	0.41**	0.36**				
コミュ	0.28**	0.41**	0.38**	0.33**	0.26**	0.32**			
社会規範	0.29**	0.38**	0.30**	0.32**	0.32**	0.38**	0.39**		
役割責任	0.32**	0.42**	0.40**	0.35**	0.32**	0.34**	0.45**	0.40**	

注)**p<.01, *p<.05, Spearmanの順位相関係数。背景色ありのセルは相関係数0.40以上。

第6章 成長スケールの結果②：学年別データ

第4章で述べた通り、成長スケールの実施から、全学年データ（横断的データ；斜めの矢印）と学年別データ（縦断的データ；横向きのブロック矢印）が蓄積される（表1）。本章では学年別データの結果について述べる。

学年別データについては、4年度分（2017年度・2016年度・2015年度・2014年度）の入学生において、1学年経過後・2時点のStepの移行がある。それぞれにおけるStep（各段階）の参加者数の変化と段階移行の分類を示す。

4年度分の入学生における各段階の参加者数の変化（表45～表54、表65～表74、表85～表94、表105～表114）を概観すると、Step1とStep2が減少して、Step3とStep4の割合が高くなる傾向にあることがわかる（特に9個の成長指標の平均値を示した表54、表74、表94、表114を参照）。

次に、4年度分の入学生における段階移行の分類（表55～表64、表75～表84、表95～表104、表115～表124）を概観する。分類は【下降】、【維持】、【上昇】の3種類としており、移行の幅は、1年後のStepの数字から1年前のStepの数字を引いて算出している。段階移行の分類に関しては、最も多かったのが【維持】、次に多かったのが【上昇】、最も少なかったのが【下降】であった（特に9個の成長指標の平均値を示した表64、表84、表104、表124を参照）。

表45 目標の実現：各段階の参加者数の変化（2017年度入学生）

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	32	20.9%	16	10.5%	-16
Step 2	43	28.1%	61	39.9%	18
Step 3	62	40.5%	66	43.1%	4
Step 4	16	10.5%	10	6.5%	-6
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表46 主体性と実行力：各段階の参加者数の変化（2017年度入学生）

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	25	16.3%	9	5.9%	-16
Step 2	69	45.1%	56	36.6%	-13
Step 3	45	29.4%	63	41.2%	18
Step 4	14	9.2%	25	16.3%	11
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表47 向上心と努力・挑戦:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	19	12.4%	11	7.2%	-8
Step 2	65	42.5%	48	31.4%	-17
Step 3	41	26.8%	65	42.5%	24
Step 4	28	18.3%	29	19.0%	1
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表48 知的関心と思考力:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	39	25.5%	14	9.2%	-25
Step 2	43	28.1%	48	31.4%	5
Step 3	67	43.8%	86	56.2%	19
Step 4	4	2.6%	5	3.3%	1
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表49 地域への関心と貢献:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	63	41.2%	41	26.8%	-22
Step 2	70	45.8%	79	51.6%	9
Step 3	16	10.5%	25	16.3%	9
Step 4	4	2.6%	8	5.2%	4
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表50 情報を使いこなす力:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	34	22.2%	14	9.2%	-20
Step 2	55	35.9%	67	43.8%	12
Step 3	54	35.3%	56	36.6%	2
Step 4	10	6.5%	16	10.5%	6
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表51 相手を尊重したコミュニケーション:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	24	15.7%	9	5.9%	-15
Step 2	36	23.5%	34	22.2%	-2
Step 3	74	48.4%	75	49.0%	1
Step 4	19	12.4%	35	22.9%	16
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表52 社会規範の理解と尊重:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	7	4.6%	9	5.9%	2
Step 2	86	56.2%	49	32.0%	-37
Step 3	53	34.6%	78	51.0%	25
Step 4	7	4.6%	17	11.1%	10
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表53 社会的な役割と責任:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	26	17.0%	11	7.2%	-15
Step 2	67	43.8%	68	44.4%	1
Step 3	42	27.5%	47	30.7%	5
Step 4	18	11.8%	27	17.6%	9
参加者数	153	100.0%	153	100.0%	0

表54 成長指標全体の平均値:各段階の参加者数の変化(2017年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年4月 (0年生)		2018年3月 (1年生)		増減
Step 1	29.9	19.5%	14.9	9.7%	-15.0
Step 2	59.3	38.8%	56.7	37.0%	-2.7
Step 3	50.4	33.0%	62.3	40.7%	11.9
Step 4	13.3	8.7%	19.1	12.5%	5.8
参加者数	153.0	100.0%	153.0	100.0%	0

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

表55 目標の実現: 段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生) → 2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	0	32	20.9%
	-2	9		
	-1	23		
維持	0	83	83	54.2%
上昇	1	28	38	24.8%
	2	9		
	3	1		
参加者数	合計	153	153	100.0%

表56 主体性と実行力: 段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生) → 2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	0	18	11.8%
	-2	1		
	-1	17		
維持	0	74	74	48.4%
上昇	1	50	61	39.9%
	2	8		
	3	3		
参加者数	合計	153	153	100.0%

表57 向上心と努力・挑戦：段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月	2018年3月	(%)
			(0年生)	(1年生)	
下降	-3	0	31		20.3%
	-2	6			
	-1	25			
維持	0	68	68		44.4%
上昇	1	40	54		35.3%
	2	11			
	3	3			
参加者数	合計	153	153		100.0%

表58 知的関心と思考力：段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月	2018年3月	(%)
			(0年生)	(1年生)	
下降	-3	0	23		15.0%
	-2	1			
	-1	22			
維持	0	74	74		48.4%
上昇	1	42	56		36.6%
	2	14			
	3	0			
参加者数	合計	153	153		100.0%

表59 地域への関心と貢献：段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生)	→	2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	0	28	→		18.3%
	-2	5				
	-1	23				
維持	0	70	70			45.8%
上昇	1	41	55	→		35.9%
	2	11				
	3	3				
参加者数	合計	153	153			100.0%

表60 情報を使いこなす力：段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生)	→	2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	0	29	→		19.0%
	-2	4				
	-1	25				
維持	0	70	70			45.8%
上昇	1	42	54	→		35.3%
	2	11				
	3	1				
参加者数	合計	153	153			100.0%

表61 相手を尊重したコミュニケーション: 段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生)	→	2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	0	30	→		19.6%
	-2	3				
	-1	27				
維持	0	67	67			43.8%
上昇	1	36	56	→		36.6%
	2	15				
	3	5				
参加者数	合計	153	153			100.0%

表62 社会規範の理解と尊重: 段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生)	→	2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	1	25	→		16.3%
	-2	3				
	-1	21				
維持	0	65	65			42.5%
上昇	1	53	63	→		41.2%
	2	10				
	3	0				
参加者数	合計	153	153			100.0%

表63 社会的な役割と責任：段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生) → 2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	0	35	22.9%
	-2	7		
	-1	28		
維持	0	60	60	39.2%
上昇	1	39	58	37.9%
	2	16		
	3	3		
参加者数	合計	153	153	100.0%

表64 成長指標全体の平均値：段階移行の分類と参加者数(2017年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年4月 (0年生) → 2018年3月 (1年生)	(%)
下降	-3	0.1	27.9	18.2%
	-2	4.3		
	-1	23.4		
維持	0	70.1	70.1	45.8%
上昇	1	41.2	55.0	35.9%
	2	11.7		
	3	2.1		
参加者数	合計	153.0	153.0	100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

表65 目標の実現:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	13	9.5%	9	6.6%	-4
Step 2	62	45.3%	58	42.3%	-4
Step 3	45	32.8%	50	36.5%	5
Step 4	17	12.4%	20	14.6%	3
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表66 主体性と実行力:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	9	6.6%	2	1.5%	-7
Step 2	50	36.5%	38	27.7%	-12
Step 3	60	43.8%	75	54.7%	15
Step 4	18	13.1%	22	16.1%	4
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表67 向上心と努力・挑戦:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	9	6.6%	4	2.9%	-5
Step 2	48	35.0%	41	29.9%	-7
Step 3	54	39.4%	66	48.2%	12
Step 4	26	19.0%	26	19.0%	0
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表68 知的関心と思考力:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	27	19.7%	13	9.5%	-14
Step 2	38	27.7%	38	27.7%	0
Step 3	70	51.1%	75	54.7%	5
Step 4	2	1.5%	11	8.0%	9
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表69 地域への関心と貢献:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	34	24.8%	25	18.2%	-9
Step 2	66	48.2%	70	51.1%	4
Step 3	22	16.1%	32	23.4%	10
Step 4	15	10.9%	10	7.3%	-5
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表70 情報を使いこなす力:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	16	11.7%	6	4.4%	-10
Step 2	45	32.8%	40	29.2%	-5
Step 3	64	46.7%	73	53.3%	9
Step 4	12	8.8%	18	13.1%	6
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表71 相手を尊重したコミュニケーション:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
Step 1	14	10.2%	6	4.4%	-8
Step 2	28	20.4%	21	15.3%	-7
Step 3	74	54.0%	67	48.9%	-7
Step 4	21	15.3%	43	31.4%	22
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表72 社会規範の理解と尊重:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
Step 1	3	2.2%	0	0.0%	-3
Step 2	51	37.2%	70	51.1%	19
Step 3	71	51.8%	26	19.0%	-45
Step 4	12	8.8%	41	29.9%	29
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表73 社会的な役割と責任:各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
Step 1	11	8.0%	5	3.6%	-6
Step 2	50	36.5%	49	35.8%	-1
Step 3	57	41.6%	49	35.8%	-8
Step 4	19	13.9%	34	24.8%	15
参加者数	137	100.0%	137	100.0%	0

表74 成長指標全体の平均値：各段階の参加者数の変化(2016年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (1年生)		2018年3月 (2年生)		増減
Step 1	15.1	11.0%	7.8	5.7%	-7.3
Step 2	48.7	35.5%	47.2	34.5%	-1.4
Step 3	57.4	41.9%	57.0	41.6%	-0.4
Step 4	15.8	11.5%	25.0	18.2%	9.2
参加者数	137.0	100.0%	137.0	100.0%	0

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

表75 目標の実現: 段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	1	27	→	27	19.7%
	-2	5				
	-1	21				
維持	0	68	68	→	68	49.6%
上昇	1	37	42	→	42	30.7%
	2	3				
	3	2				
参加者数	合計	137	137	→	137	100.0%

表76 主体性と実行力: 段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0	23	→	23	16.8%
	-2	5				
	-1	18				
維持	0	65	65	→	65	47.4%
上昇	1	40	49	→	49	35.8%
	2	9				
	3	0				
参加者数	合計	137	137	→	137	100.0%

表77 向上心と努力・挑戦：段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	1	27	→		19.7%
	-2	3				
	-1	23				
維持	0	67	67	→		48.9%
上昇	1	37	43	→		31.4%
	2	6				
	3	0				
参加者数	合計	137	137	→		100.0%

表78 知的関心と思考力：段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0	21	→		15.3%
	-2	4				
	-1	17				
維持	0	69	69	→		50.4%
上昇	1	33	47	→		34.3%
	2	13				
	3	1				
参加者数	合計	137	137	→		100.0%

表79 地域への関心と貢献：段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0	33	→		24.1%
	-2	3				
	-1	30				
維持	0	64	64			46.7%
上昇	1	35	40	→		29.2%
	2	5				
	3	0				
参加者数	合計	137	137			100.0%

表80 情報を使いこなす力：段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0	22	→		16.1%
	-2	5				
	-1	17				
維持	0	69	69			50.4%
上昇	1	37	46	→		33.6%
	2	6				
	3	3				
参加者数	合計	137	137			100.0%

表81 相手を尊重したコミュニケーション: 段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0	23	→		16.8%
	-2	5				
	-1	18				
維持	0	59	59			43.1%
上昇	1	40	55	→		40.1%
	2	12				
	3	3				
参加者数	合計	137	137			100.0%

表82 社会規範の理解と尊重: 段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生)	→	2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0	21	→		15.3%
	-2	2				
	-1	19				
維持	0	69	69			50.4%
上昇	1	42	47	→		34.3%
	2	4				
	3	1				
参加者数	合計	137	137			100.0%

表83 社会的な役割と責任：段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生) → 2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0	24	17.5%
	-2	5		
	-1	19		
維持	0	63	63	46.0%
上昇	1	44	50	36.5%
	2	5		
	3	1		
参加者数	合計	137	137	100.0%

表84 成長指標全体の平均値：段階移行の分類と参加者数(2016年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (1年生) → 2018年3月 (2年生)	(%)
下降	-3	0.2	24.6	17.9%
	-2	4.1		
	-1	20.2		
維持	0	65.9	65.9	48.1%
上昇	1	38.3	46.6	34.0%
	2	7.0		
	3	1.2		
参加者数	合計	137.0	137.0	100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

表85 目標の実現:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	9	8.0%	7	6.2%	-2
Step 2	49	43.4%	39	34.5%	-10
Step 3	38	33.6%	45	39.8%	7
Step 4	17	15.0%	22	19.5%	5
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表86 主体性と実行力:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	9	8.0%	6	5.3%	-3
Step 2	48	42.5%	36	31.9%	-12
Step 3	42	37.2%	52	46.0%	10
Step 4	14	12.4%	19	16.8%	5
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表87 向上心と努力・挑戦:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	9	8.0%	5	4.4%	-4
Step 2	37	32.7%	41	36.3%	4
Step 3	48	42.5%	44	38.9%	-4
Step 4	19	16.8%	23	20.4%	4
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表88 知的関心と思考力:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	12	10.6%	10	8.8%	-2
Step 2	44	38.9%	37	32.7%	-7
Step 3	51	45.1%	57	50.4%	6
Step 4	6	5.3%	9	8.0%	3
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表89 地域への関心と貢献:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	26	23.0%	11	9.7%	-15
Step 2	53	46.9%	56	49.6%	3
Step 3	24	21.2%	36	31.9%	12
Step 4	10	8.8%	10	8.8%	0
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表90 情報を使いこなす力:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	14	12.4%	7	6.2%	-7
Step 2	40	35.4%	30	26.5%	-10
Step 3	54	47.8%	61	54.0%	7
Step 4	5	4.4%	15	13.3%	10
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表91 相手を尊重したコミュニケーション:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	9	8.0%	3	2.7%	-6
Step 2	27	23.9%	20	17.7%	-7
Step 3	57	50.4%	59	52.2%	2
Step 4	20	17.7%	31	27.4%	11
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表92 社会規範の理解と尊重:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	5	4.4%	0	0.0%	-5
Step 2	35	31.0%	68	60.2%	33
Step 3	57	50.4%	15	13.3%	-42
Step 4	16	14.2%	30	26.5%	14
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表93 社会的な役割と責任:各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	11	9.7%	2	1.8%	-9
Step 2	39	34.5%	40	35.4%	1
Step 3	35	31.0%	41	36.3%	6
Step 4	28	24.8%	30	26.5%	2
参加者数	113	100.0%	113	100.0%	0

表94 成長指標全体の平均値：各段階の参加者数の変化(2015年度入学生)

実施時点 (学年)	2017年3月 (2年生)		2017年12月 (3年生)		増減
Step 1	11.6	10.2%	5.7	5.0%	-5.9
Step 2	41.3	36.6%	40.8	36.1%	-0.6
Step 3	45.1	39.9%	45.6	40.3%	0.4
Step 4	15.0	13.3%	21.0	18.6%	6.0
参加者数	113.0	100.0%	113.0	100.0%	0

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

表95 目標の実現: 段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月	→	2017年12月	(%)
			(2年生)	(3年生)		
下降	-3	0	20	→	20	17.7%
	-2	4				
	-1	16				
維持	0	55	55	→	55	48.7%
上昇	1	33	38	→	38	33.6%
	2	5				
	3	0				
参加者数	合計	113	113	→	113	100.0%

表96 主体性と実行力: 段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月	→	2017年12月	(%)
			(2年生)	(3年生)		
下降	-3	1	21	→	21	18.6%
	-2	2				
	-1	18				
維持	0	49	49	→	49	43.4%
上昇	1	38	43	→	43	38.1%
	2	5				
	3	0				
参加者数	合計	113	113	→	113	100.0%

表97 向上心と努力・挑戦：段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月	→	2017年12月	(%)
			(2年生)	(3年生)		
下降	-3	0	27	→	27	23.9%
	-2	3				
	-1	24				
維持	0	55	55	→	55	48.7%
上昇	1	25	31	→	31	27.4%
	2	5				
	3	1				
参加者数	合計	113	113	→	113	100.0%

表98 知的関心と思考力：段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月	→	2017年12月	(%)
			(2年生)	(3年生)		
下降	-3	0	15	→	15	13.3%
	-2	3				
	-1	12				
維持	0	70	70	→	70	61.9%
上昇	1	24	28	→	28	24.8%
	2	4				
	3	0				
参加者数	合計	113	113	→	113	100.0%

表99 地域への関心と貢献：段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (2年生)	→	2017年12月 (3年生)	(%)
下降	-3	0	19	→		16.8%
	-2	3				
	-1	16				
維持	0	50	50			44.2%
上昇	1	39	44	→		38.9%
	2	5				
	3	0				
参加者数	合計	113	113			100.0%

表100 情報を使いこなす力：段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (2年生)	→	2017年12月 (3年生)	(%)
下降	-3	0	15	→		13.3%
	-2	1				
	-1	14				
維持	0	56	56			49.6%
上昇	1	35	42	→		37.2%
	2	6				
	3	1				
参加者数	合計	113	113			100.0%

表101 相手を尊重したコミュニケーション: 段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (2年生) → 2017年12月 (3年生)	(%)
下降	-3	0	17	15.0%
	-2	3		
	-1	14		
維持	0	56	56	49.6%
上昇	1	31	40	35.4%
	2	8		
	3	1		
参加者数	合計	113	113	100.0%

表102 社会規範の理解と尊重: 段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (2年生) → 2017年12月 (3年生)	(%)
下降	-3	0	22	19.5%
	-2	1		
	-1	21		
維持	0	58	58	51.3%
上昇	1	29	33	29.2%
	2	4		
	3	0		
参加者数	合計	113	113	100.0%

表103 社会的な役割と責任：段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (2年生)	→	2017年12月 (3年生)	(%)
下降	-3	0	23	→		20.4%
	-2	7				
	-1	16				
維持	0	48	48			42.5%
上昇	1	36	42	→		37.2%
	2	5				
	3	1				
参加者数	合計	113	113			100.0%

表104 成長指標全体の平均値：段階移行の分類と参加者数(2015年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2017年3月 (2年生)	→	2017年12月 (3年生)	(%)
下降	-3	0.1	19.9	→		17.6%
	-2	3.0				
	-1	16.8				
維持	0	55.2	55.2			48.9%
上昇	1	32.2	37.9	→		33.5%
	2	5.2				
	3	0.4				
参加者数	合計	113.0	113.0			100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

表105 目標の実現:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	16	15.5%	13	12.6%	-3
Step 2	29	28.2%	23	22.3%	-6
Step 3	42	40.8%	47	45.6%	5
Step 4	16	15.5%	20	19.4%	4
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表106 主体性と実行力:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	9	8.7%	6	5.8%	-3
Step 2	40	38.8%	30	29.1%	-10
Step 3	34	33.0%	37	35.9%	3
Step 4	20	19.4%	30	29.1%	10
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表107 向上心と努力・挑戦:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	5	4.9%	4	3.9%	-1
Step 2	33	32.0%	31	30.1%	-2
Step 3	43	41.7%	43	41.7%	0
Step 4	22	21.4%	25	24.3%	3
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表108 知的関心と思考力:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	13	12.6%	13	12.6%	0
Step 2	27	26.2%	28	27.2%	1
Step 3	55	53.4%	43	41.7%	-12
Step 4	8	7.8%	19	18.4%	11
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表109 地域への関心と貢献:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	39	37.9%	17	16.5%	-22
Step 2	41	39.8%	51	49.5%	10
Step 3	12	11.7%	22	21.4%	10
Step 4	11	10.7%	13	12.6%	2
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表110 情報を使いこなす力:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
	人数	割合	人数	割合	
Step 1	13	12.6%	11	10.7%	-2
Step 2	32	31.1%	22	21.4%	-10
Step 3	40	38.8%	44	42.7%	4
Step 4	18	17.5%	26	25.2%	8
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表111 相手を尊重したコミュニケーション:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
Step 1	9	8.7%	9	8.7%	0
Step 2	13	12.6%	9	8.7%	-4
Step 3	53	51.5%	39	37.9%	-14
Step 4	28	27.2%	46	44.7%	18
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表112 社会規範の理解と尊重:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
Step 1	5	4.9%	2	1.9%	-3
Step 2	48	46.6%	29	28.2%	-19
Step 3	35	34.0%	44	42.7%	9
Step 4	15	14.6%	28	27.2%	13
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表113 社会的な役割と責任:各段階の参加者数の変化(2014年度入学生)

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
Step 1	7	6.8%	7	6.8%	0
Step 2	34	33.0%	23	22.3%	-11
Step 3	34	33.0%	40	38.8%	6
Step 4	28	27.2%	33	32.0%	5
参加者数	103	100.0%	103	100.0%	0

表114 成長指標全体の平均値：各段階の参加者数の変化（2014年度入学生）

実施時点 (学年)	2016年12月 (3年生)		2017年12月 (4年生)		増減
Step 1	12.9	11.4%	9.1	8.1%	-3.8
Step 2	33.0	29.2%	27.3	24.2%	-5.7
Step 3	38.7	34.2%	39.9	35.3%	1.2
Step 4	18.4	16.3%	26.7	23.6%	8.2
参加者数	103.0	91.2%	103.0	91.2%	0

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

表115 目標の実現:段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月	2017年12月	(%)
			(3年生)	(4年生)	
下降	-3	0	22		21.4%
	-2	3			
	-1	19			
維持	0	49	49		47.6%
上昇	1	25	32		31.1%
	2	5			
	3	2			
参加者数	合計	103	103		100.0%

表116 主体性と実行力:段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月	2017年12月	(%)
			(3年生)	(4年生)	
下降	-3	0	22		21.4%
	-2	4			
	-1	18			
維持	0	41	41		39.8%
上昇	1	28	40		38.8%
	2	12			
	3	0			
参加者数	合計	103	103		100.0%

表117 向上心と努力・挑戦：段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月	2017年12月	(%)
			(3年生)	(4年生)	
下降	-3	0	26		25.2%
	-2	8			
	-1	18			
維持	0	45	45		43.7%
上昇	1	25	32		31.1%
	2	5			
	3	2			
参加者数	合計	103	103		100.0%

表118 知的関心と思考力：段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月	2017年12月	(%)
			(3年生)	(4年生)	
下降	-3	0	27		26.2%
	-2	5			
	-1	22			
維持	0	42	42		40.8%
上昇	1	26	34		33.0%
	2	8			
	3	0			
参加者数	合計	103	103		100.0%

表119 地域への関心と貢献：段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月	2017年12月	(%)
			(3年生)	(4年生)	
下降	-3	0	13		12.6%
	-2	0			
	-1	13			
維持	0	49	49		47.6%
上昇	1	34	41		39.8%
	2	6			
	3	1			
参加者数	合計	103	103		100.0%

表120 情報を使いこなす力：段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月	2017年12月	(%)
			(3年生)	(4年生)	
下降	-3	0	20		19.4%
	-2	9			
	-1	11			
維持	0	44	44		42.7%
上昇	1	28	39		37.9%
	2	10			
	3	1			
参加者数	合計	103	103		100.0%

表121 相手を尊重したコミュニケーション: 段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月 (3年生)	→	2017年12月 (4年生)	(%)
下降	-3	1	18	→		17.5%
	-2	5				
	-1	12				
維持	0	46	46			44.7%
上昇	1	33	39	→		37.9%
	2	4				
	3	2				
参加者数	合計	103	103			100.0%

表122 社会規範の理解と尊重: 段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月 (3年生)	→	2017年12月 (4年生)	(%)
下降	-3	1	19	→		18.4%
	-2	2				
	-1	16				
維持	0	39	39			37.9%
上昇	1	30	45	→		43.7%
	2	14				
	3	1				
参加者数	合計	103	103			100.0%

表123 社会的な役割と責任：段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月 (3年生) → 2017年12月 (4年生)	(%)
下降	-3	1	21	20.4%
	-2	5		
	-1	15		
維持	0	46	46	44.7%
上昇	1	28	36	35.0%
	2	8		
	3	0		
参加者数	合計	103	103	100.0%

表124 成長指標全体の平均値：段階移行の分類と参加者数(2014年度入学生)

移行の分類口	移行の幅	参加者数	2016年12月 (3年生) → 2017年12月 (4年生)	(%)
下降	-3	0.3	20.9	20.3%
	-2	4.6		
	-1	16.0		
維持	0	44.6	44.6	43.3%
上昇	1	28.6	37.6	36.5%
	2	8.0		
	3	1.0		
参加者数	合計	103.0	103.0	100.0%

注) 平均値は9個の成長指標を平均したものである。

第7章 学生と教員の面談およびその後の手続き

1. 学生と教員の面談

成長スケールの手続きとして、「学生と教員の面談」がある（表1）。面談では両者の評価の相互確認・確定とともに、自由記述欄をもとに学生の活動状況や学生生活の要望等に関する話し合いが行われた。これらについては、調査票の結果とともに、【教員意見報告書】（付録4）の形式で、面談を行った教員に、任意で記述してもらうことにした。【教員意見報告書】の項目と教員からの主な意見報告は、以下の通りである。

2. 学生へのフィードバック

学生へのフィードバックとして、面談実施後の回答の結果を【個人票】（付録3）の形で返却するようにした。【個人票】では、調査票への（学生と教員の面談で相互確認・確定した）回答の経年変化を表示して、大学生活での過程を振り返ることができるようにした。

3. 調査票と面談用シートの保管・引継ぎ

調査票と面談用シートは担当教員が入学年度別に色分けされたファイルで保管することにして、学期・年度替わりなどの機会でゼミ構成や担当教員が変わる場合は、ファイルを入れ替えるようにした（引継ぎ）。学生の卒業時には、在学時の調査票・面談用シートをまとめて返却することとした。

【教員意見報告書】

質問項目

- 調査票について、ご意見・ご感想・ご質問・ご要望・改善点がございましたら、ご記入下さい。
- 面談について、ご意見・ご感想・ご質問・ご要望・改善点がございましたら、ご記入下さい。
- 学生から、「四日市大学成長スケール」や学生生活全般につきまして、要望・相談・質問・提案等がございましたらご記入下さい。
- その他、「四日市大学成長スケール」全般につきまして、ご意見・ご感想・ご質問・ご要望・改善点がございましたらご記入下さい。

教員からの主な意見報告

1. 成長スケールの取り組みそのものについて

- (1) 面談において学生の成長が見られた。学生にとって自身を振り返る機会になった。
- (2) 面談は学生とコミュニケーションを取るためのよい機会になった。
- (3) 面談は時期的・時間的な負担感がある。
- (4) 成長スケールの取り組みは、学生の内面に踏み込んだり、学生を人材像にあてはめようとする可能性がある。

2. 成長スケールの実施方法について

- (1) 実施時期は、学生・教員の時間がある時期にして欲しい。
- (2) データの入力や集計で手作業の部分を減らしてシステム化した方がよい。

3. 成長指標ルーブリックについて

- (1) 成長指標ルーブリックにおいて、学生の評価の基準となる活動が、各学生で異なっている。例えば、【目標の実現】の成長指標ルーブリックにおいて、学修面での活動を基準とする学生とクラブ活動を基準とする学生が、同じ段階（Step）で評価されている。
- (2) 成長指標ルーブリックにおける学生の自己評価について、自らを深く省みている学生が高い段階（Step）を選択しないことがある。例えば、就職活動を経験した学生が、前回の実施時期より低い段階（Step）で自己評価することがある。

4. 学生からの意見・要望について

- (1) 教員との面談は、(定期的に行われることで)自身を振り返る良い機会になっている。
- (2) 授業や学内の施設を改善して欲しい。

第8章 総合考察

1. 結果の振り返りと考察

(1) 学生の成長に関する全体的な傾向

成長指標全体の結果から、学生が成長を実感しやすい成長指標は【相手を尊重したコミュニケーション】であることが明らかになった(表15, 図15)。これについては、望ましい結果であるが、各学生がどのような相手との、どのような場面でのコミュニケーションを想定して自己評価をしているのか、考慮する必要があるであろう。

同じく成長指標全体の結果から、学生が成長を実感することが難しい成長指標は【地域への関心と貢献】であることが明らかになった(表15, 図15)。これについては、「地域がどこを指すのか」、「地域に貢献する活動とは何か」が学生にとって分かりづらい可能性があり、他の成長指標と比べても、学生にとって回答づらい、分かりづらいものであることも考えられる。しかしながら、【地域への関心と貢献】は、学年とともに少しずつ上昇が見られることも明らかになっている(表27, 図27, 表37)。ここから学生は、大学生活を通じて、少しずつ地域について、理解するようになっていくことが窺える。【地域への関心と貢献】で学生の成長の実感を高めるには、今後も教育活動を通じた取り組みを継続していくことが必要であろう。

(2) 全学年データの学年および学年別データと学生の成長

第5章の学年と成長指標の関連(表37)、および第6章の学年別データ(表45～表125)から、学生は学年の経過に伴い、成長の実感を高めていく可能性が示された。大学生活を送ることで、成長の実感を高めていく学生が多くなっていくことは、望ましい結果であると考えられる。このことの要因については、以下の点から考えられるであろう。

(3) 大学生活で取り組んでいる活動と学生の成長

大学生活で取り組んでいる活動と成長指標の関連から、活動への取り組みの概況と、学生の成長の実感との関わりが明らかになった。【課外活動 地域活動】、【アルバイト】、【その他】(語学習得、資格取得を目指した活動)は、概ね【あり】の方が成長の実感が得られる結果となった(表39, 表40, 表41)。一方、【クラブ】に関しては、【あり】の学生が成長の実感が得られている成長指標と【なし】の学生が成長の実感が得られている成長指標があることが明らかになった(表38)。

【課外活動 地域活動】、【アルバイト】、【その他】の活動については、基本的に学生の成長に寄与する活動であることが示された。

【クラブ】の活動については、学生の成長に寄与する側面と寄与しない側面があることが示された。成長指標に関していえば、前者は【主体性と実行力】、【相手を尊重したコミュニケーション】、【社会的な役割と責任】であり、活動を通して成長の実感が得られていることが想定される。対して、後者は【知的関心と思考力】、【地域への関心と貢献】、【情報を使いこなす力】であり、いずれも大学における学びの側面(学修成長フィールド; 第3章を参照)である。ここからクラブ活動を行っている学生については、成長の実感が高まっている側面に肯定的な評価をすることと、成長の実感が高まっていない側面については、留意して支援することが必要であると考えられる。

学生はこれらの活動を行った方が成長を実感でき、大学としても活動を支援していく方が望ましいと思われる。しかしながら、各学生の志向性(好みや向き不向き)も考慮されるべきである。また元

来、成長への意識や志向をもった学生が、自らの志向にあった活動を選択している可能性も考慮する必要があるであろう。

(4) 将来の進路と学生の成長

【将来の進路】と最も関連の深い成長指標は、【目標の実現】であった（表 42、表 43、図 43）。やはり両者の概念の結びつきは強く、学生の成長の観点からは妥当な結果であると考えられる。昨今の大学教育（特にキャリア教育）では、学生が目標について考えることを重視する傾向がある。全ての学生が目標を持つことで成長の実感が得られる訳ではないと思われるが、目標について考える機会を持ってもらうことは、大学生活での成長を促す方法の 1 つとして、有効である可能性が示されたと考えられる。

(5) 成長指標間の関連から

成長指標間の関連から、学生の成長の実感には、関連する構造があることが示された。

【社会的な役割と責任】における成長の実感は、【主体性と実行力】、【向上心と努力・挑戦】、【相手を尊重したコミュニケーション】、【社会規範の理解と尊重】における成長の実感との関連が想定される。大学生がこれらの成長指標で成長の実感を高めていることは、責任感をもって役割を果たす活動に取り組んでいることと、関連する可能性が考えられる。

【知的関心と思考力】と【情報を使いこなす力】における成長の実感の関連は、大学での学びにおける成長の実感を高めるために、重要である可能性が考えられる。

これら成長指標間の関連を考慮しながら、学生の成長にとって有効な教育を模索していくことが重要であろう。

2. 今後の課題と方向性

(1) 結果の応用に関する留意事項

成長スケールの結果から、学生の成長の実感に関する傾向が示されたが、これは大学全体の傾向である。実際の教育では、各学生の状況を十分に見ていく必要があるであろう。第 7 章でも述べた通り、成長指標ルーブリックで示される段階（Step）については、「評価の基準となる活動が、各学生で異なっている。」「自らを深く省みている学生が高い段階（Step）を選択しないことがある。」といったことも教員から指摘されている。学生の成長は、学生個人の行っている活動や志向から考えていく必要があるであろう。また成長指標ルーブリックで示される段階（Step）の最終的な決定には、面談を経た教員の視点も含まれていることにも、留意する必要がある。

(2) 学生と教員の面談

(1) で述べた点からも考えて、学生と教員の面談は、学生個人をフォローする意義があると考えられる。第 7 章でも述べた通り、学生と教員の面談には、学生と教員双方にとって「自身を振り返る」「コミュニケーションを取る」機会になっている。こうした点からも、学生と教員の面談を、より意義深い機会とするよう、さらなる検討が必要である。

3. 今後の方向性

(1) 大学教育の方向性

成長スケールの取り組みから、学生の大学生活における成長の実感、それらを形成している要因と課題が示されたと考えられる。これらは、大学における教育の長所と伸ばしていかなければならない所を呈示しており、それらに対応できる教育のあり方を模索する必要がある。

(2) 研究および分析

本取り組みでは、成長スケールの調査票の内容に基づく基礎的な変数（第5章 全学年データ）と各学年の1年後2時点の変化（第6章 学年別データ）について扱った。前者については、新たな変数を追加して、学生の成長の実感における他の側面を検討することも考えられる。後者については、1年後2時点の変化のさらなる分析、および今後蓄積されていく、2年後3時点以降の成長の実感の変化について検討することも考えられる。また、学生個人に注目した成長の実感の分析も、方向性として考えられるであろう。

(3) 成長スケールの実施と運営

成長スケールの取り組みは、意義あるものと考えられるが、時間や労力がかかるものでもあるとの声もある（第7章）。例えば、効率化を目指した作業のシステム化も今後考慮されるべきである。また、特に、時間や労力の負担があると思われるのは、教員と学生の面談である。これについては、「実施時期の設定」、「教員が担当する学生数の平準化」、「効率的な手続きの模索」などの工夫も必要であろう。

(4) 成長スケールの有効な活用

①学内での活用

成長スケールの取り組みについて、各学生が主体的に取り組む部分は、現状ではそう大きくはない。また各学生が、自身の結果について、データとして、アクセスできる環境にはない。もしこうした仕組みやシステムができれば、より学生の成長に寄与する可能性がある。例えば、就職活動において求められる、学生生活の振り返りや自己アピールなどに役立つ可能性も考えられる。

また、学生と教員の面談で述べられる、学生の声（学生生活の要望）が活かされる仕組みを学内で整備することも必要であろう。

②学外への展開

成長スケールについて、学外に展開していくことも有効な活用の方向性であると考えられる。まず、地域の人々に取り組みや分かったことを示すことで、大学教育の成果が分かりやすくなり、地域と連携した活動が広がっていく可能性があるであろう。

またこれらの成果は、大学教育全般にとっても資する取り組みであると考えられ、関連する学問分野での展開も有用な取り組みであると考えられる。

以上が、2014年度から2018年度における、四日市大学成長スケールの取り組みである。取り組みで得られた成果を基に、地域の発展、大学における教育の充実、そして学生の成長が、柔軟に関連づけられるような仕組みがつくられていくことが、今後の目指すところであると考えられる。

付録1 四日市大学成長スケール：調査票

1. 四日市大学成長スケールは、「皆さんがどのように成長してきたのか」を実感して「今後はどのような取り組みが必要なのか」を考えてもらうために実施しています。
 2. 四日市大学成長スケールは、学生と教員で成長に対する意識を共有するための取り組みです。回答の内容により、マイナスの評価をしたり、特定の考えや行動を強制したりすることはありません。周囲と相談したりせず、皆さんのありのままの気持ちや考えで回答して下さい。
 3. 回答は全て任意です。また回答の結果を、同意なく個人が特定される形で公表することはありません。
 4. 今回の調査票を実施して頂いた後に、ゼミの担当教員との面談があります。
 5. 四日市大学では、皆さんの回答を分析して、教育カリキュラムや大学生活における支援について、よりよい方向を目指して行こうと思います。
- ★四日市大学成長スケールは、毎年定期的実施して、皆さんの成長を継続的にフォローしていく予定です。

回答日：	年	月	日
------	---	---	---

大学生活で取り組んでいる活動	選択枝のいずれかに○	記入欄：活動の名称（○○部、□□会）、役職・係・ポジションなど、取り組みの内容・成果
クラブ	1. あり 2. なし	
課外活動 地域活動	1. あり 2. なし	
アルバイト	1. あり 2. なし	
その他 (語学習得、資格取得 を目指した活動など)	1. あり 2. なし	
将来の進路		
	選択枝のいずれかに○	記入欄：業界・業種、勤務地、職種の希望など
	1. 具体的な方向性が決まっている 2. いくつかの方向性の中で迷っている 3. まだ方向性が決まっていない	

◆それぞれの項目を読んで、現在の自分に、最もあてはまると思うステップ1つに○をつけて下さい。さらに、ステップを選んだ理由として、自分の「考えていること、取り組んでいること」についても記入して下さい。

【成長指標 1】 目標の実現：目標を持ち、実現しようとする人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標を持つことの <u>大切さを理解している。</u>	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標を <u>実際に持っている。</u>	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標のために、 <u>具体的で計画的な取り組みを行っている。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 2】 主体性と実行力：自ら考え、実際に行動する人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、自分から行動することの <u>大切さを理解している。</u>	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、自分から <u>実際に行動している。</u>	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、 <u>他のメンバーと協力しながら、先頭に立って行動している。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 3】 向上心と努力・挑戦：向上心を持ち、努力・挑戦しようとする人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくことの <u>大切さを理解している。</u>	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくために、 <u>実際に努力している。</u>	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくために、 <u>現状に満足せず新しいことに挑戦している。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 4】 知的関心と思考力：知的関心を持ち、考える力のある人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	人間と社会、自然環境、科学技術などについて、 <u>興味・関心を持つことができる。</u>	興味・関心を持ったことについて、 <u>自分で調べて、より深く知ろうとすることができる。</u>	問題意識を持ったことについて、 <u>論理的に思考することができる。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

* 「Step 2：人間と社会、自然環境、科学技術など…」は、1つの領域への興味・関心でも構いません。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 5】 地域への関心と取り組み：地域に関心を持ち、地域での活動に取り組む人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	自分が生活している地域に、 <u>関心を持つことの大切さを理解している。</u>	地域の現状と課題について知るために、 <u>地域についての学びの機会に参加している。</u>	学内・学外の人々と協力しながら、 <u>地域の問題解決、地域貢献のプロジェクトに積極的に取り組んでいる。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

* 「地域」は三重県の四日市に限らず、出身地や将来住むところをイメージして回答しても構いません。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 6】 情報を使いこなす力：必要な情報・データを収集・選択して分析することができる人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	問題解決や課題に取り組む時に、 <u>様々な情報源から情報を収集することの大切さを理解している。</u>	収集した情報について、 <u>信頼性・客観性を見極めることの大切さを理解している。</u>	収集した情報について、 <u>信頼性・客観性を見極めながら、分析して結論を出すことができる。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 7】 相手を尊重したコミュニケーション：

相手を理解・尊重する姿勢を持ちながら、自分の意見を伝えて話し合うことができる人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	社会生活において、 <u>自分の意見を持ち、相手に伝えることを心がけている。</u>	社会生活において、 <u>相手の意見を聴きながら、自分の考えを伝えることを心がけている。</u>	社会生活において、 <u>互いの立場を考慮しながら、自分と相手双方にとってよりよい方法を見つけることを心がけている。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

*「社会生活において…」は仲間と話す場面だけではなく、発表、面接、ミーティングなどの場面もイメージして下さい。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 8】 社会規範の理解と尊重：社会にある規範を守り、その意味を知って行動できる人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	法律・規則・マナー・礼儀などの、社会規範を知り、 <u>それらを守って行動することの大切さを理解している。</u>	社会規範には、 <u>理由や意味があり、それらを理解した上で行動することの大切さを理解している。</u>	社会規範の理由や意味を理解した上で、 <u>個人の幸福や社会の利益のために適切に運用することの大切さを理解している。</u>	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

選んだ理由（考えや取り組み）

【成長指標 9】 社会的な役割と責任：自分の役割を知り、責任感を持つ人間

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	あてはまらない
これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	社会生活の適切な関係において、 <u>与えられた課題や役割をこなすことを心がけている。</u>	与えられた課題や役割が、 <u>自分にとってどのような意味があるのかを</u> 考えながら取り組むことを心がけている。	与えられた課題や役割の組織や社会にとっての <u>意味を</u> 考えて、 <u>責任感を持って</u> 取り組むことを心がけている。	どれにもあてはまらない。 質問の意味が分からない。

選んだ理由（考えや取り組み）

付録2 四日市大学成長スケール：面談用シート

学籍番号 _____ 氏名 _____ 担当教員 _____ 先生 _____

記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____ 年生 現在)

※回答後は教員がファイルで保管します。

●大学生活で「成長できた」と思っていること

●大学生活で「もう少し成長したい」と思っていること

●大学生活で「これからがんばりたい」と思っていること（できれば具体的に）

●自由記述欄（感想・意見，大学生活での要望・質問，気になっていることなどがある場合）

【教員記入欄】 面談日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

付録3 四日市大学成長スケール：個人票

2019年3月発行
学生に配付

学籍番号	3216003	氏名	四日市 太郎
------	---------	----	--------

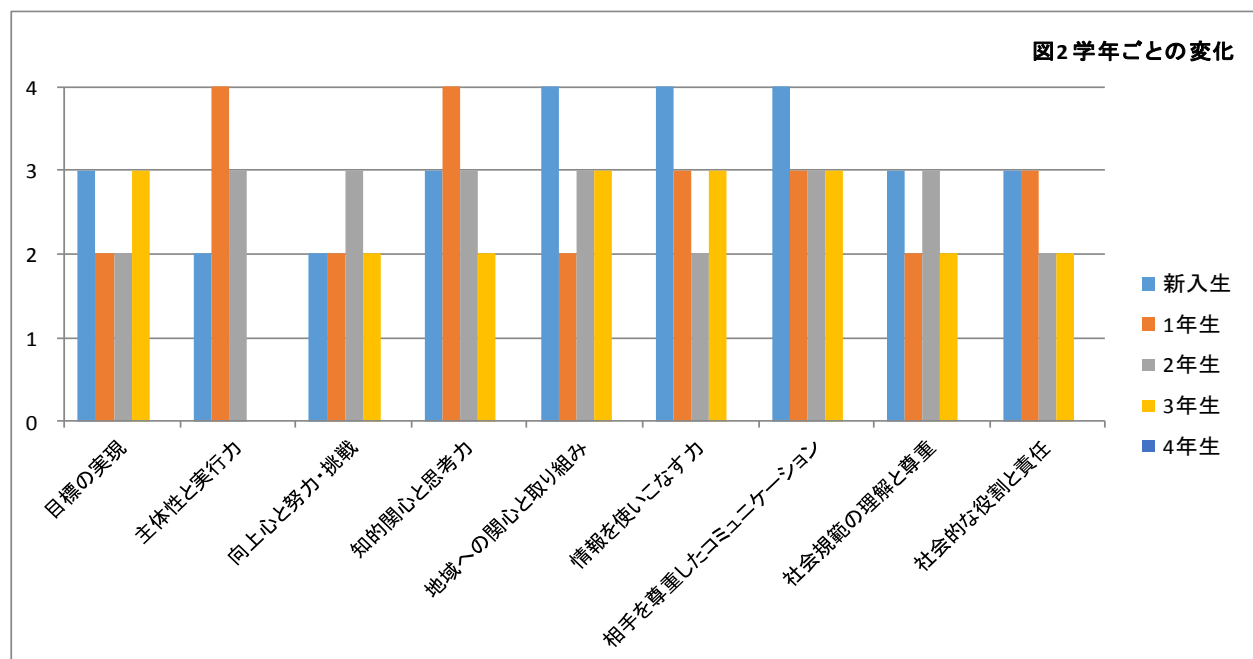
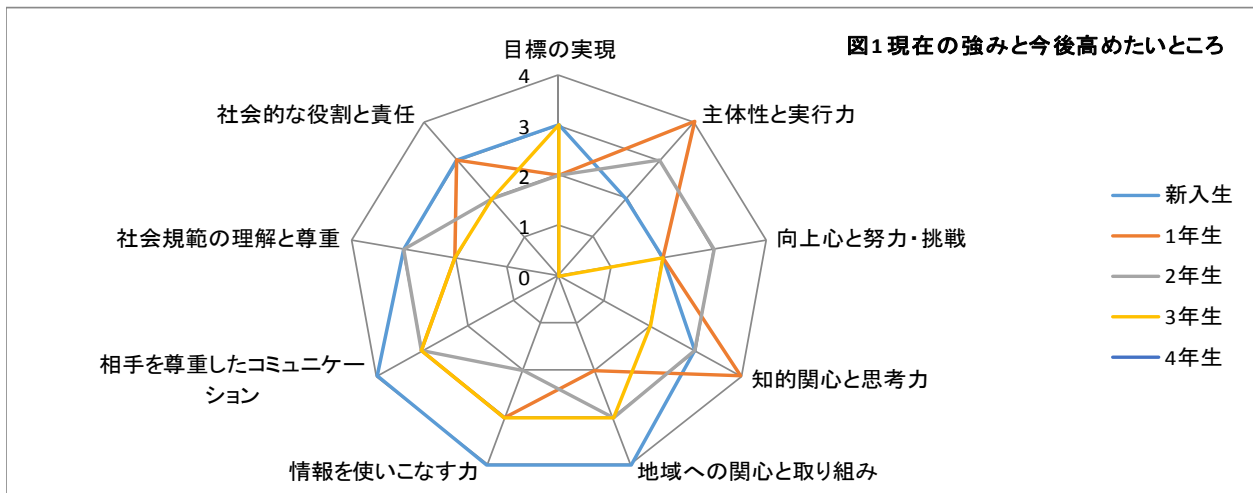
【学生生活の基本情報】

実施時期	学年	担当教員	クラブ活動	課外活動・地域での活動	アルバイト	その他(英会話・資格など)	将来の進路について
2016年9月	新入生	三重 花子	なし	なし	あり	なし	具体的な方向性が決まっている
2017年3月	1年生	三重 花子	なし	なし	あり	なし	
2018年3月	2年生	富田 一郎	なし	なし	なし	なし	具体的な方向性が決まっている
2018年12月	3年生	富田 一郎	なし	なし	なし	なし	まだ方向性が決まっていない
	4年生						

成長指標	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4
1. 目標の実現	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標を持つことの大切さを理解している。	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標を実際に持っている。	自分が実現したいと思う、将来に向けた目標のために、具体的に計画的な取り組みを行っている。
2. 主体性と実行力	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、自分から行動することの大切さを理解している。	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、自分から実際に行動している。	個人やチームで何かに取り組む時に、自分の考えを持ち、他のメンバーと協力しながら、先頭に立って行動している。
3. 向上心と努力・挑戦	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくことの大切さを理解している。	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくために、実際に努力している。	向上心を持ち、自分の可能性を伸ばしていくために、現状に満足せず新しいことに挑戦している。
4. 知的関心と思考力	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	人間と社会、自然環境、科学技術などについて、興味・関心を持つことができる。	興味・関心を持ったことについて、自分で調べて、より深く知ろうとすることができる。	問題意識を持ったことについて、論理的に思考することができる。
5. 地域への関心と取り組み	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	自分が生活している地域に、関心を持つことの大切さを理解している。	地域の現状と課題について知るために、地域についての学びの機会に参加している。	学内・学外の人々と協力しながら、地域の問題解決、地域貢献のプロジェクトに積極的に取り組んでいる。
6. 情報を使いこなす力	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	問題解決や課題に取り組む時に、様々な情報源から情報を収集することの大切さを理解している。	収集した情報について、信頼性・客観性を見極めることの大切さを理解している。	収集した情報について、信頼性・客観性を見極めながら、分析して結論を出すことができる。
7. 相手を尊重したコミュニケーション	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	社会生活において、自分の意見をもち、相手に伝えることを心がけている。	社会生活において、相手の意見を聴きながら、自分の考えを伝えることを心がけている。	社会生活において、互いの立場を考慮しながら、自分と相手双方にとってよりよい方法を見つけることを心がけている。
8. 社会規範の理解と尊重	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	法律・規則・マナー・礼儀などの、社会規範を知り、それらを守って行動することの大切さを理解している。	社会規範には、理由や意味があり、それらを理解した上で行動することの大切さを理解している。	社会規範の理由や意味を理解した上で、個人の幸福や社会の利益のために適切に運用することの大切さを理解している。
9. 社会的な役割と責任	これから心がけて取り組んでいきたいと思う。	社会生活の適切な関係において、与えられた課題や役割をこなすことを心がけている。	与えられた課題や役割が、自分にとってどのような意味があるのかを考えながら取り組むことを心がけている。	与えられた課題や役割の組織や社会にとっての意味を考えて、責任感を持って取り組むことを心がけている。

実施時期	学年	1 目標の実現	2 主体性と実行力	3 向上心と努力・挑戦	4 知的関心と思考力	5 地域への関心と取り組み	6 情報を使いこなす力	7 相手を尊重したコミュニケーション	8 社会規範の理解と尊重	9 社会的な役割と責任
2016年9月	新入生	Step 3	Step 2	Step 2	Step 3	Step 4	Step 4	Step 4	Step 3	Step 3
2017年3月	1年生	Step 2	Step 4	Step 2	Step 4	Step 2	Step 3	Step 3	Step 2	Step 3
2018年3月	2年生	Step 2	Step 3	Step 3	Step 3	Step 3	Step 2	Step 3	Step 3	Step 2
2018年12月	3年生	Step 3	あてはまらない	Step 2	Step 2	Step 3	Step 3	Step 3	Step 2	Step 2
	4年生									

*グラフでは「あてはまらない(どれにもあてはまらない。質問の意味が分からない。)」,「空欄(無回答)」は0で表示しています。



付録 4 四日市大学成長スケール：教員意見報告書

ご記入は適宜・任意となります。

■調査票について、ご意見・ご感想・ご質問・ご要望・改善点がございましたら、ご記入下さい。

■面談について、ご意見・ご感想・ご質問・ご要望・改善点がございましたら、ご記入下さい。

■学生から、「四日市大学成長スケール」や学生生活全般につきまして、要望・相談・質問・提案等がございましたらご記入下さい。

■その他、「四日市大学成長スケール」全般につきまして、ご意見・ご感想・ご質問・ご要望・改善点がございましたらご記入下さい。

付録5 四日市大学成長スケール：実施の流れ

実施の内容	位置づけ
1. 学生の調査票回答	学生の自己評価
2. 学生と教員の面談	学生と教員の評価の相互確認・確定
3. 結果のとりまとめ	大学全体の分析，個人票作成
4. 学生への個人票配付	学生へのフィードバック
5. 調査票・面談用シートの保管・引継ぎ	学生の成長の過程の記録

あしがき

四日市大学成長スケールのアイデアは、2014年度の四日市大学COC事業採択時に提起されました。運営と実施には、多くの教職員が携わりました。成長スケール開発に際して、ご協力・ご提言下さった地域の皆様に厚く御礼申し上げます。また学会・研究会等でご意見を下さった方々に厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、取り組みに参加してくれた多くの学生の皆様に感謝申し上げます。成長スケールの取り組みが今後の地域および大学教育の発展、学生の成長に寄与することを願っております。

成長スケールの運営組織と担当職務

氏名（役職）	担当職務
小林 慶太郎 （四日市大学教務学生支援担当副学長）	統括責任者
上岡 定行 （四日市大学教学部次長）	統括補佐，学生データの管理
渡辺 ひとみ （四日市大学教学部教学課課長）	実施のスケジュールおよび書式の管理
齋藤 信 （四日市大学総合政策学部特任准教授）	調査の実施と分析，報告書執筆

※肩書きと所属は実施時点のものです。

四日市大学成長スケールに基づく報告書

四日市大学COC事業特定プロジェクト（C）調査分析部会編

発行：四日市大学社会連携センター

2019年03月